

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

C+pod



イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

EV システム

充電に関する情報など
(主な項目：EV システム、充電のしかた)

2

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方
(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

3

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整
(主な項目：キー、ドア、シート)

4

運転

運転に必要な操作やアドバイス
(主な項目：EV システム始動のしかた)

5

室内装備・機能

室内装備の使い方など
(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

6

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法
(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

7

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処
(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

8

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報
(主な項目：各フルード量、タイヤ空気圧)

9

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	20
安全なドライブのために	21
シートベルト	23
SRS エアバッグ	27

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	31
チャイルドシート	31

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	35
-------------	----

2 EVシステム

2-1. EVシステムについて

EVシステムの特徴	38
EVシステムの注意	41
電気自動車運転のアドバイス	45
走行可能距離について	46

2-2. 充電について

充電に関する装備について	48
普通充電ケーブルについて	50
接続可能な外部電源について	57
充電方法について	61
充電に関するアドバイス	63
充電の前に知っておいていただきたいこと	64
普通充電のしかた	66
正常に充電できないときは	72

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて	75
AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと	77
AC 外部給電のしかた	78
正常に AC 外部給電できないときは	85

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	88
計器類	91
ドライブインフォメーションディスプレイ	92

4 運転する前に

4-1. キー

キー	96
----	----

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	100
バックドア	102
スマートエントリー&スタートシステム	105

4-3. シートの調整

シート	109
-----	-----

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	110
インナーミラー	111
ドアミラー	112

4-5. ドアガラスの開閉

スライド式ドアガラス	114
------------	-----

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	116
荷物を積むときの注意	121

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシ ステム非装着車）.....	123
パワー（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシ ステム装着車）.....	125
シフトポジション.....	128
方向指示レバー.....	129
パーキングブレーキ.....	130

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使 い方

ランプスイッチ.....	132
ワイパー&ウォッシャー.....	135

5-4. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	137
PCS（プリクラッシュセーフティ）	141
クリアランスソナー.....	149
PKSB（パーキングサポートブレ ーキ）.....	153
パーキングサポートブレーキ（静止 物）.....	157
運転を補助する装置.....	159

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....	161
-------------	-----

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方

マニュアルクーラー.....	164
シートヒーター.....	166

6-2. 収納装備

収納装備一覧.....	167
-------------	-----

6-3. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	169
アクセサリコンセント （AC100V・1500W）.....	171

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	178
内装の手入れ.....	179

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	181
ガレージジャッキ.....	183
ウォッシャー液の補充.....	184
タイヤについて.....	185
タイヤの交換.....	187
タイヤ空気圧について.....	190
キーの電池交換.....	191
ヒューズの点検・交換.....	194
電球（バルブ）の交換.....	195

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは.....	202
非常点滅灯（ハザードランプ）...	202
発炎筒.....	203
車両を緊急停止するには.....	204
水没・冠水したときは.....	205

8-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	206
警告灯がついたときは.....	210
パンクしたときは.....	217
EVシステムが始動できないときは	228
キーをなくしたときは.....	229
電子キーが正常に働かないときは（ス マートエントリー&スタートシステ ム装着車）.....	230
補機バッテリーがあがったときは	232
スタックしたときは.....	235

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（フルード量など） 238

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 240

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 241

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 244

車から音が鳴ったときは（音さくいん） 246

アルファベット順さくいん 247

五十音順さくいん 248

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしない

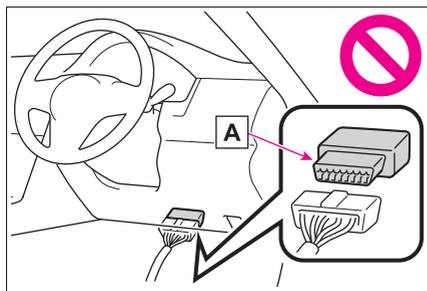
でください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
 異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
 電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ **A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主

の同意）がある場合

- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行

時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

本車両は RF 送信機の取り付けを許容していません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記

載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

運転免許証について

道路交通法上、普通自動車扱いになります。そのため、運転する場合は普通自動車の運転免許証が必要です。

道路運送車両法による区分

ナンバーの色は黄色です。（事業用ナンバーやご当地ナンバーなどを発行している一部自治体を除く）

区分（ナンバーの色）を誤って登録すると、道路運送法違反および軽自動車税の過少納付等と判断される可能性があります。

自動車専用道路（高速道路等）の走行

法律上、高速自動車国道や自動車専用道路は走行できません。（例：自転車や原動機付自転車が走行できない道路）

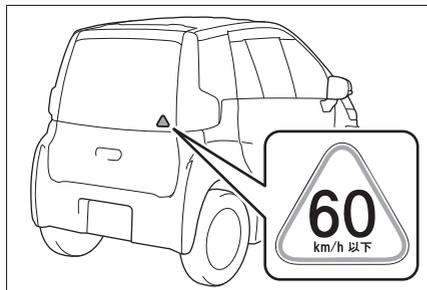
ただし、道路運送法に基づく一般自動車道は走行できます。（箱根スカイラインや伊勢志摩スカイラインなど）

出典：国土交通省ホームページ
https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk1_000002.html

車両後面のラベルについて

最高速度が 60km/h 以下であることを示しています。

このラベルの貼付が保安基準で定められているため、はがさないようにしてください。



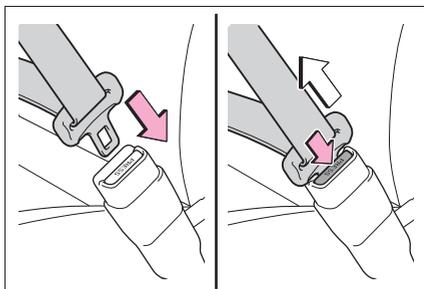
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

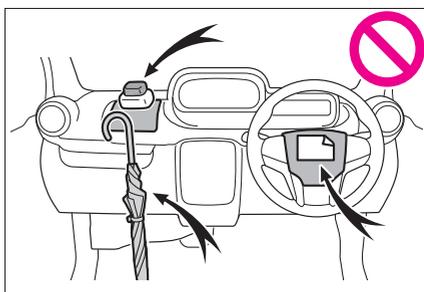
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

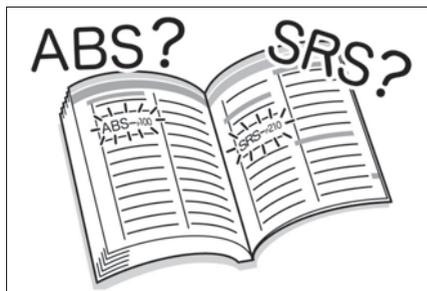


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

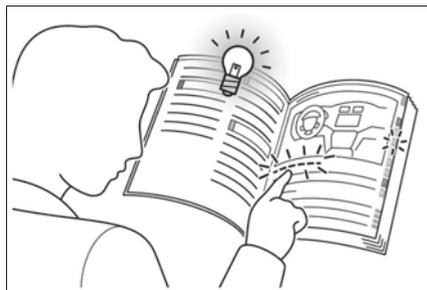
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：P.248
- アルファベット順さくいん：P.247



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：P.12



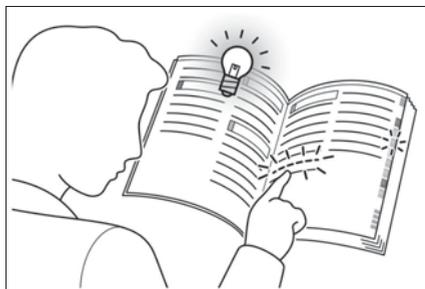
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
P.244
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.246



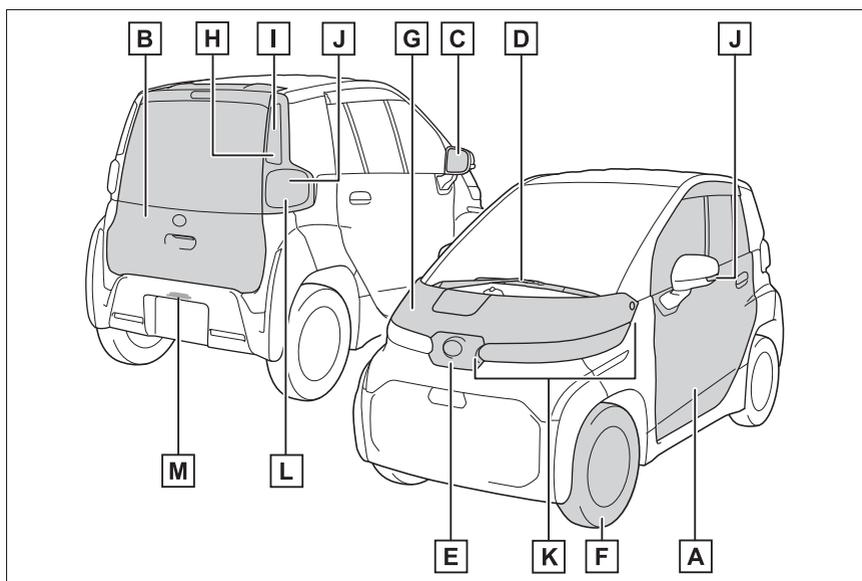
■ タイトルから探す

- 目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.100
	施錠／解錠	P.100
	ドアガラスの開閉	P.114
	メカニカルキーでの施錠／解錠★	P.230
	警告ブザー	P.101
B	バックドア	P.102
	施錠／解錠	P.103
	警告ブザー	P.101
C	ドアミラー	P.112
	鏡面の角度調整	P.112
	ミラーの格納	P.112
D	ワイパー	P.135
	冬季の注意	P.161
E	普通充電ポート	P.48

充電方法.....	P.66
F タイヤ	P.185
サイズ・空気圧	P.239
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.161
点検・ローテーション	P.185
パンク時の対処	P.217
G ボンネット	P.181
開け方	P.181

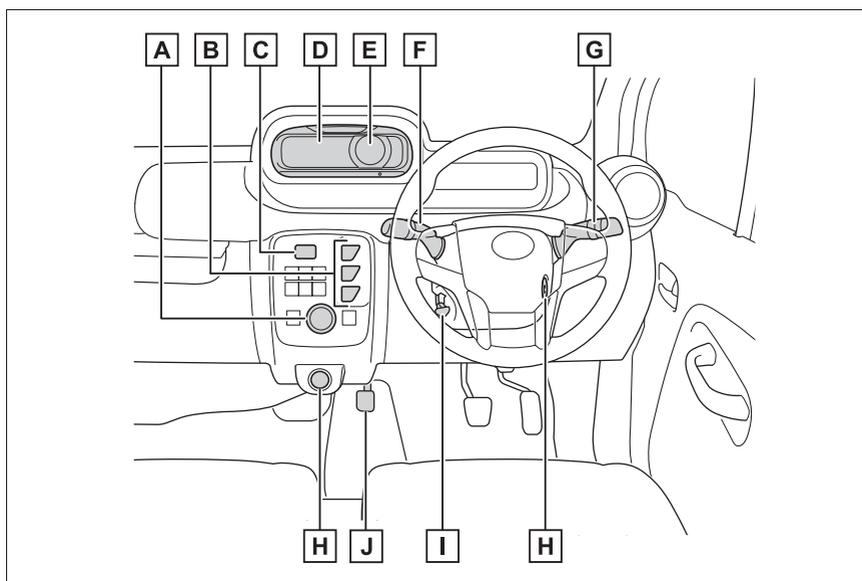
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P.195, ワット数：P.239)

H 制動灯	
I 尾灯	P.132
J 方向指示灯	P.129
K ヘッドランプ・車幅灯・方向指示灯	P.129, 132
L 後退灯	
シフトポジションを R にする	P.128
M 番号灯	P.132

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル

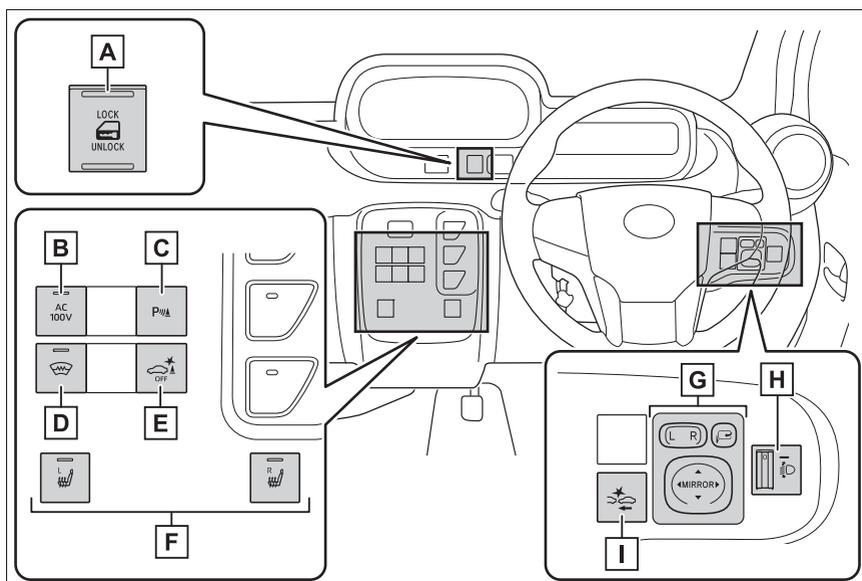


A	マニュアルクーラー★	P.164
	操作方法	P.164
B	シフトスイッチ	P.128
	シフトポジションの切りかえ	P.128
	けん引時の注意	P.206
C	非常点滅灯スイッチ	P.202
D	メーター	P.91
	見方・明るさの調整	P.91
	警告灯／表示灯	P.88
	警告灯点灯時の対処	P.210
E	ドライブインフォメーションディスプレイ	P.92
	表示内容	P.92
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.135
	使い方	P.135

ウォッシャー液の補充	P.184
G 方向指示レバー	P.129
ランプスイッチ	P.132
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P.132
H パワースイッチ	P.123, 125
EV システムの始動・モード切りかえ	P.123, 125
EV システムの緊急停止	P.204
EV システムが始動できないときの対処	P.228
I ハンドル位置調整レバー	P.110
調整方法	P.110
J パーキングブレーキ	P.130
かける・解除する	P.130
警告ブザー	P.130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

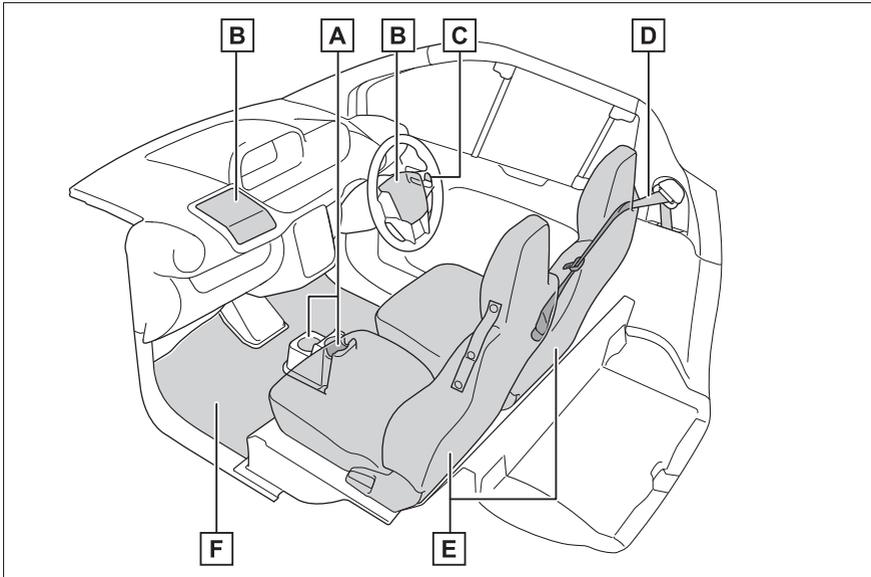
■ スイッチ類



- A** ドアロックスイッチ P.101
- B** AC100V スイッチ★ P.171
- C** クリアランスソナースイッチ P.149
- D** ウインドシールドデフロスタースイッチ P.164
- E** PKSB (パーキングサポートブレーキ) OFF スイッチ P.154
- F** シートヒータースイッチ★ P.166
- G** ドアミラースイッチ P.112
- H** 手動光軸調整ダイヤル P.134
- I** PCS (プリクラッシュセーフティ) スイッチ P.143

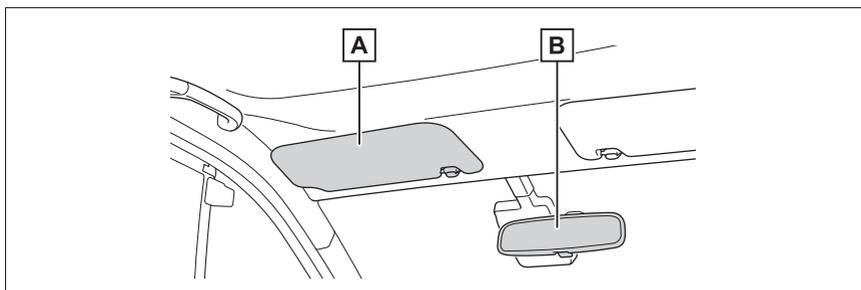
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A	カップホルダー.....	P.167
B	SRS エアバッグ.....	P.27
C	ロックレバー.....	P.101
D	シートベルト.....	P.23
E	シート.....	P.109
F	フロアマット.....	P.20

■ 天井



A サンバイザー ※ P.170

B インナーミラー P.111

※ 助手席にチャイルドシートをうしろ向きに取り付けてはいけないことを示しています。ただし、この車には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。(→P.31)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために**
 - 運転する前に **20**
 - 安全なドライブのために **21**
 - シートベルト **23**
 - SRS エアバッグ **27**
- 1-2. お子さまの安全**
 - お子さまを乗せるときは **31**
 - チャイルドシート **31**
- 1-3. 盗難防止装置**
 - イモビライザーシステム **35**

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

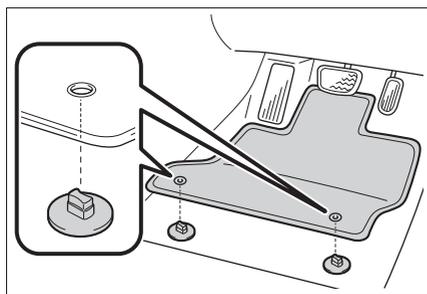
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

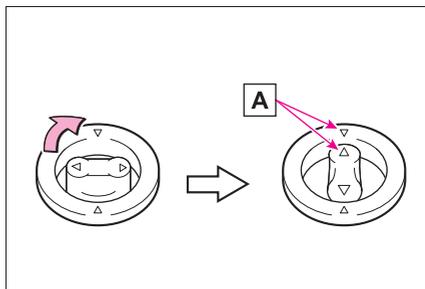
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

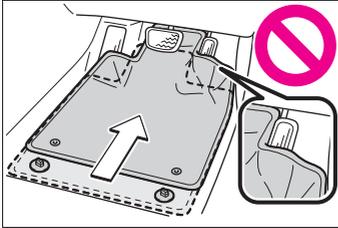
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

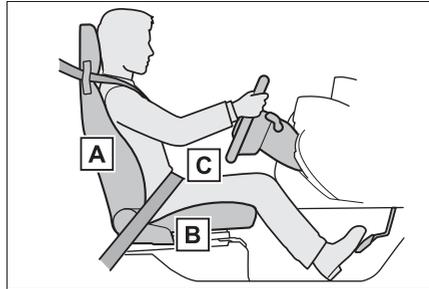


- EV システム停止およびシフトポジションがNの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.109）
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.109）
- C** シートベルトを正しく着用する（→P.23）

警告

■ 安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.23)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.111, 112)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

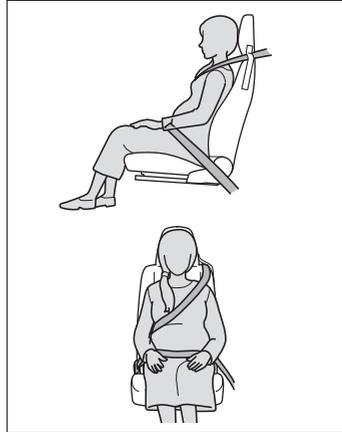
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.24) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.24)

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

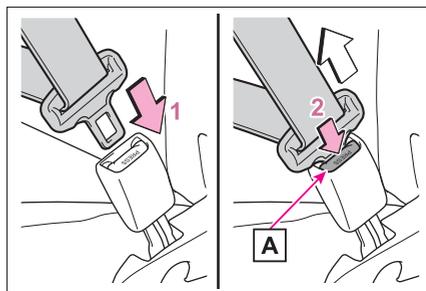
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- この車は子供専用シートを使用することができません。
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

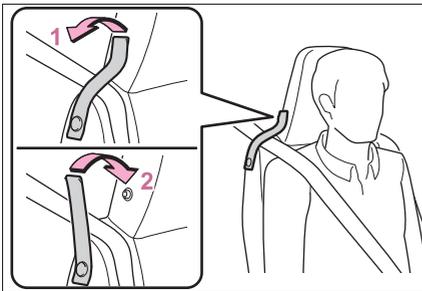
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動か

せば、ベルトを引き出すことができます。
また、シートベルトをシートベルトガイドに通した状態でロックしたまま引き出せないときは、座席の背もたれをうしろに倒すとシートベルトを引き出すことができます。

シートベルトガイド

ベルトガイドにシートベルトを通して使用してください。

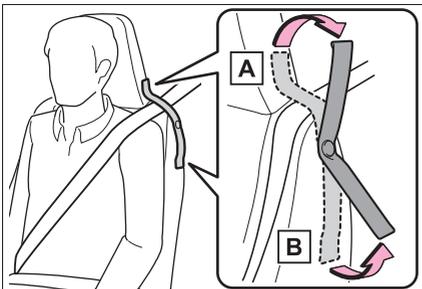
▶ 運転席



- 1 ボタンをはずす
- 2 ボタンを付ける

▶ 助手席

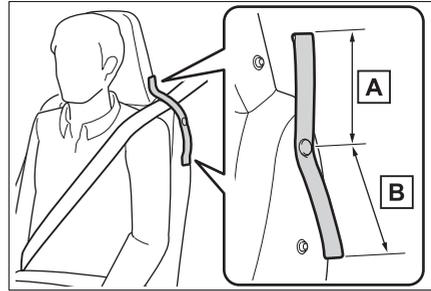
- 1 ボタンをはずす



A 身長 140cm 以上の方

B 身長 120cm 以上 140cm 未満の方

- 2 乗員の身長に合わせシートベルトガイドの使用位置を選択し、シートベルトを通す



A 身長 140cm 以上の方

B 身長 120cm 以上 140cm 未満の方

- 3 ボタンを付ける

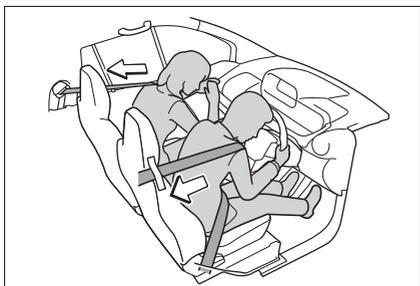
⚠ 警告

■ シートベルトガイドを使うときは

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っばったりしないでください。

シートベルトプリテンショナー



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

□ 知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

▲ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

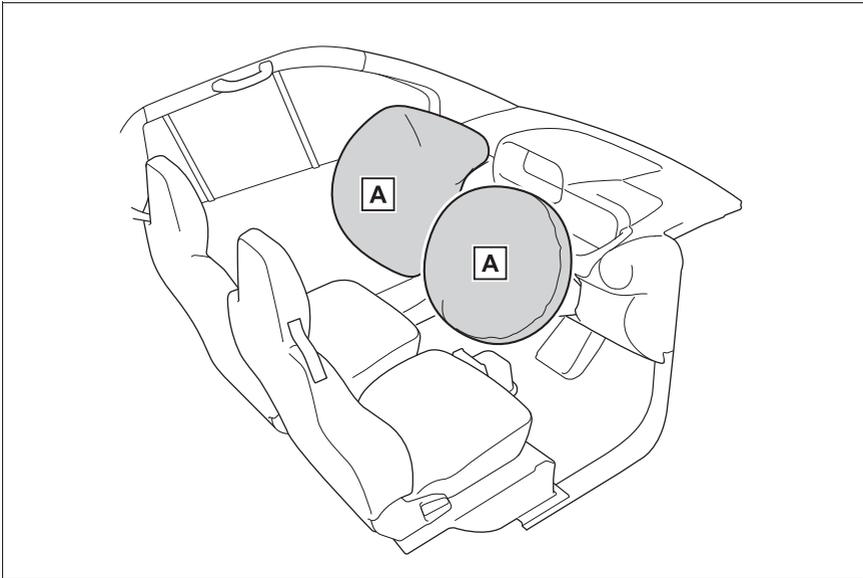
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します



知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- 運転席・助手席の一部分などだけでな

く、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなりません。

- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強

さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20～30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

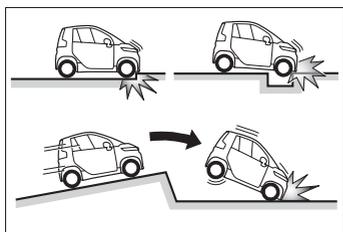
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

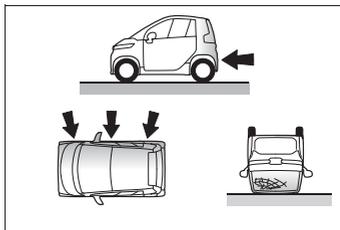
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

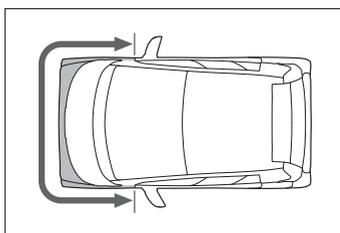
- 側面からの衝撃
- 後方からの衝撃
- 横転



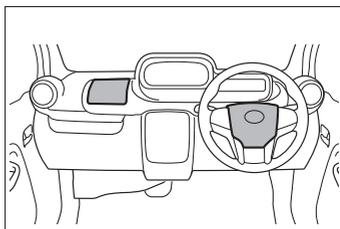
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

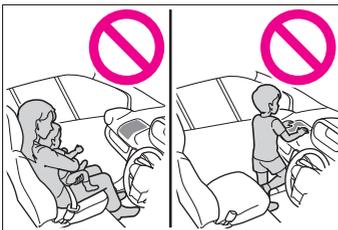
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

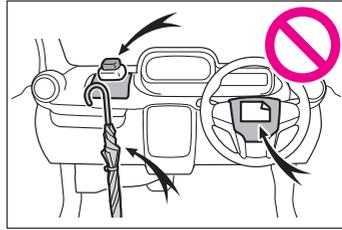
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告**

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボードなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。(→P.23)
- 小さなお子さまにはボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシート

この車には、チャイルドシートを取り付けることができません。

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを取り付けた場合、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席サンバイザーに凶のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートをうしろ向きに取り付けてはいけないことを示しています。ただし、この車には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。

警告

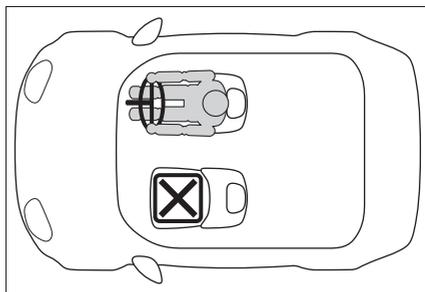


警告

- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故や急停止の際、お子さまがウィンドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



 チャイルドシートの取り付けに適合していません。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置	
シート位置	助手席
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	×
アイサイズ着座位置（有／無）	×
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×

着座位置	
シート位置	助手席
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具 (R1/R2X/R2/R3)	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具 (F2X/F2/F3)	×
搭載可能なジュニアシートの治具 (B2/B3)	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置
		助手席
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置
		助手席
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×
II、III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	×

イモビライザーシステム★

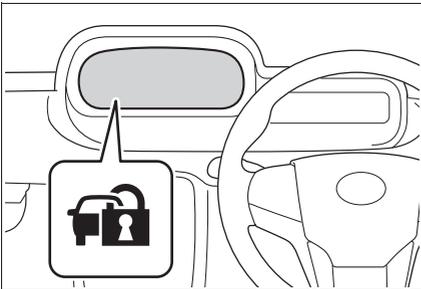
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではEVシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをACCまたはONにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴.....	38
EV システムの注意.....	41
電気自動車運転のアドバイス.....	45
走行可能距離について.....	46

2-2. 充電について

充電に関する装備について.....	48
普通充電ケーブルについて.....	50
接続可能な外部電源について.....	57
充電方法について.....	61
充電に関するアドバイス.....	63
充電の前に知っておいていただきたいこと.....	64
普通充電のしかた.....	66
正常に充電できないときは.....	72

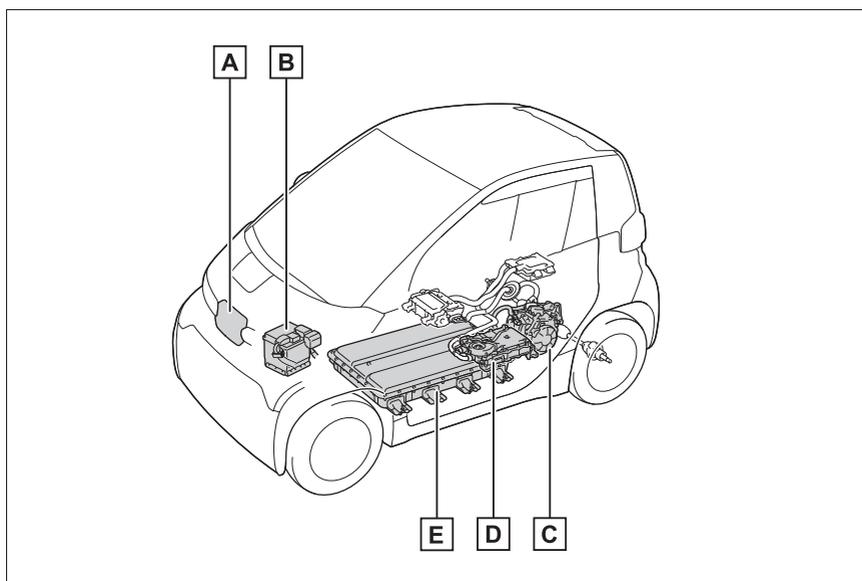
2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて..	75
AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと.....	77
AC 外部給電のしかた.....	78
正常に AC 外部給電できないときは.....	85

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、CO₂（二酸化炭素）や、NO_x（窒素酸化物）などを排出せず、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 普通充電ポート

B 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

C 電気モーター（駆動モーター）

D 車載充電器

E 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ） 車輪が電気モーターを発電機とし

て動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について (→P.48)
- 普通充電ケーブルについて (→P.50)
- 接続可能な外部電源について (→P.57)
- 充電の前に知っておいていただきたいこと (→P.64)
- 充電方法について (→P.66)
- 正常に充電できないときは (→P.72)

知識

● 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはRで走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトポジションがDまたはRで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

● 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているときに、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。

(→P.232)

■ 車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、すみやかに車両から取りはずしておいてください。

■ 駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池残量警告灯が点灯または点滅します。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音
- ラゲージルーム下からのモーター音、ギャ音
- EV システム始動時および停止時に車両ラゲージルーム下から聞こえるリレアーの音

- 次のような場合は、“コトン”、“カチツ”などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
 - ・ EV システムが始動または停止したとき
 - ・ 充電が開始または終了するとき
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音
- 空調システム（空調コンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。



■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

H 車載充電器

I 電気モーター（駆動モーター）

J DC-DC コンバータ

K サービスプラグ

知識

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.65の“駆動用電池の容量低下について”に記載されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、EVシステムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動

用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

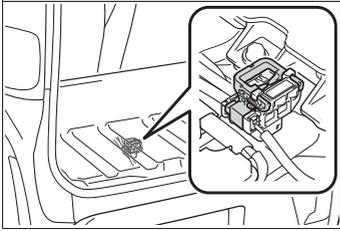
この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はEVシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

警告

- サービスプラグがラゲージルーム下に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

- 後輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.206）

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタールにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 電気自動車は走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。
床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

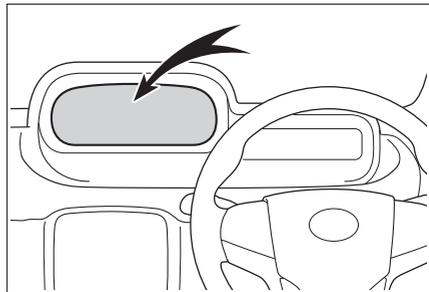
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。(→P.210)



知識

■ 警告灯が点灯したときや補機バッテリーとの接続が断れたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販

売店にご連絡ください。

■ 駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池残量警告灯が消灯するまで、十分に充電してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。シフトポジションを N にしても、電費向上の効果はありません。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょ。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON/OFF

必要時以外はクーラースイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

走行可能距離について

ドライブインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

ドライブインフォメーションディスプレイに表示する値（→P.92）は、現在の駆動用電池残量から推定しています。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物を積まないように心がける

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

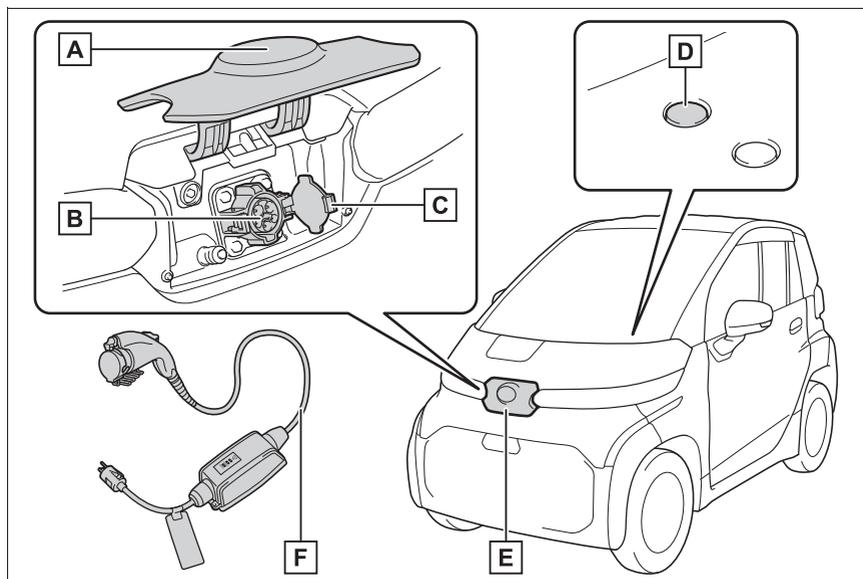
- インstrumentパネル上の充電インジケーターが消灯する

接続する電源（100V・200V）に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関する装備について

この車両には外部電源と車両とを接続するための普通充電ケーブルなどが装備されています。

充電装備と名称



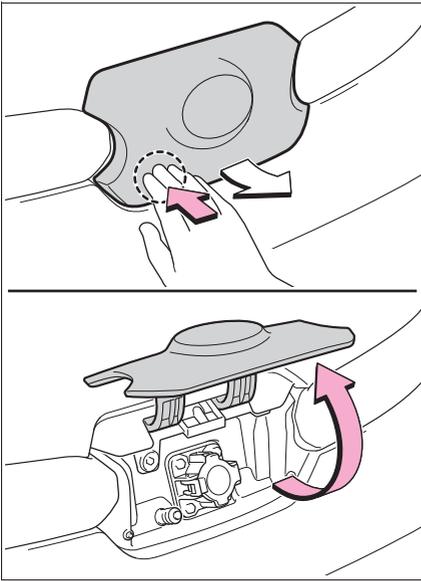
- A** 普通充電リッド (→P.48)
- B** 普通充電インレット
- C** 普通充電インレットキャップ
- D** 普通充電インジケータ (→P.49)
- E** 普通充電ポート
- F** 普通充電ケーブル (→P.50)

充電リッドの開閉

■ 充電リッドの開け方

充電リッドの下端 (図に示す位置) を押し、充電リッドを開ける。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。

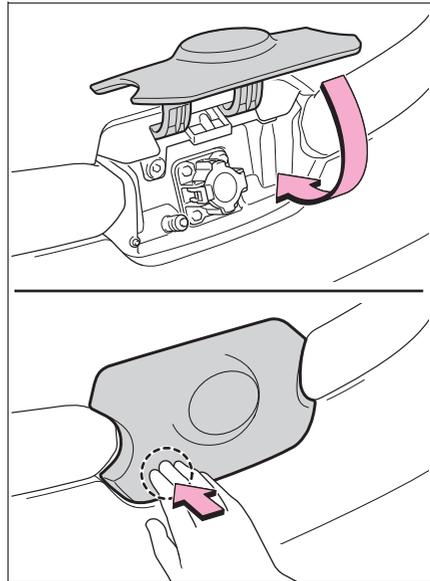


■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの下端（図に示す位置）を押す。

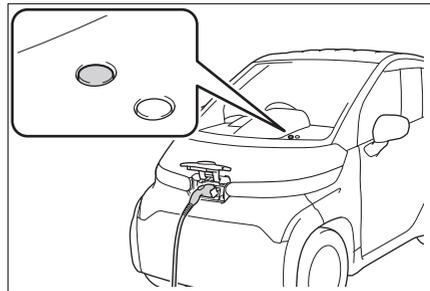
充電リッドが開いていないことを確認してください。

充電ケーブルを使用していないときは、必ず充電リッドを閉めてください。



普通充電インジケータ

点灯・点滅により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	普通充電・AC 外部給電 ※1 中
速い点滅 ※2	電源または車両の異常などにより普通充電ができない状況（→P.74）のとき

点灯・点滅パターン	車両の状況
遅い点滅 ※3	AC 外部給電システム ※1 の給電開始操作の待機中
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクター★が普通充電インレットに挿し込まれていないとき ・ 普通充電が終了したとき

※1 AC 外部給電システム：→P.75

※2 約 15 秒間点滅します。

※3 約 8 秒間点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

警告

■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない

警告

- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクタに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

■ 電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。
- 電源プラグ・普通充電コネクタを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりとまわす
- 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

注意

■ 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクタは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクタを挿し込んだあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクタを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P.66

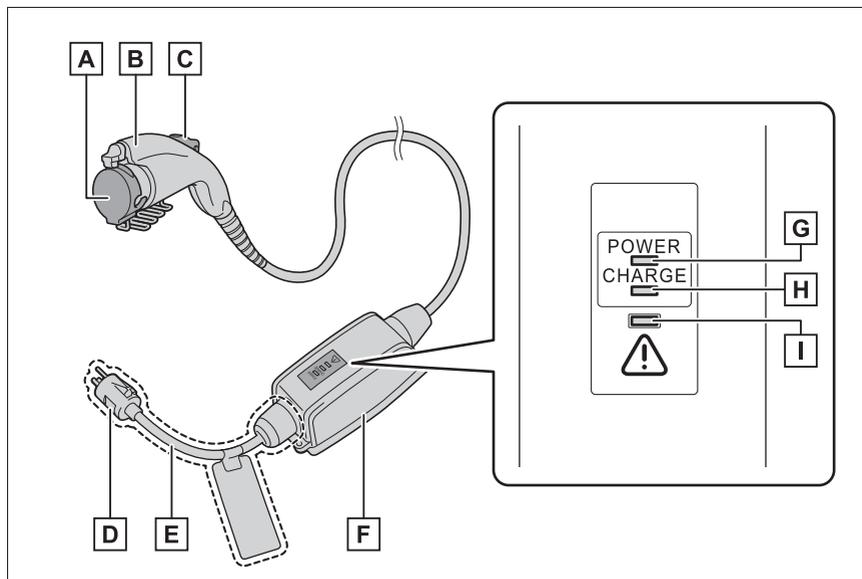
■ 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

■ 電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



- A** 普通充電コネクタキャップ
- B** 普通充電コネクタ
- C** ロック解除ボタン
- D** 電源プラグ
- E** 電源プラグコード※
- F** コントロールユニット
- G** 電源インジケータ (→P.53)
- H** 充電インジケータ (→P.53)
- I** エラーインジケータ (→P.53)

※ 接続する電源電圧 (200V または 100V) に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。(→P.54)

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、

次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケータが点滅します。(電気が遮断された場合の対処方法については、P.53 を参照してください)

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケータの点滅でお知らせします。(→P.53)

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケータの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケータが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケータが消灯するか確認してください。

エラーインジケータが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

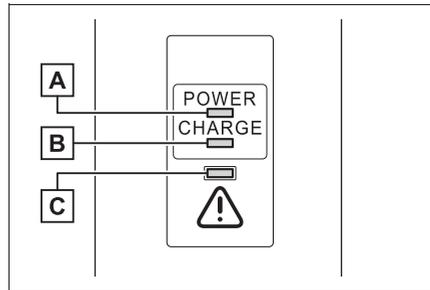
消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

充電コネクタに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケータについて

■ 各インジケータの働き

3つのインジケータで、それぞれ次の状態を示します。



A 電源インジケータ

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケータ

充電中に点灯します。

C エラーインジケータ

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

状況	電源インジケータ	エラーインジケータ	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。*1 → トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。*2 → 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → トヨタ販売店にご相談ください。

*1この場合、充電電流が制限されずに充電されます。

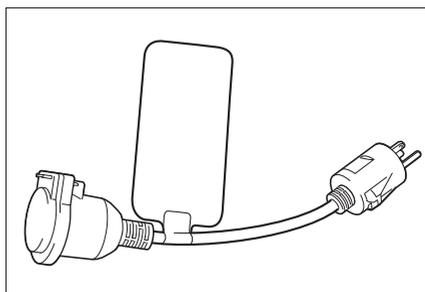
*2この場合、充電電流を制限して充電されます。

電源プラグコードの交換★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

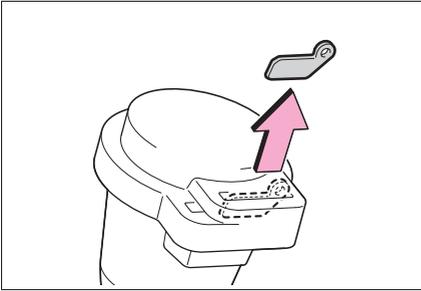
- 1 普通充電ケーブル (→P.52) と交換用電源プラグコードを用意する



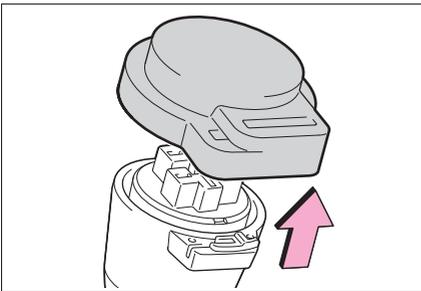
- 2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないように

ご注意ください。

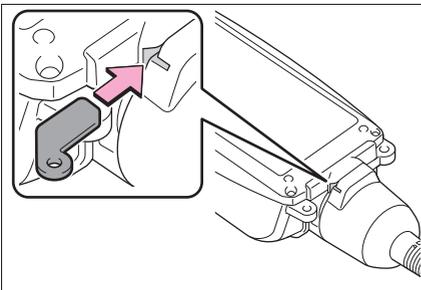


3 保護キャップを取りはずす



4 コントロールユニットの解除穴に解除キーを挿し込む

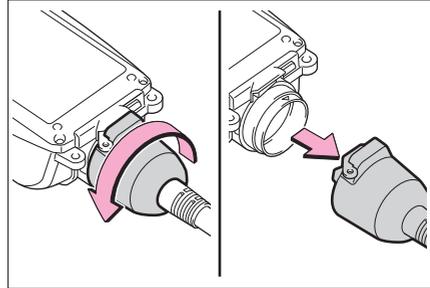
解除キーは図の向きで挿し込んでください。



5 コントロールユニットの解除穴に解除キーを奥まで挿し込んだまま、電源プラグコードのナット部をまわして、電源プラグコードを取りはずす

電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

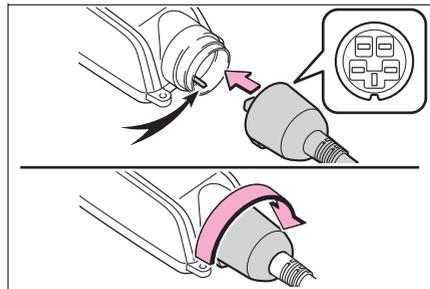
電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。



6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクタの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ” という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャ

ブに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

警告

■ 日常点検について

定期的な次のことを確認してください。点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに破損がないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

警告

■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■ 契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力[※]をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

[※] 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■ 充電環境について

● 必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載され

ている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- ・ 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 1.7kW で充電されます。
- ・ 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。
- 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

■ 200V 電源を使用する場合

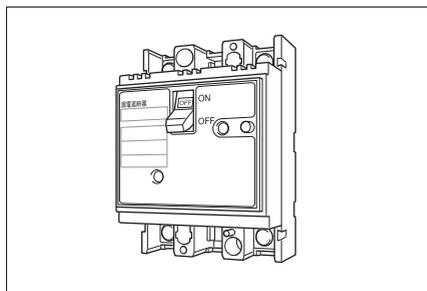
- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- 200V 電源で 16A (100V 換算で 32A) の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。[※]

[※] 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

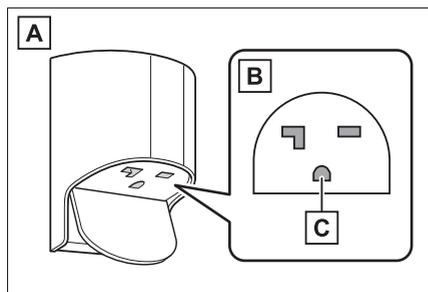
- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。[※]

[※] 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- EV専用コンセントに接続してください。



A EV専用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322 (200V)

B 200V コンセント極配置*

JIS C 8303

2極接地極(アース)付コンセント

20A 250V

C 接地極(アース)

* 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

■ 100V 電源を使用する場合*

* 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを100V用のものに交換してください。(→P.54)

- ブレーカーの容量を確認してください。この車の充電時には、

100Vで最大6Aの電流が流れます。余裕をみて、20Aのブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。*

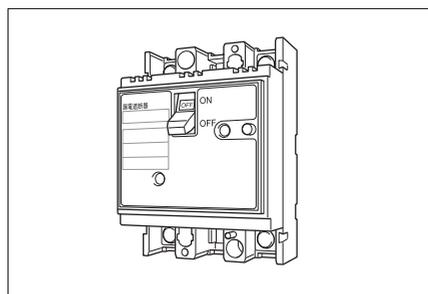
ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

* 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

- 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。(主幹含む)

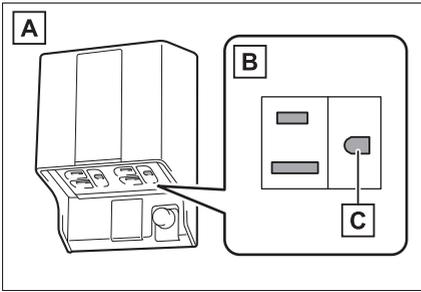
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。*

* 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。*

* 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形100Vコンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

電用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4632 (100V)

B 100V コンセント極配置※

JIS C 8303

2 極接地極 (アース) 付コンセント

15A 125V

C 接地極 (アース)

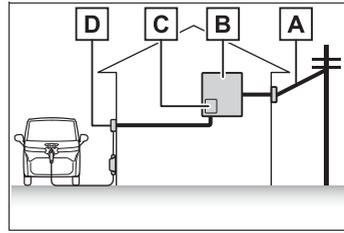
※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

知識

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (200V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。*



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

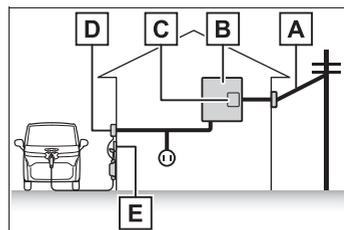
D 専用コンセント (→P.57)

専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き差しをより安全に行うことができます。

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (100V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線**B** 分電盤**C** 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント

(→P.58)

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き差し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。

充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

E フック

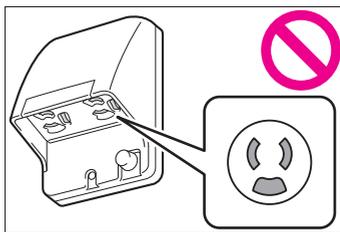
普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

警告**■ 電源についての警告**

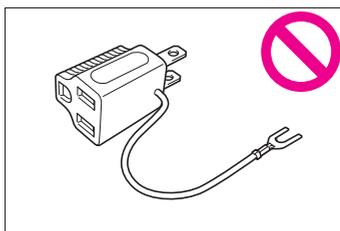
充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

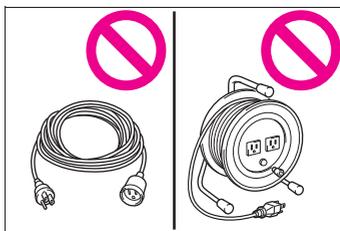
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。

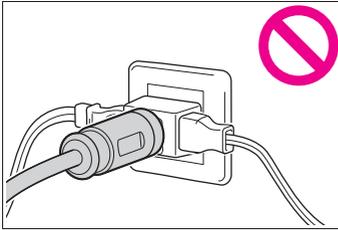


- 必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.53）が働かなくなるなどの原因になります。



警告

- タコ足接続はしないでください。



- 普通充電コネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

普通充電

AC コンセント（200V または 100V）と車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

充電時間の目安

駆動用電池の充電に必要な時間は、供給電圧と充電電流によって異なります。

100V 電源よりも 200V 電源のほうが短時間で効率よく充電できるため、200V 電源での充電をおすすめします。

接続電源	充電器 (スタンド)	普通充電ケーブル	
	普通充電		
供給電圧	200V 電源	200V 電源	100V 電源
充電電流 ※1	16A	16A	6A
充電時間 ※2	約 5 時 間	約 5 時 間	約 16 時 間

※1 数値は最大値です。

※2 駆動用電池の残量・外気温・充電器(スタンド)の仕様などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわりません。

知識

■ 充電時間が長くなる時

次のような場合は、充電時間が通常より長くなる場合があります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）
- 充電中に停電したとき
- 電源が切れたとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したと

き

- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 普通充電器（スタンド）で供給電力を調整しているとき

■ 充電電力について

この車両は最大約 2kW の充電が可能です。

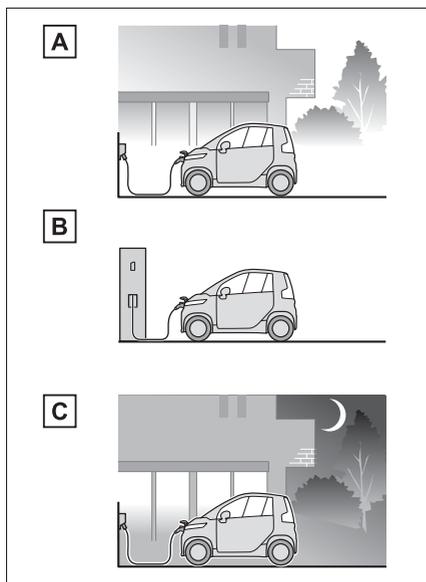
ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

充電に関するアドバイス

この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、電気自動車の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。



A お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。(→P.66)

B ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。

C 帰宅したら

次回のドライブのために、駆動用電池を

充電しておきましょう。

充電に関する情報を確認するには

■ 充電中は



充電中にドアを開けると、メーターにおおよその電池残量を一定時間表示します。

充電開始直後にも表示されます。

表示される電池残量は10単位の目安です。

■ 充電が終わったあとは

普通充電インジケーターが消灯し、充電終了をお知らせします。(→P.49)

充電の前に知っておいていただきたいこと

車両に充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■ 充電電流について

普通充電の最大電流は 16A です。ただし、普通充電器（スタンド）の最大電流によっては、充電電流は 16A よりも小さくなる場合があります。

■ 安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。（→P.212）
- READY インジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。（→P.212）
- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、シフトポジションを切りかえられません。

警告

■ 充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペースングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 充電時は、普通充電器（スタンド）、充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトスイッチを操作したり、パーキングブレーキを解除したりしないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合はシフトポジションが切りかわったり、車両が動いたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→P.62）
- お客さまの充電環境によっては、屋外で充電作業を行う

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけ

で充電作業を行わないでください。

- 充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→P.130）
- ヘッドランプ、非常点滅灯などのランプ類が消灯していること
ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.123, 125）

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部分の状態に異常がないかご確認ください。（→P.56）

知識

■ 駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんばんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが

著しく低下するものではありません。

■ 充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■ 駆動用電池への充電量が減少するとき

普通充電器（スタンド）の供給電力が小さい場合、駆動用電池への充電量が減少することがあります。

■ 極寒の環境での充電について

外気温が著しく低くなっている場合（およそ -20℃以下）では、充電ができなくなる場合があります。

普通充電のしかた

ここでは、車両に付属の普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法をご確認ください。



注意

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクタを抜く
- 普通充電コネクタの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクタを揺するなど振動を与えない
充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ★以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する
- 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。

- 普通充電インレットの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。思わぬ故障や事故の原因になって、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電前の重要確認事項

→P.64

充電するときは

- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

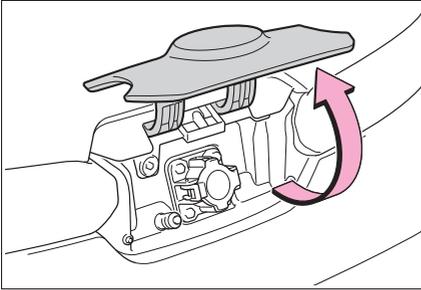
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

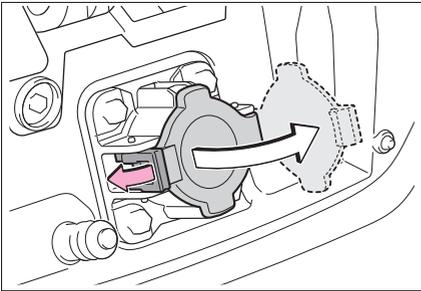
コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.72を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。

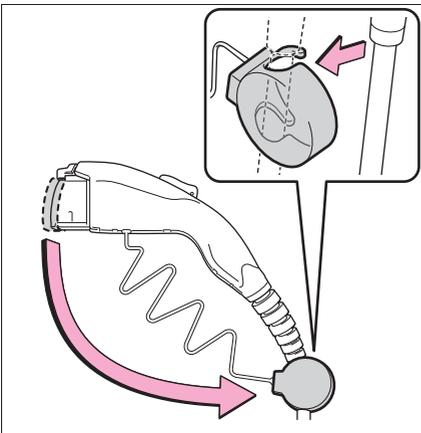
3 普通充電リッドを開ける (→P.48)



4 ツメをはずし、普通充電インレットキャップを開ける



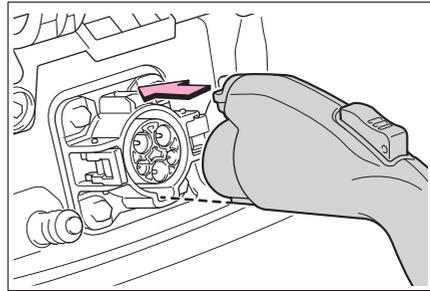
5 普通充電コネクタの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する



6 普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっばいまで押し込みます。

“カチッ”という音が生じて、普通充電コネクタが確実にロックされたことを確認してください。



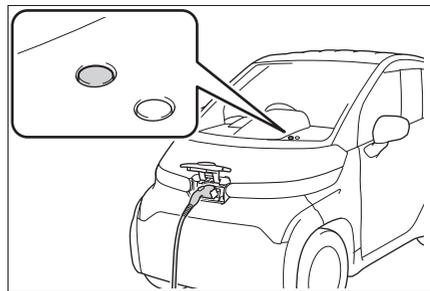
7 インstrumentパネル上の充電インジケータが点灯していることを確認する

普通充電インジケータが点灯していないときは、充電が開始されていません。(→P.49)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したときは、P.69の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケータが消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケータが消灯します。その場合は、P.72の記載をご確認ください。



知識

■ 充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。
- 普通充電中、メーターで現在の充電状態を確認することができます。
(→P.63)
- 充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているフロア左側下
(→P.41) 周辺が温かくなることがあります。
- 充電コネクタ接続表示灯が点灯します
(→P.70)

■ 車を長期間使用しないとき

→P.39

■ 普通充電時の充電時間について

→P.62

■ 充電時間が長くなるとき

→P.62

■ 安全機能について

普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクタを抜いてから再度、普通充電コネクタを挿し直して、インストールメントパネル上の充電インジケータが点灯することを確認してください。

警告

■ 充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→P.57)
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの(針金など)でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
- 充電を中断するときは、普通充電器(スタンド)の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する

⚠ 警告

- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
 - 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
 - 落雷の可能性のある天候のときは充電を行わない
 - 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
 - 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットを車両で踏まない
 - 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
 - 延長コード・変換アダプターを使用しない
- **普通充電コネクタを接続するとき**
- 普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って普通充電コネクタを接続してください。普通充電コネクタが正しく接続されていない場合、システムがコネクタの接続を認識できず、EVシステムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EVシステムを始動する前に、必ず普通充電コネクタを車両の普通充電インレットから取り外してください。もしコネクタが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.53 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケータが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■ 車載充電器について

フロア左側下（→P.41）に充電器があります。充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。普通充電インレットが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

■ 自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

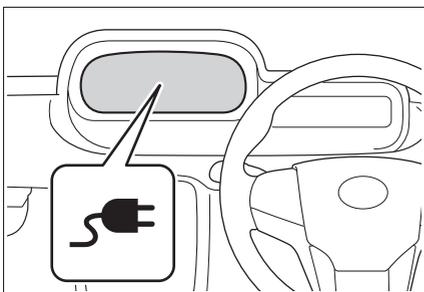
■ 駆動用電池の充電について

普通充電時、供給する電源が小さい場合、走行可能な距離は一時的に減る可能性があります。

■ 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

充電中は



車両に普通充電コネクタを接続しているときは、パワースイッチがONのときにメーター内に充電コネクタ接続表示灯が点灯します。

📖 知識

■ 充電コネクタ接続表示灯が点滅したときは

普通充電コネクタ接続中に始動操作をしたときや、READY インジケータ一点灯中に普通充電コネクタを接続したとき、表示灯が点滅することがあります。その場合は充電コネクタを取りはずし、再度操作をやりなおしてください。

■ AC 外部給電システム★の使用中は

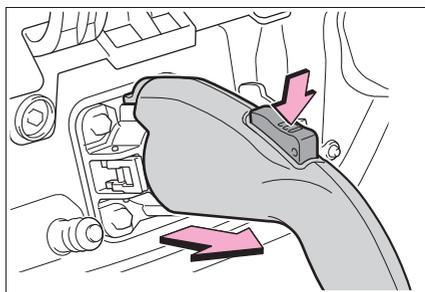
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両にヴィークルパワーコネクタを接続しているときも充電コネクタ接続表示灯が点灯します。(→P.78)

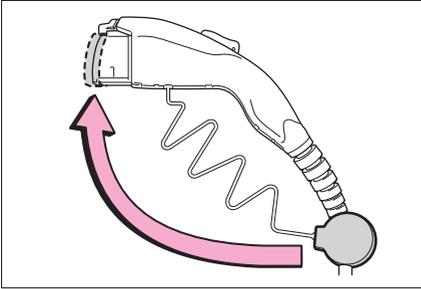
充電したあとは

- 1 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクタを取りはずす

普通充電中（充電インジケータ一点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止されます。



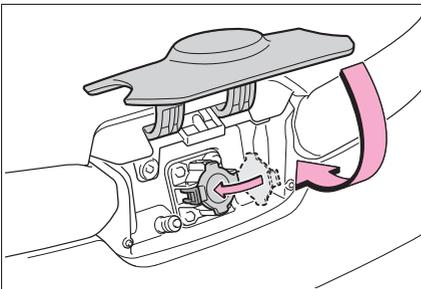
2 普通充電コネクターの保護 キャップを取り付ける



3 普通充電インレットキャップを 閉め、カチッと音が鳴ったこと を確認し、充電リッドを閉める

充電リッドが開いていないことを確認してください。(→P.49)

充電ケーブルを使用していないときは、必ず充電リッドを閉めてください。



4 長期間使用しないときは、コン セントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。(→P.71)

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。

知識

■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計(→P.92)が満充電の状態になっていても、パワースイッチをONにすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

対処方法に従っても正常に作動しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設置されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かをご確認ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールユニットから電源プラグまでのあいだに断線が発生している	ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケータが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。(→P.53) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクタを接続してもインストルメントパネル上の充電インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに確実に接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
普通充電コネクタが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、インストルメントパネル上の充電インジケータが点灯していることを確認してください。 <p>普通充電コネクタが確実に接続されているのにインストルメントパネル上の充電インジケータが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。</p>
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

■ インstrumentパネル上の充電インジケーター (→P.49) が点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
外部電源、または車両に異常が発生している	正しい手順にしがって再度充電操作をやりなおしてください。(→P.66) 正しい手順に従っても充電が開始されない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

AC 外部給電システムについて★

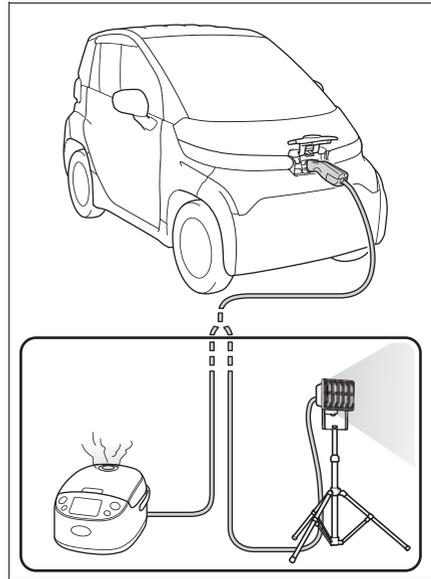
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この車の AC 外部給電システムは、車両から屋外での外部給電が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

AC 外部給電システムについて

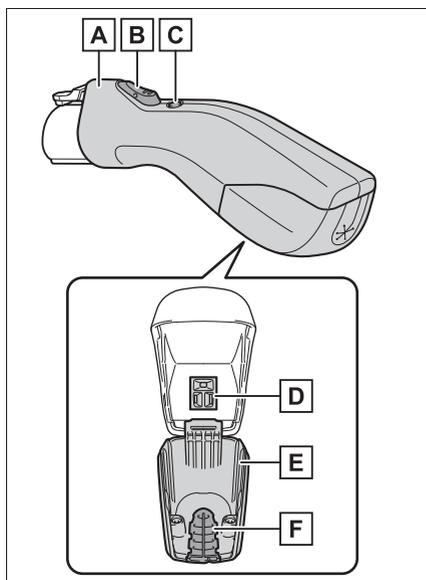
普通充電インレットに専用変換アダプタ（ヴィークルパワーコネクタ）を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下※の電気製品を使用することができシステムです。



※ ヴィークルパワーコネクタの車外コンセント、および車内のアクセサリコンセント（→P.171）に接続する電気製品の、最大消費電力の合計が 1500W 以下であることが必要です。

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用して AC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



A ヴィークルパワーコネクタ

B ロック解除ボタン

C 電源スイッチ

D 車外コンセント

E 防水カバー

F 防水ゴム

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 分解・修理・改造・塗装をしない
異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない
水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 車外コンセントにほこりなどの汚れが付着しないようにする
- 対応していない、ほかの車両には接続しない

AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC 外部給電システムを安全にお使いいただくため、ご使用前には次の事項をご確認ください。

警告

■ ご使用前の点検について

次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

- 電源プラグに破損・変形などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止してください。

- 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

- 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

- ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■ 車外コンセントの交換について

電源プラグを車外コンセントに挿し込んでもゆるいときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光が当たらない場所に保管してください。

AC 外部給電のしかた★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

AC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること (→P.130)
- ヘッドランプなどが OFF になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること (→P.123, 125)
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

AC 外部給電を開始するときは

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
 - 1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを ON にまわす (→P.124)
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
 - 1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを 2 回押して、ON にする (→P.127)

ブレーキペダルを踏んだままパワース

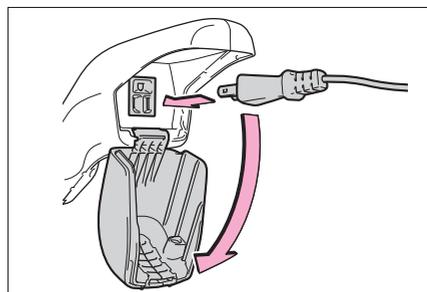
イッチを押すと、EV システムが始動してしまい、AC 外部給電システムが使用できません。

2 ヴィークルパワーコネクタを用意する

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認する (→P.77)

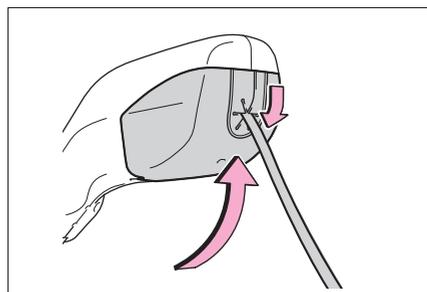
3 ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。



4 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認してください。

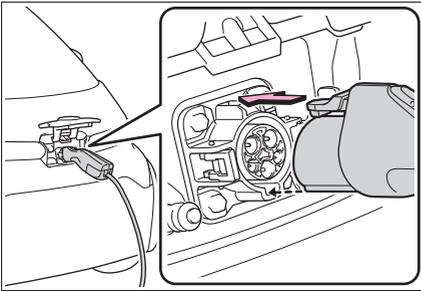


5 充電リッドを開け (→P.48)、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にある

ガイドの位置を合わせて、まっすぐに
いっばいまで挿し込み、“カチッ”と
いう音がして、確実にロックされたこと
を確認してください。

挿し込むときは、ロック解除ボタンを押
さずに挿し込んでください。

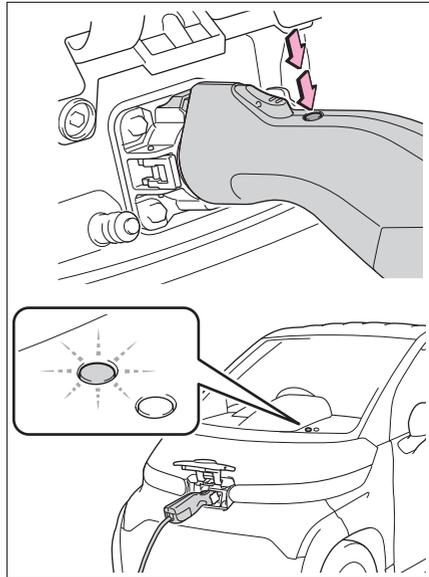


6 ヴィークルパワーコネクタの電 源スイッチを2回連続で押す

インストルメントパネル上の充電インジ
ケーターがゆっくり点滅します。
(→P.49)

電源スイッチを2回連続で押す間隔が3
秒以上空いたり、2回よりも多く押し
たりした場合は、充電インジケーターは点

滅しません。



7 充電インジケーターが点滅から 点灯にかわったら、接続した電 気製品の電源をONにする

充電インジケーターは一定時間点滅しま
す。点滅中は AC 外部給電が開始されて
いないため、点灯にかわるまでお待ちく
ださい。(AC 外部給電が開始されないこ
きは：→P.85)

車内のアクセサリコンセント について

AC 外部給電システムを使用してい
るときは、車内にあるアクセサ
リコンセントからも電源を取り
出すことができます。

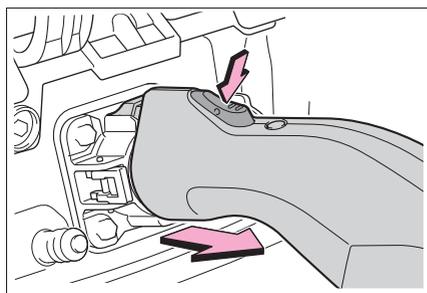
AC 外部給電システムの使用中は、
AC100V スイッチを押さなくてもアク
セサリコンセントを使用できます。ま
た、AC100V スイッチを押して OFF に
することはできません。

アクセサリコンセントの使用方法につ

いては P.171 を参照してください。

AC 外部給電を停止するときは

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 車両のパワースイッチを OFF (→P.124, 127) にする
- 3 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす



- 4 車外コンセントから電源プラグを取りはずす

知識

■ AC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションを切りかえることはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったりすることがあります。
- 充電コネクタ接続表示灯が点灯します (→P.70)

■ AC 外部給電システムについて

- AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してく

ださい。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、車外コンセント、および車内のアクセサリコンセントが使用できなくなりますが、故障ではありません。なお、保護機能が作動したときに音がすることがありますが、異常ではありません。

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
- AC 外部給電システムの起動中に、電気製品によっては大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、AC 外部給電システムが停止することがありますが、故障ではありません。その場合は、いったん電気製品の電源を OFF にし、電源プラグを挿し直してから、再度、AC 外部給電を開始してください。

- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

■ 車外コンセントに接続する電気機器について

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が高い電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■ 電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、

50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ AC 外部給電システムを使用しているとき

- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために AC 外部給電システムが自動で停止することがあります。
その場合はエアコンを使用するか、いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、AC 外部給電を開始してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、AC 外部給電システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてからご使用ください。
- AC 外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。AC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

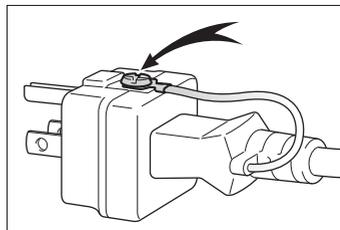
■ AC 外部給電システムを使用するときの警告

- 使用中は車両から離れない
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車内のアクセサリーコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認する
AC 外部給電を開始したときに、車内のアクセサリーコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子様にはヴィークルパワーコネクタを使用させない
- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない
使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。
- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続するヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

⚠ 警告

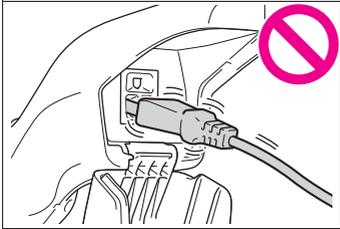
- 本来の用途以外には使用しない
コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の外部給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 落雷の可能性がある天候のときは AC 外部給電システムを使用しない
使用中、雷に気付いたときには AC 外部給電システムを停止してください。
- 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部および、普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセントに金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- 車外コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをする
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さない
すでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、電源プラグやコンセントをぬらさない
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する

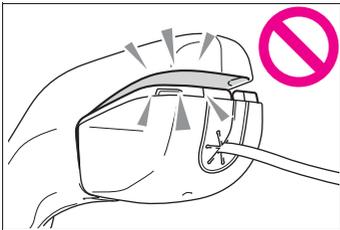


警告

- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込む
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる
確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



- ヴィークルパワーコネクタおよび充電リッドの上に重量物を置いたり、ものを引っかけたりしない



- 異常な発熱を感じたらただちに使用を中止する

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

■ 車両にヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

シフトスイッチを操作したり、パーキングブレーキを解除したりしないでください。

万一、ヴィークルパワーコネクタが故障していた場合はシフトポジションが切りかわったり、車両が動いたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ エアコンの使用に関する警告

AC 外部給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。

AC 外部給電中にエアコンを使用しても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

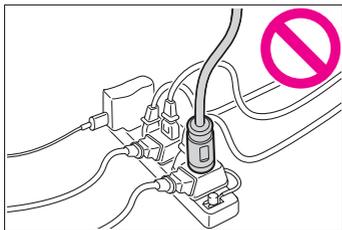
⚠ 注意

■ AC外部給電システムを使用するときの注意

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- AC100V以外の電気製品を接続しない
- 最大消費電力の合計が1500Wをこえないようにする
また、振動や熱などに弱い電気製品を使用しないでください。
- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しない
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたら直ちに使用を中止してください。



- 車外コンセントにほこりやごみが付着していないことを確認する
車外コンセントは定期的に清掃してください。

- 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えない
AC外部給電を停止することがあります。

■ 電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続するとき

- 電源プラグを車外コンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。
- 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。

■ AC外部給電システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、車両のパワースイッチをOFFにし、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。
電気製品の電源とパワースイッチをOFFにしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。
普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

正常に AC 外部給電できないときは★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

正しい手順に従って作業しても AC 外部給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

対処方法に従っても正常に作動しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、“カチッ”と音がするまで確実に挿し込んでください。
スマートエントリー&スタートシステム装着車：ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートエントリー&スタートシステム非装着車：パワースイッチを ON にまわしてください。 ・スマートエントリー&スタートシステム装着車：パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押し、ON にしてください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→P.92）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→P.66）
ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを 2 回押し間隔が長すぎる、または電源スイッチを 2 回よりも多く押している	電源スイッチは、約 3 秒以内に 2 回連続で押してください。（→P.78）

考えられる原因	対処方法
最大消費電力の合計が規定容量を超えている、または電気製品が故障している（保護機能が働いている）	以下を確認し、再度、AC 外部給電を開始してください。（→P.80） <ul style="list-style-type: none">・ 電気製品の電源プラグを抜き、コンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認する・ 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないか確認する
炎天下などで車内が高温になっている、または外気温が極端に低い（保護機能が働いている）	「AC 外部給電システムを使用しているとき」（→P.81）の記載に従って対処してください

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	88
計器類	91
ドライブインフォメーションディスプレイ	92

警告灯／表示灯

メーターの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



(赤色)

ブレーキ警告灯 ※ (→P.210)



(黄色)

ブレーキ警告灯 ※ (→P.210)



出力制限警告灯 ※ (→P.210)



EV システム過熱警告灯 ※
(→P.211)



(点滅または
点灯)

補機バッテリー充電警告灯 ※
(→P.211)



SRS エアバッグ／プリテン
ションナー警告灯 ※ (→P.211)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※ (→P.211)



EV システム異常警告灯 ※
(→P.211)



ペダル誤操作警告灯 ※
(→P.212)



半ドア警告灯 (→P.212)



LED ヘッドランプ警告灯 ※
(→P.212)



駆動用電池残量警告灯 ※
(→P.212)



(点滅)

充電コネクタ接続表示灯
(→P.212)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.213)

-  スマートエントリー&スタートシステム表示灯★
(黄色) (→P.213)
-  クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.213)
(点滅)
-  PKSB OFF 表示灯 ※ (→P.213)
(点滅)
-  PCS 警告灯 ※ (→P.214)
(点滅または点灯)
-  スリップ表示灯 ※ (→P.214)
-  パーキングブレーキ表示灯 (→P.215)
(点滅)
-  メンテナンス・点検警告灯 (→P.215)
-  車両接近通報装置異常警告灯 (→P.215)
-  駆動用電池異常警告灯 (→P.215)
-  マスターウォーニング ※ (→P.216)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを開始すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

-  方向指示表示灯 (→P.129)
-  尾灯表示灯 (→P.132)
-  ハイビーム表示灯 (→P.134)
-  PCS 作動灯 ※¹ (→P.141)
(点滅または点灯)
-  PCS 警告灯 ※^{1,2} (→P.143)
-  クリアランスソナー表示灯 (→P.149)
(点滅または点灯)
-  クリアランスソナー OFF 表示灯 ※² (→P.149)
-  PKSB 作動灯 ※¹ (→P.155)
(点滅または点灯)
-  PKSB OFF 表示灯 ※^{1,2} (→P.154)
-  スリップ表示灯 ※¹ (→P.159)
(点滅)



充電コネクタ接続表示灯
(→P.70)



(緑色)

スマートエントリー&スタートシステム表示灯★
(→P.125)



READY インジケータ
(→P.125)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.130)



セキュリティ表示灯
(→P.35)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを
ON にすると点灯し、数秒後または
EV システムを始動すると消灯しま
す。点灯しない場合や点灯したま
まのときはシステム異常のおそれ
があります。トヨタ販売店で点検
を受けてください。

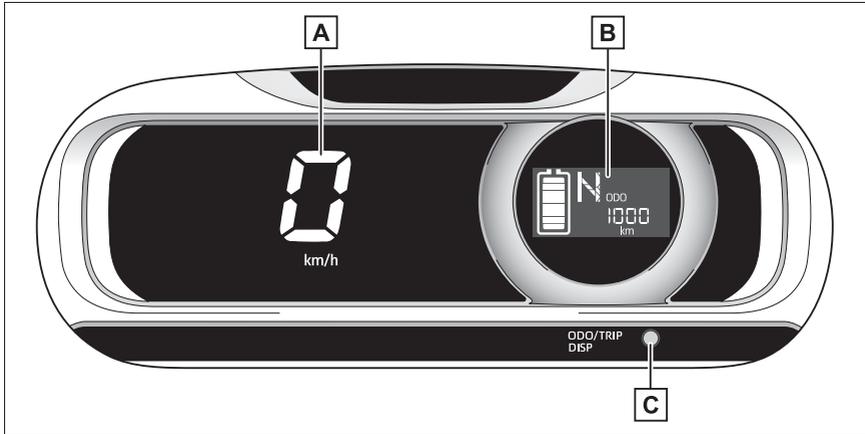
※² システムが OFF のときに点灯します。

計器類

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A スピードメーター

車両の走行速度を示します。

B ドライブインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.92)

C 表示切りかえボタン

オドメーター・トリップメーター・電費表示などの切りかえができます。(→P.92)

⚠ 警告

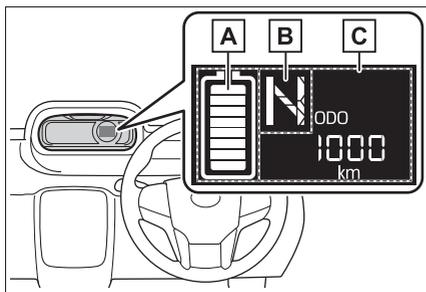
■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

ドライブインフォメーションディスプレイ

ドライブインフォメーションディスプレイは、電費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。

表示内容



A 駆動用電池残量表示

駆動用電池の残量を示します。

B シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

C トリップインフォメーション

(→P.92)

オドメーター・トリップメーター・航続可能距離・電費など、走行に関する情報の表示やメーター照明の明るさを調整することができます。

警告

■ 運転中の使用について

- ドライブインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

- ドライブインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

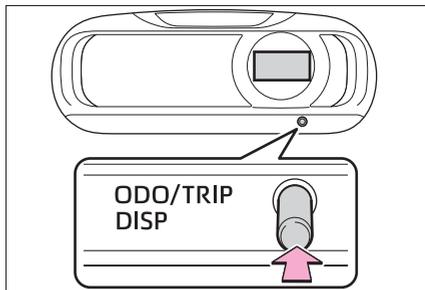
→P.91

トリップインフォメーション

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター (ODO 表示)

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター (TRIP 表示)

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● 平均電費 (AVG. 表示)

パワースイッチを ON 後の平均電費を表示します。

● 平均電費 (AVG. CHARGE 表示)

充電後の平均電費を表示します。

● 平均電費（AVG. TRIP 表示）

TRIP メータークリア後の平均電費を表示します。

● 航続可能距離（RANGE 表示）

現在の電池残量で走行できるおよその距離を表示します。

● メーター照度表示

メーター照明レベルを表示します。

メーター照度表示中に表示切りかえボタンを押し続けると、照度を調整できます。

 知識

■ **メーター照度調整について**

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

4-1. キー	
キー.....	96
4-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア.....	100
バックドア.....	102
スマートエントリー&スタートシ テム.....	105
4-3. シートの調整	
シート.....	109
4-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル.....	110
インナーミラー.....	111
ドアミラー.....	112
4-5. ドアガラスの開閉	
スライド式ドアガラス.....	114

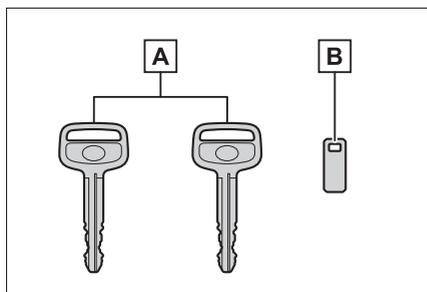
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

イモビライザーシステム（→P.35）装着車のキーには、信号発信機が内蔵されています。

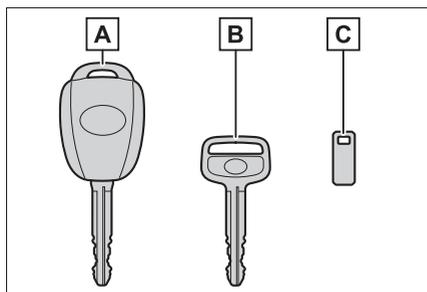
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車（信号発信機非搭載タイプ A）



A キー

B キーナンバープレート

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車（信号発信機非搭載タイプ B）



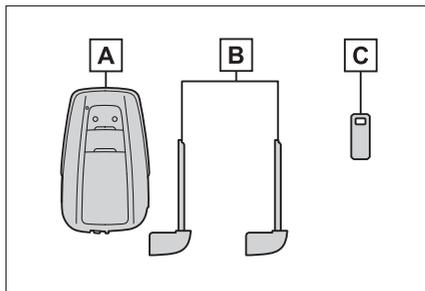
A キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P.98）

B スペアキー

C キーナンバープレート

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車（信号発信機搭載タイプ）



A 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.105）
- ・ ワイヤレス機能の作動（→P.98）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について（スマートエントリー&スタートシステム非装着車タイプ B）

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。

次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい

電池に交換してください。(→P.191)

- ・ワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなった

■電池の消耗について（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、EVシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。(→P.106)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.191)
- ・スマートエントリー&スタートシステム

■電子キーの取り扱いについて

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用ください。
- ・技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない

- ・ムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなった
- ・電子キーのLEDが点灯しない

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器
- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■電池が切れたとき

→P.191

- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない

⚠ 注意

- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.230

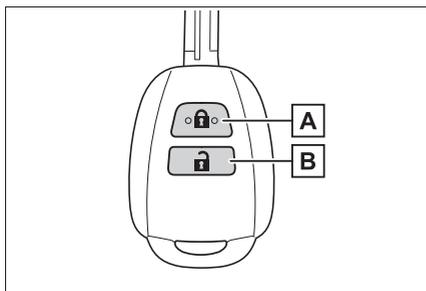
■ 電子キーを紛失したとき

→P.229

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

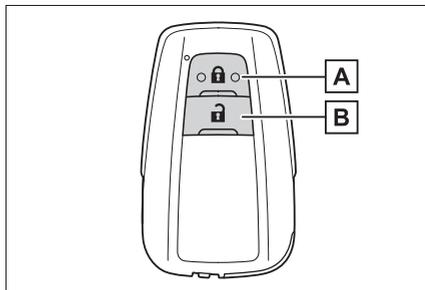
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



A ドアを施錠する (→P.100)

B ドアを解錠する (→P.100)

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A ドアを施錠する (→P.100)

B ドアを解錠する (→P.100)

📖 知識

■ ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

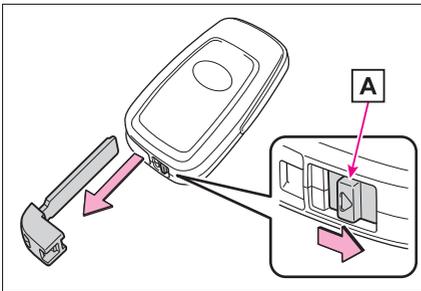
→P.106

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー **A** をスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.230)



□ 知識

■メカニカルキーを紛失したとき

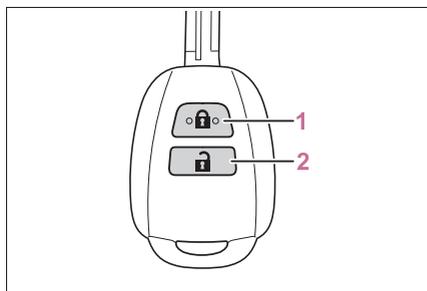
→P.229

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ ワイヤレス機能を使用する

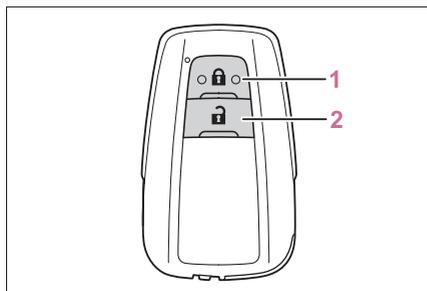
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



1 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

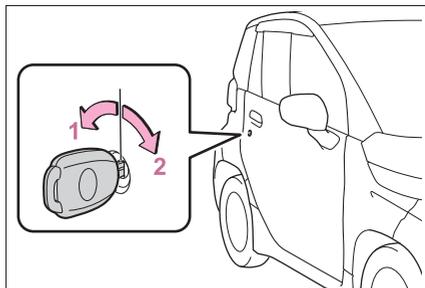


1 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

■ キー

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



1 全ドアを解錠する

2 全ドアを施錠する

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P.230)

■ 知識

■ 作動の合図

ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されません。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

→P.98

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P.106

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

キーまたはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.100, 230)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.191)

■ 補機バッテリーがあがったときは

ワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

キーまたはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.100, 230)

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● すべてのドアを確実に閉め、施錠する

● 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

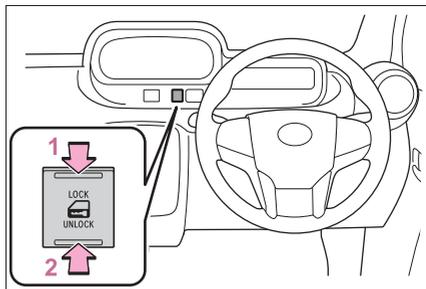
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

車内から解錠／施錠するには

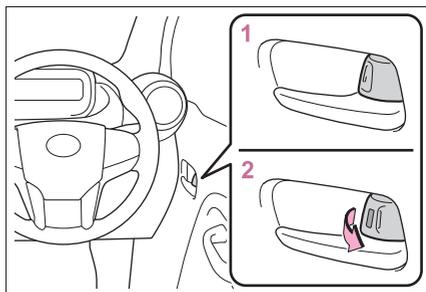
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■ キーを使わずに外側からドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/h

をこえると警告ブザーが鳴ります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

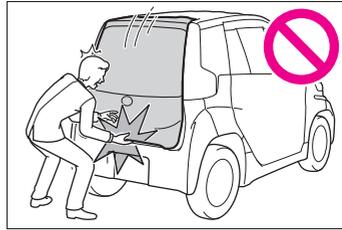
バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステー(→P.104)を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

- ワイヤレスリモコンを使用する
→P.100
- キー
→P.100

知識

- 作動の合図
→P.100

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P.100

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

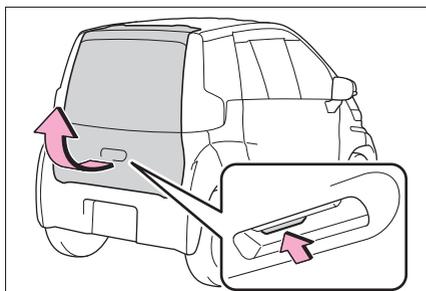
→P.101

バックドアを開閉するには

■ 開ける

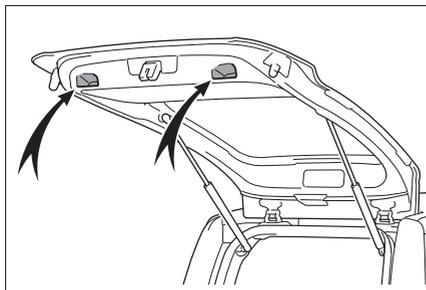
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■ 半ドア走行時警告ブザー

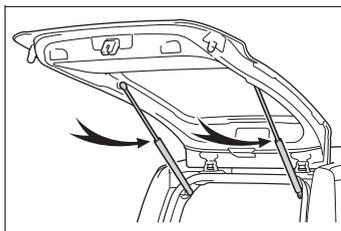
→P.101

⚠ 注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをご守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム★

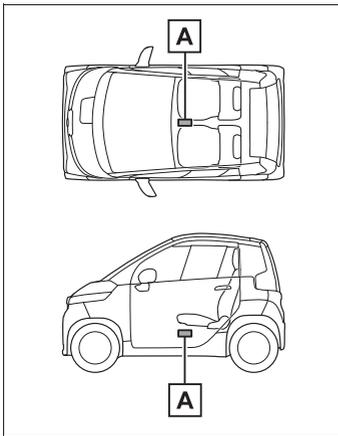
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- EV システムを始動する (→P.125)

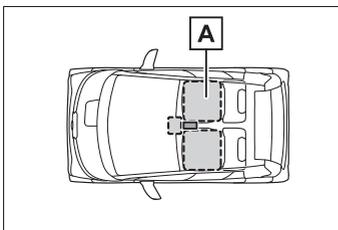
知識

■ アンテナの位置



A 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A EV システム始動時またはパワース

イチ切りかえ時

運転席シート上（もしくはシート面から15cm以内）、助手席シート上またはドリンクホルダ内にキーがある場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったりスマートエントリー&スタート表示灯が点滅したりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、スマートエントリー&スタート表示灯が点滅したりすることがあります。スマートエントリー&スタート表示灯が点滅した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P.216)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車内から“ピー”と鳴り続ける

状況	対処方法
パワースイッチをOFFせずに運転席ドアを開けた	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

- 車内から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から警告音が“ピー、ピー”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■ 電子キーの節電モードについて

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消費を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビ

ライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器

- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

また、スマートエントリー&スタートシステムでEVシステムが始動できない場合は、P.230を参照してください。

■ ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく

作動しないことがあります。

- ・EVシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストールメントパネルやフロア上などに置かれていた場合
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、EVシステムの始動が可能になる場合があります。

■長期間運転しないとき

- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.240)
- 電子キーを節電モードに設定すると、

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.240)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- EVシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.230
- EVシステムの停止：→P.127

電池の消耗を抑えることができます。(→P.106)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- EVシステムの始動：→P.230

⚠警告

■電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.105)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

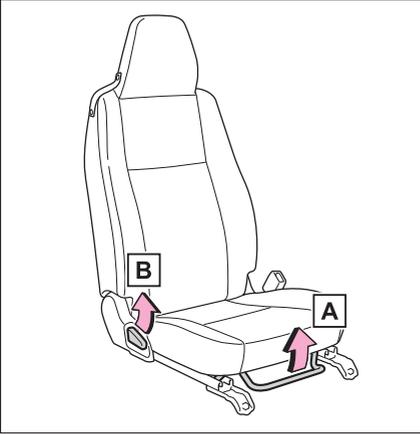
 **警告**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

シート

調整するには



A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。

指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

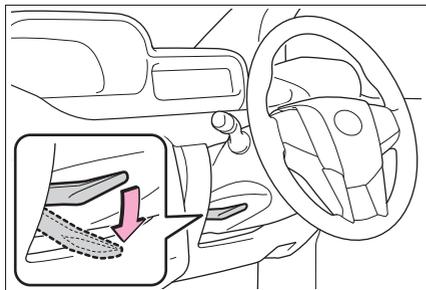
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

ハンドル

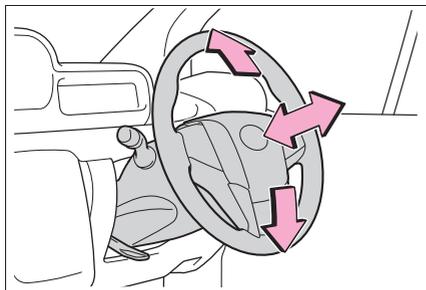
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

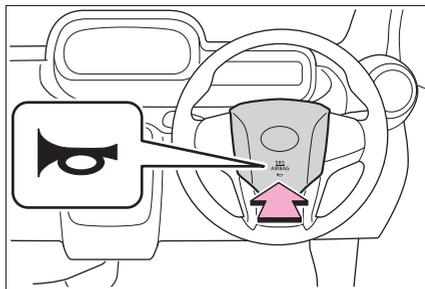
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



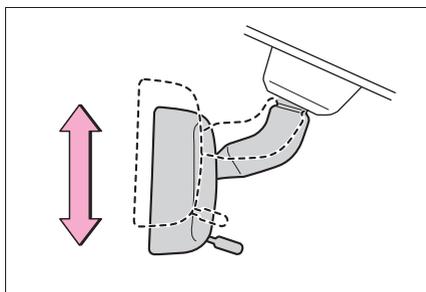
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

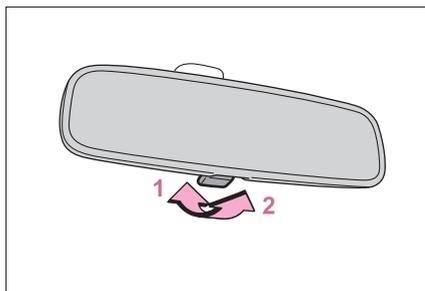
■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



- 1 通常使用時
- 2 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

警告

■ 走行中の留意事項

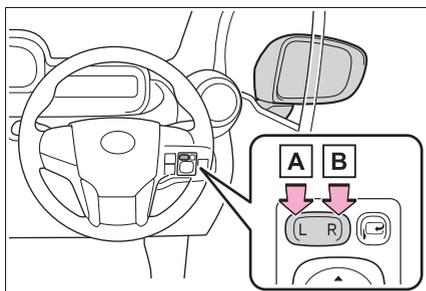
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

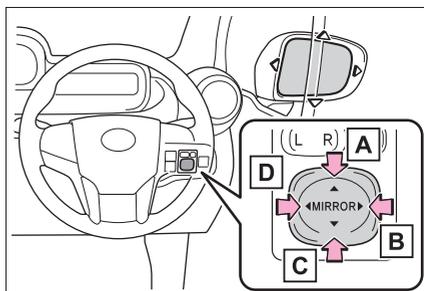
- 1 スイッチを押して、調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

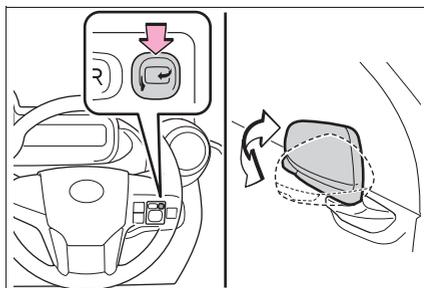
■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ON のとき

ドアミラーを格納・復帰するには

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度スイッチを押すと、もとの位置に戻ります



**■ 作動条件**

パワースイッチが ON のとき

 **警告****■ ミラーが動いているとき**

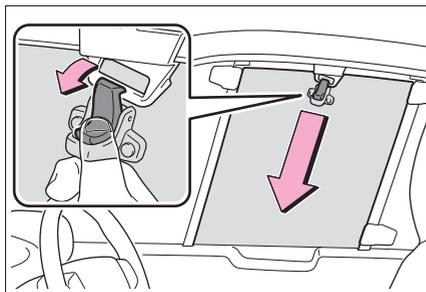
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

スライド式ドアガラス

ドアガラスを開閉するには

開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる。

閉めるときは、カチッと音がするまでガラスをスライドさせ、確実にロックさせてください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

5-1. 運転にあたって

- 運転にあたって 116
- 荷物を積むときの注意..... 121

5-2. 運転のしかた

- パワー（イグニッション）スイッチ
（スマートエントリー&スタートシ
ステム非装着車）..... 123
- パワー（イグニッション）スイッチ
（スマートエントリー&スタートシ
ステム装着車）..... 125
- シフトポジション 128
- 方向指示レバー 129
- パーキングブレーキ..... 130

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの 使い方

- ランプスイッチ 132
- ワイパー&ウォッシャー 135

5-4. 運転支援装置について

- Toyota Safety Sense 137
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 141
- クリアランスソナー..... 149
- PKSB（パーキングサポートブレー
キ）..... 153
- パーキングサポートブレーキ（静止
物）..... 157
- 運転を補助する装置..... 159

5-5. 運転のアドバイス

- 寒冷時の運転 161

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ 乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する (→P.70)

■ EV システムを始動する

→P.123, 125

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.130)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを N にします。(→P.128)

■ 駐車する

- 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.130)

- 3 シフトポジションを N にする (→P.128)

シフトポジション表示灯が N であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 4 パワースイッチを押して、EV システムを停止する

パーキングブレーキをかけないと EV システムを停止することができません。パーキングブレーキをかけない状態で運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを D にする

- 2 パーキングブレーキをかける (→P.130)

- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み車を発進する

- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する (→P.130)

知識

■ 電費を良くする走り方

電気自動車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.45)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ EV システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、ペダル誤操作警告灯が点灯します。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ 速度超過時の警告ブザーについて

速度が 70km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

速度 65km/h 以下で警告ブザーが止まります。

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

警告

- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能です。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.204 を参照してください。
 - 急な下り坂では、フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しくなります。
 - 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
 - すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
 - 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するとき**
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
 - 急激なアクセル操作で車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、EV システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトポジション N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジション変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジション N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを N に入れ、EV システムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを N にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 仮眠するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを N に入れ、EV システムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトスイッチを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

● ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

● 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

● ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■ 運転しているとき

● 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システム出力を抑制する場合があります。

● 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

● 上り坂でアクセルペダルを踏んで車両を保持すると EV システムが過熱し、EV システムの出力が低下するおそれがあります。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションを N にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを N にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.217 を参照してください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- 電装品がショートする
- 水の侵入による駆動電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- トランスミッションフルードなどの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- 駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがNに切りかえられない、またはNから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなくなったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 荷物を積むとき**

ラゲージルーム床の変形を防ぐ為に、過度な力をかけたりしないでください。

パワー（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

EV システムの始動のしかた

- 1 正しい運転姿勢（→P.21）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 パワースイッチを START にまわす

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

知識

■ 外気温が低いときは

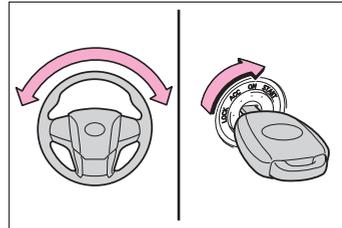
- EV システム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなる場合があります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

→P.39

■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、パワースイッチをまわしてください。



■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ EV システムに異常があるときは

→P.211

警告

■ EV システムを始動するとき

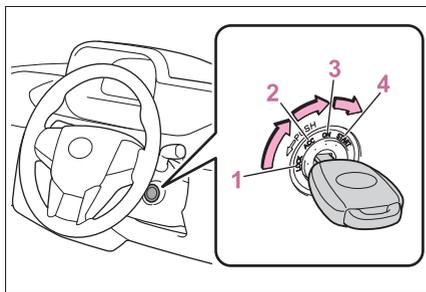
必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワースイッチの位置の切りかえ



1 OFF (“LOCK” の位置)

ステアリングロックがかかります。
キーを抜き挿しすることができます。

2 ACC (“ACC” の位置)

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

パーキングブレーキをかけないと、OFFにまわすことはできません。

3 ON (“ON” の位置)

すべての電装品が使用できます。

4 START (“START” の位置)

EVシステムが始動できます。

知識

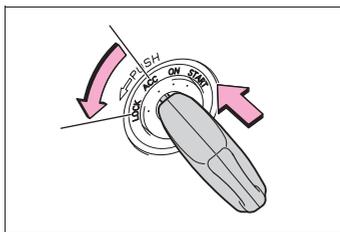
■キーをACCからOFFにまわすには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

パーキングブレーキをかけないと、OFFにまわすことはできません。

パーキングブレーキをかけずにキーをまわすと、警告ブザーが鳴ります。

- 2 キーを押し込みながらOFFまでまわす



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチがACCまたはOFFのとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■走行中の警告

走行中はパワースイッチをOFFにしないでください。

緊急時、走行中にEVシステムを停止したい場合にはACCにしてください。ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にEVシステムが停止すると思われ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EVシステムが停止中は、パワースイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EVシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EVシステムを始動するには

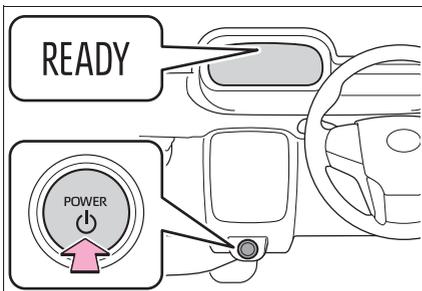
- 1 正しい運転姿勢（→P.21）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、EVシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもEVシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■EVシステムが始動しないとき

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.35）トヨタ販売店へご連絡ください。

■外気温が低いときは

●EVシステム始動時にREADY インジケーターの点滅時間が長くなる場合があります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、EVシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■電気自動車特有の音と振動について

→P.39

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでEVシステムを始動することができません。EVシステムを始動するには、P.232を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.97

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

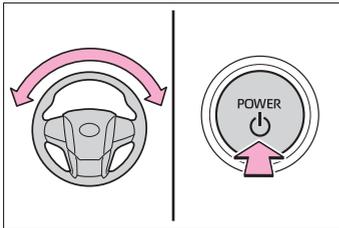
→P.106

■ご留意いただきたいこと

→P.106

■ステアリングロック機能

- パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



- 短時間に EV システムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるときは

→P.211, 216

■電子キーの電池交換

→P.191

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえや EV システムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動

した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.230 を参照してください。

▲警告

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲注意

■EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.130)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。

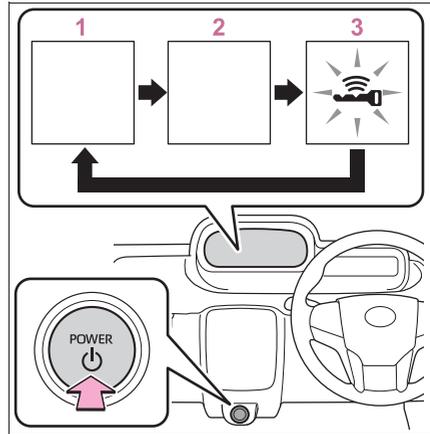
警告

■ 緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押ししてください。(→P.204) ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、車のコントロールがしにくくなるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF*

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

* パーキングブレーキをかけないと、OFF に切りかえることはできません。パーキングブレーキをかけずにパワースイッチを押すと、警告ブザーが鳴ります。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
R	後退
N	・駐車または EV システムの始動 ・動力が伝わらない状態
D	通常走行

知識

■ シフトポジションについて

- READYインジケーターが点灯しているときのみシフトポジションの切りかえが可能です。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

- シフトポジションの切りかえを無効にするとき
 - ・ パーキングブレーキをかけた状態で N からブレーキペダルを踏まずにシフトスイッチを操作したとき
 - ・ 停車中に N からアクセルペダルを踏んだままシフトスイッチを操作したとき
 - ・ シフトスイッチを複数同時に押したとき
- 自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき
 - ・ 車両が前進しているときに R を選択したとき ※¹

- ・ 車両が後退しているときに D を選択したとき ※²

- 一定以上の速度で走行中に N を選択した場合はブザーが鳴り、N にかわったことを運転者に知らせます。

※¹ 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※² 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

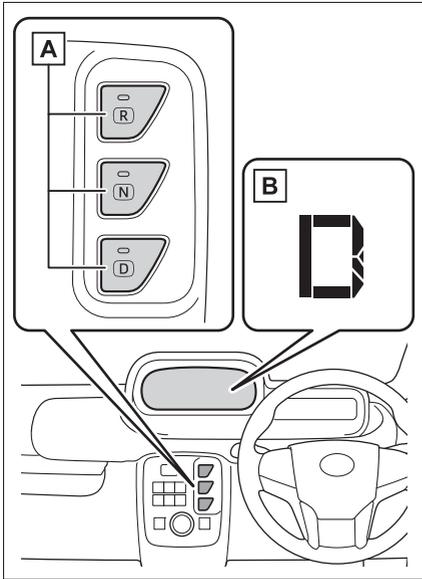
注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトスイッチの操作の仕方

**A** シフトスイッチ

シフトスイッチはゆっくり確実に押してください。

DからRおよび、RからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

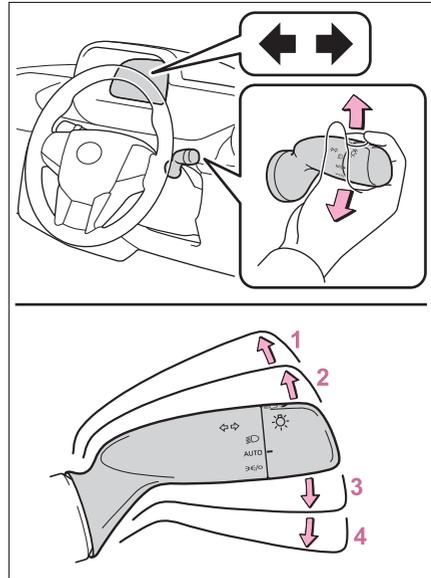
B シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが表示されます。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
- 4 右折

知識

■ 作動条件

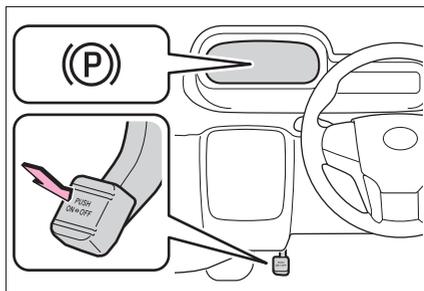
パワースイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき
方向指示灯の電球が切れていないか確認

してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 駐車するとき

→P.116

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.162

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴ります（車速が5km/hをこえたとき）

注意

■ 駐車するとき

本車両にはPレンジがありません。車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、車が動かないことを確認してください。（→P.116）

**注意****■ 走行前の注意**

パーキングブレーキを完全に解除してください。

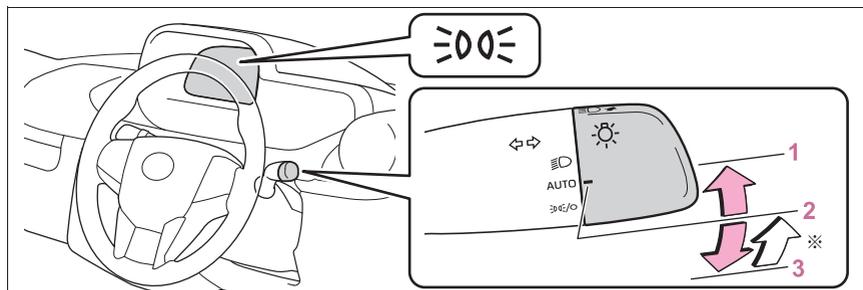
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  /O※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

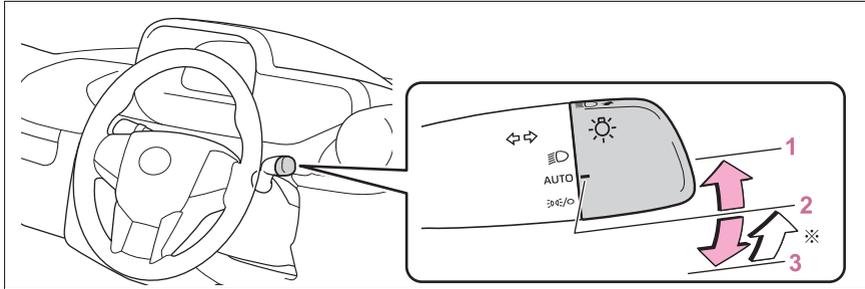
※¹ 操作するたびに、**2** AUTO による点灯状態と **3**  /O による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

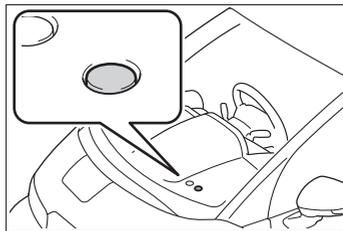
■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさざえざると、自動点灯・消灯機

能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にすると自動的に消灯します。

スイッチ位置が **1**  のときは、上記に加え、運転席ドアを開けたときに消灯しま

す。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから

の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

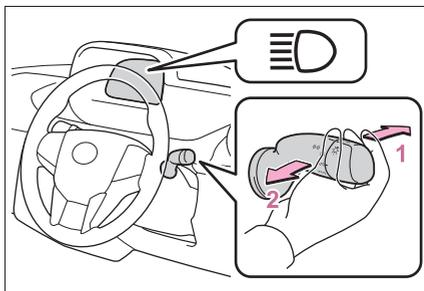
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアまたはバックドアを開閉したとき

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

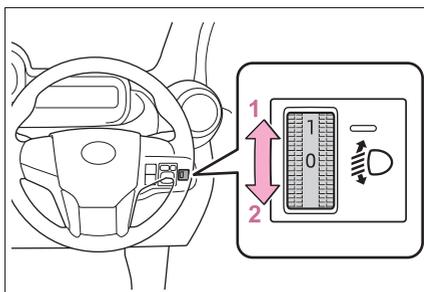
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	0.5
全乗員	ラゲージ ルーム満載時	0.5
運転者	ラゲージ ルーム満載時	1.0

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

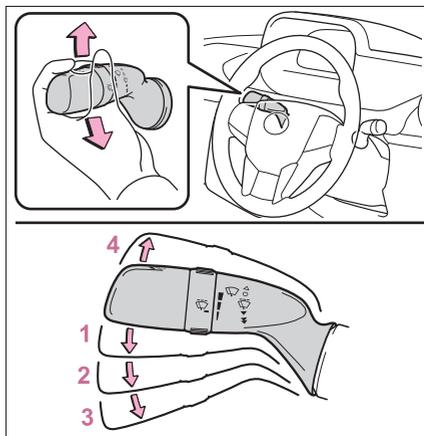
⚠ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

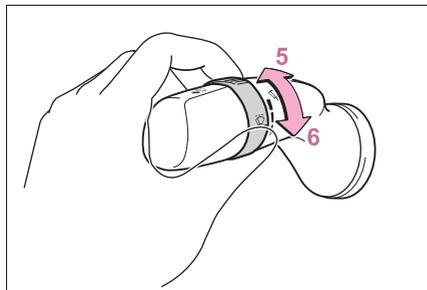
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



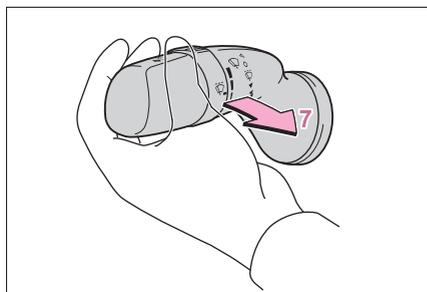
- 1  間欠作動 (INT)
- 2  低速作動 (LO)
- 3  高速作動 (HI)
- 4  一時作動 (MIST)

間欠作動を選択しているとき、間

欠時間を調整することができます。



- 5 間欠ワイパーの作動頻度（増）
6 間欠ワイパーの作動頻度（減）



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→P.141

⚠ 警告

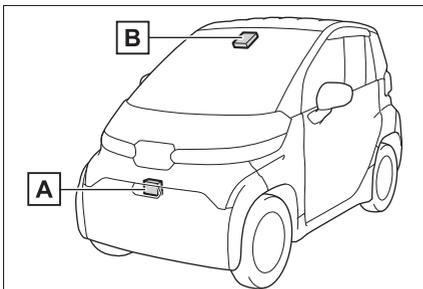
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

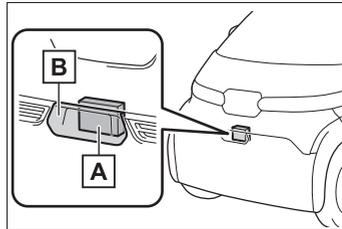
⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパーを交換したとき

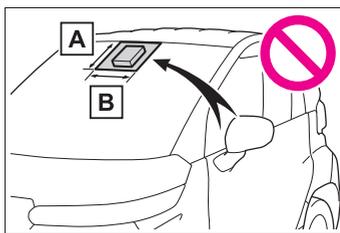
■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



- 【A】 フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
- 【B】 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.164）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 **警告**

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識****■ レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ PCS 警告灯が点灯したとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると PCS 警告灯が消灯し、作動可能状態になります。

対処を行っても PCS 警告灯が点灯したままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーや熱線式ウインドシールドデフロスターの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.164）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周囲の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、熱線式ウインドシールドデフロスターで前方カメラ周囲の温度を上げる
フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
レーダーおよびレーダー専用カバー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

● 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になればPCS警告灯が消灯します。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯が点灯したままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周囲の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.141）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF を切りかえることができます。（→P.143）

システムの作動対象

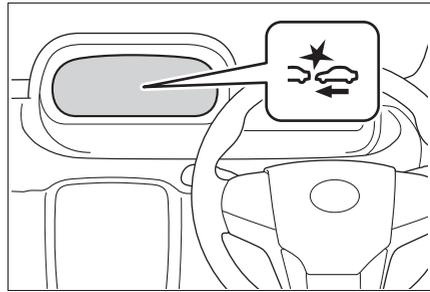
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 作動灯が点滅し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

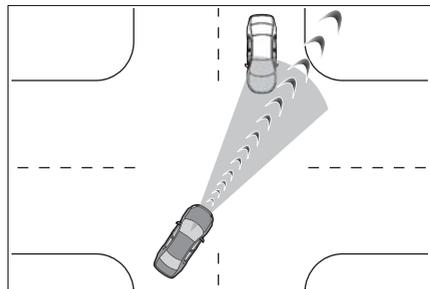
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

■ 交差点右左折支援

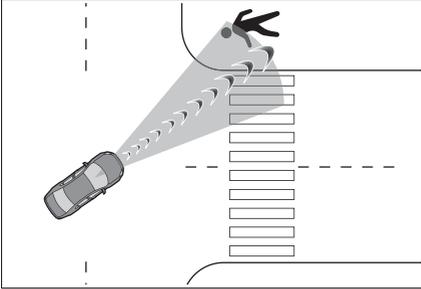
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.145

・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.146

- お客様で自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたりと、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、EV システムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

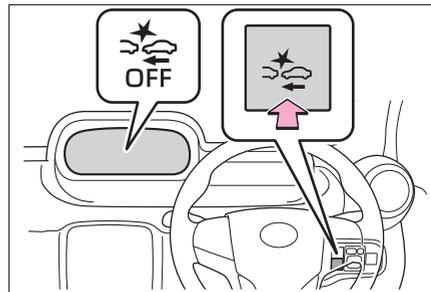
■プリクラッシュセーフティを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯します。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトポジションが R のとき

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

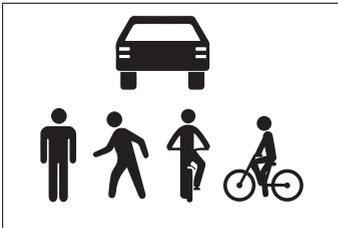
方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■ 作動対象の検出

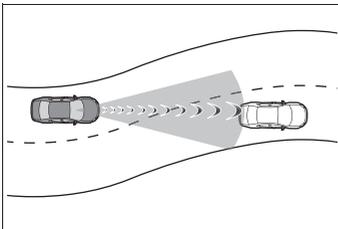
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→P.146)

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

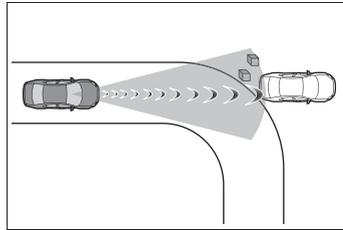
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



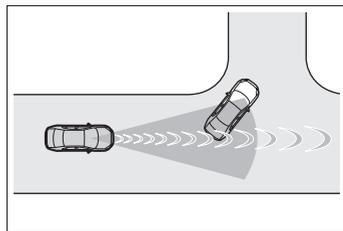
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール

ル・電柱・木・壁など）などに近付いたとき

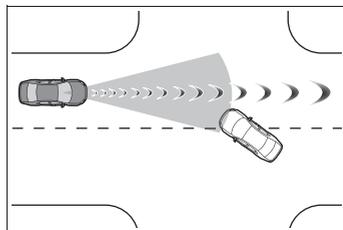
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



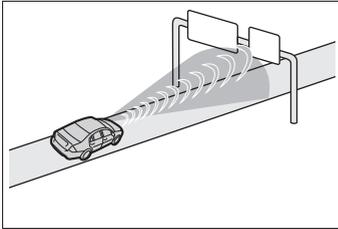
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



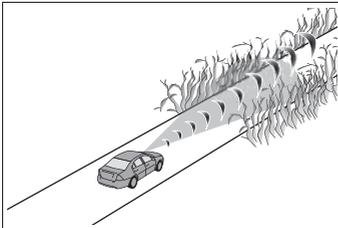
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、

車両姿勢が変化しているとき

- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



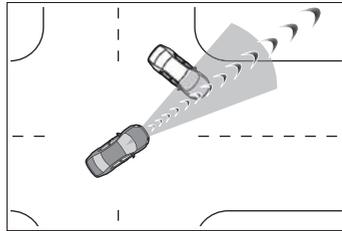
- ・ 駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右折中に、対向車が自車進路に入る手

前で停止したとき

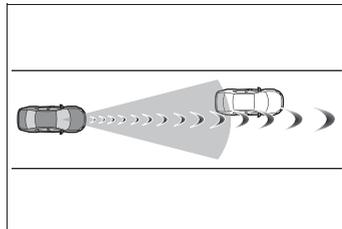
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

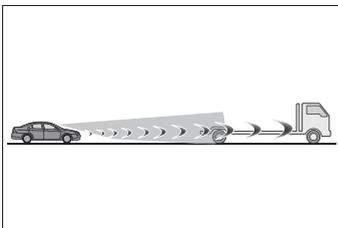
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・ 作動対象に急接近したとき
 - ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



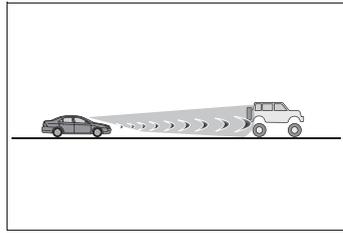
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車

両などのそばにいるとき

- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

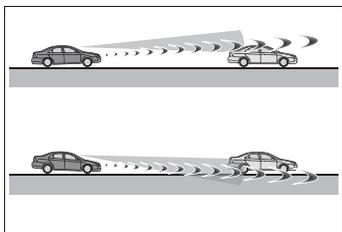


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

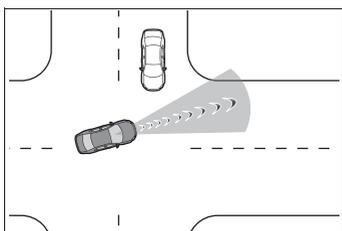


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ EVシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間

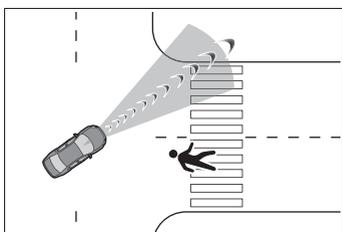
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

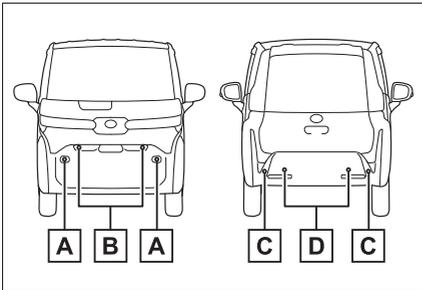
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、ブザー音で運転者にお知らせします。

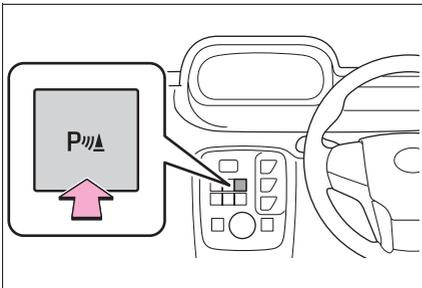
システムの構成部品

■ センサーの種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンターセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** リヤセンターセンサー

クリアランスソナーの切りかえ



スイッチを押して ON/OFF を切りかえます。

クリアランスソナー機能が ON の時は、クリアランスソナー表示灯 (→P.89) が点灯します。

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.89) が点灯します。

OFF (停止) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、スイッチを押して、システム作動状態 (ON) にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品 (字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど) を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。

警告

- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- **クリアランスソナーを OFF にするとき**
次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- **洗車時の注意**
→P.178

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき

■ マスターウォーニングランプが点灯して 1 回ブザーが鳴ったときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などによりマスターウォーニングランプが点灯したり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。水滴・氷・雪・泥がないのにマスターウォーニングランプが点灯している場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、ブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴るまでに、静止物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

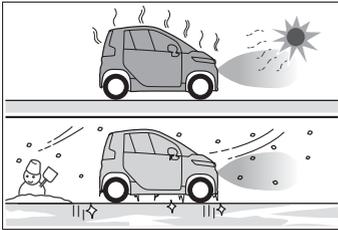
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

- 炎天下や寒冷時



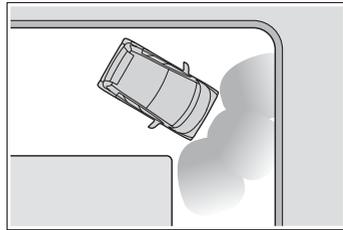
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレイキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノー

ブラウ）などを取り付けたとき

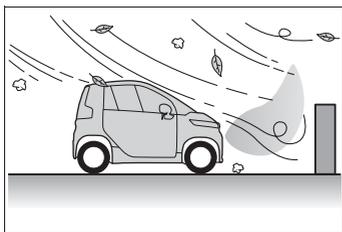
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



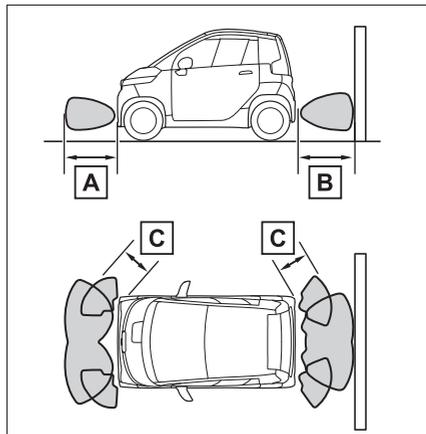
■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサー／リアセンサー： 約 80cm ～ 60cm	断続音
約 60cm ～ 45cm	早い断続音
約 45cm ～ 35cm	非常に早い断続音
約 35cm 以下	連続音

- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 80cm

B 約 80cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

ブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 前方にある静止物を検知した場合は前方からブザー音が聞こえ、後方にある静止物を検知した場合は後方からブザー音が聞こえます。
- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 35cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ ブザー音量調整

ブザー音量を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.157

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

警告

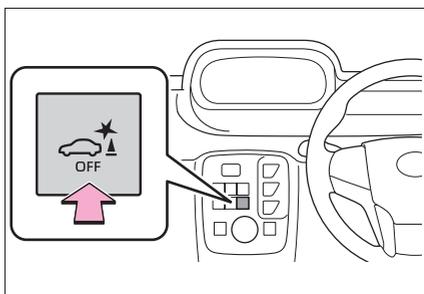
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- **パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**
次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
 - 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
 - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
 - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
 - 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

- **PKSB OFF 表示灯が点灯したときは**
パワースイッチを ON にした直後に、点灯することがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

システムの切りかえ



PKSB OFF スイッチを押すとパーキングサポートブレーキ（静止）が OFF になります。

PKSB システムを ON した場合、PKSB 作動灯（→P.89）が点灯します。

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.89）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、PKSB OFF スイッチを押し、ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、PKSB 作動灯が点滅します。

● EV システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

PKSB 作動灯：点滅

ブザー：ピー（連続音）

● EV システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

PKSB 作動灯：点滅

ブザー：ピー（連続音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

PKSB 作動灯：点滅

ブザー：ピー（連続音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

PKSB OFF 表示灯：点灯

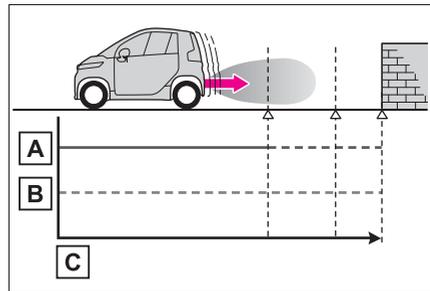
ブザー：吹鳴なし

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検

知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（EV システム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

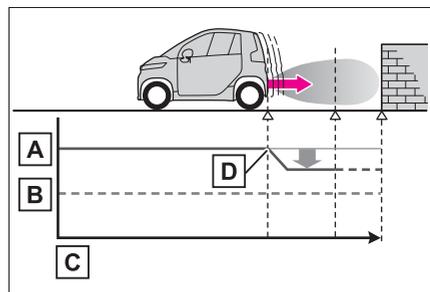


A EV システム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（EV システム出力抑制制御時）



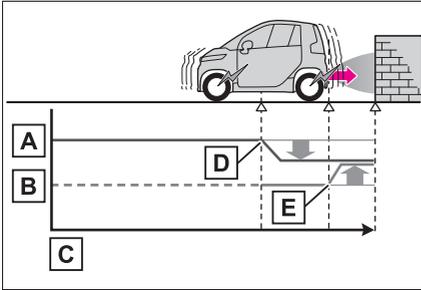
A EV システム出力

B 制動力

C 時間

- D** EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)

- 図 3 (EV システム出力抑制制御
かつブレーキ制御時)



- A** EV システム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)
- E** ブレーキ制御開始 (作動対象と
衝突の可能性が非常に高いとシ
ステムが判断したとき)

 知識

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ)
が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセ

ルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ)
の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON に (→P.154) するか、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった (前進から後退、または後退から前進に切りかえた) ときはシステムが自動的に復帰します。

■ PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより PKSB OFF 表示灯が点滅したり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても PKSB OFF 表示灯が点滅するときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

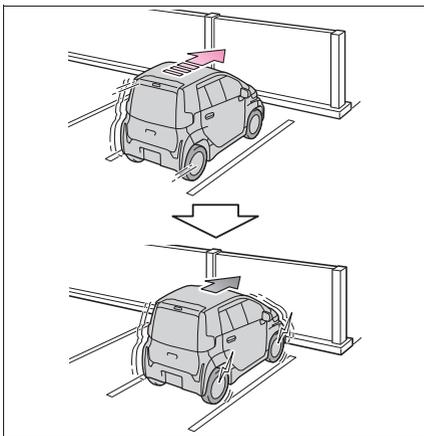
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトスイッチの押し間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

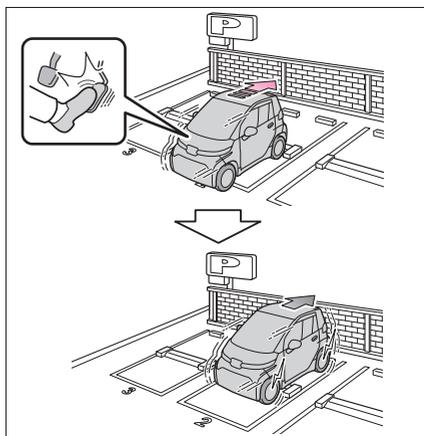
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

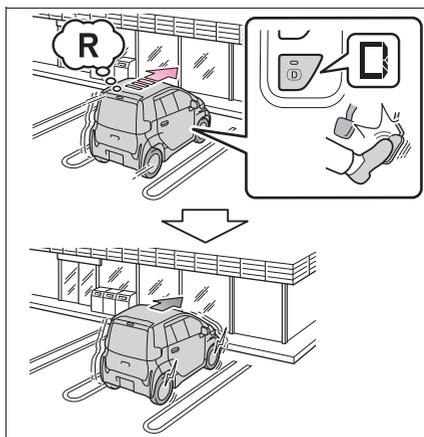
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



- 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.149

⚠ 警告

- システムを正しく作動させるために

→P.149

警告

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.156

■ 洗車時の注意

→P.178

知識

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.89, 213）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2～4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の復帰について

→P.156

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.152）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

→P.150

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.149）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→P.154）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御と EV システム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.150

- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.151

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

- ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

- ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

- VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

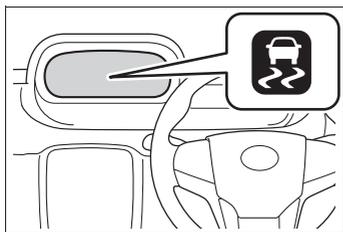
- TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

知識

- TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSCの作動音と振動

- EVシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、ボンネット内から作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

▲ 警告

■ ABSの効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーキング現象が発生したとき

■ ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRCやVSCが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.239）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- ウォッシュャー液は外気温に適したものをお使いください。
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは4輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.185）

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

注意

■ タイヤチェーンの使用について

C+pod専用のトヨタ純正タイヤチェーンのみご使用ください。

C+pod専用のトヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車をするときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。手順に従ってパーキングブレーキをかけずに駐車し、必ず輪止め[※]をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 1 平らな場所に駐車する
- 2 パーキングブレーキをかけ、EVシステムをOFFする
- 3 輪止め[※]をする
- 4 パーキングブレーキを解除し、ドアを閉める

[※] 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

6-1. エアコンの使い方

マニュアルクーラー..... 164

シートヒーター 166

6-2. 収納装備

収納装備一覧..... 167

6-3. その他の室内装備の使い方

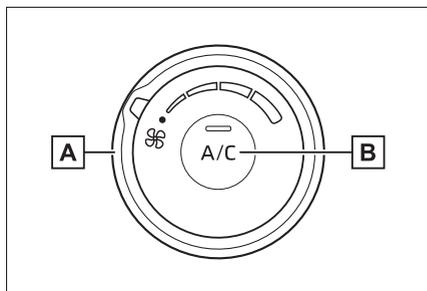
その他の室内装備 169

アクセサリコンセント
(AC100V・1500W)..... 171

マニュアルクーラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作



A 風量調整ダイヤル

B 冷房・除湿スイッチ

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整ダイヤルを右へまわし、減らすときは風量調整ダイヤルを左へまわす
送風を止めるときはダイヤルを●の位置に合わせる。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。パワースイッチを OFF にすると冷房・除湿スイッチは OFF になります。再度パワースイッチを ON にするたびに冷房・除湿スイッチを押してください。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラスの曇りを取るときは熱線式ウインドシールドデフロスターを使用してください。

知識

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき
冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が動かない場合があります。

■ 換気とクーラーの臭いについて

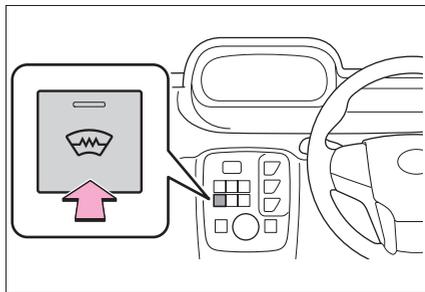
● クーラー使用中に、車室内外のさまざまな臭いがクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、クーラーを必要以上に使用しないでください。

熱線式ウインドシールドデフロスター



フロントウインドウガラスの曇りを取るときに使用ください。

スイッチを押して熱線式ウインドシールドデフロスターを作動させる

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときには、スイッチを軽く押してください。作動表示灯が消灯します。

熱線式ウインドシールドデフロスターは、しばらくすると自動的に OFF になりま

す。

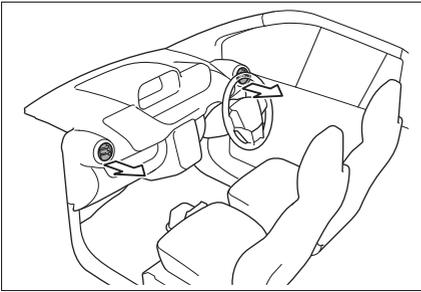
▲ 警告

■ 熱線式ウインドシールドデフロスター作動中の警告

フロントウインドウガラスの表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

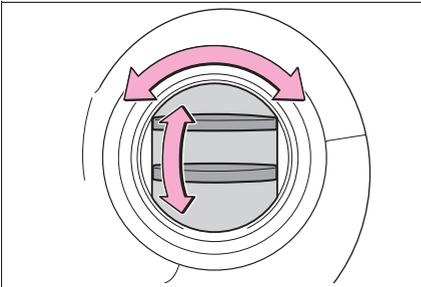
吹き出し口の配置

■ 吹き出し口の位置

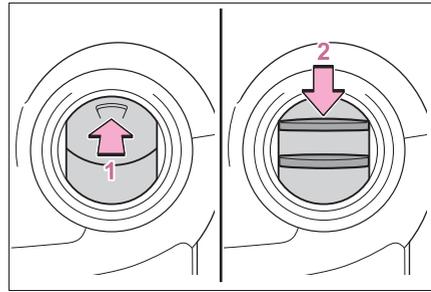


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きの調整



吹き出し口の開閉



1 開ける

2 閉じる

シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

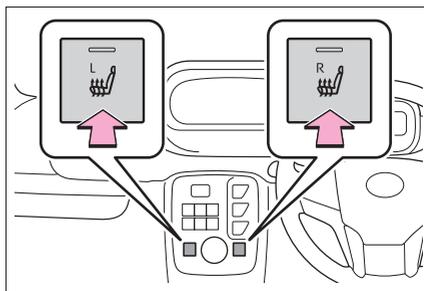
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、スイッチを軽く押してください。作動表示灯が消灯します。

📖 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

⚠ 警告

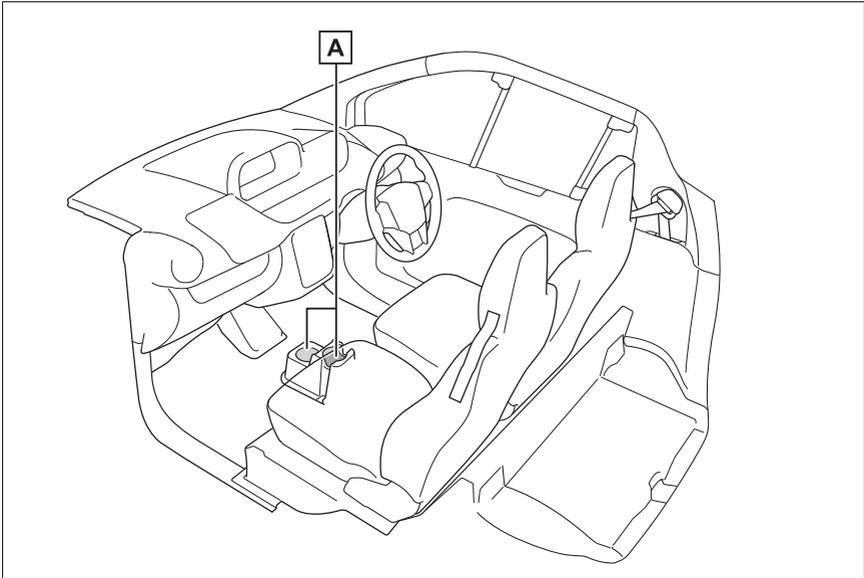
■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A カップホルダー (→P.167)

警告

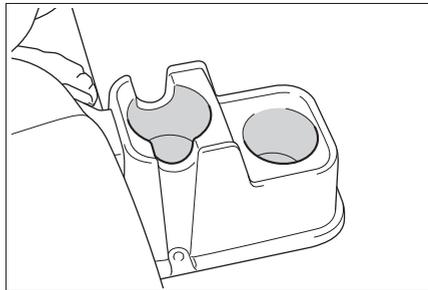
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

カップホルダー



警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

 **警告**

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

その他の室内装備

充電用 USB 端子★

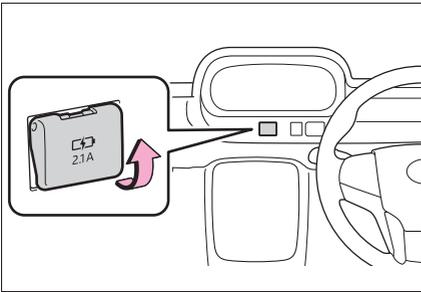
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには
フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器に

より異なります）

- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

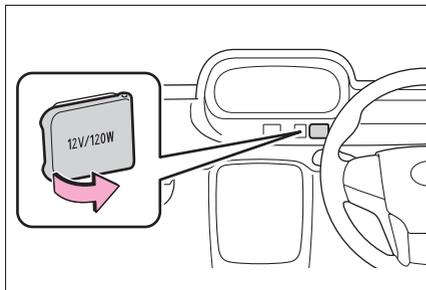
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する


 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

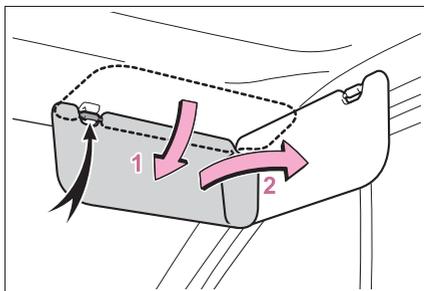
■ ショートや故障を防ぐために

アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムが停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



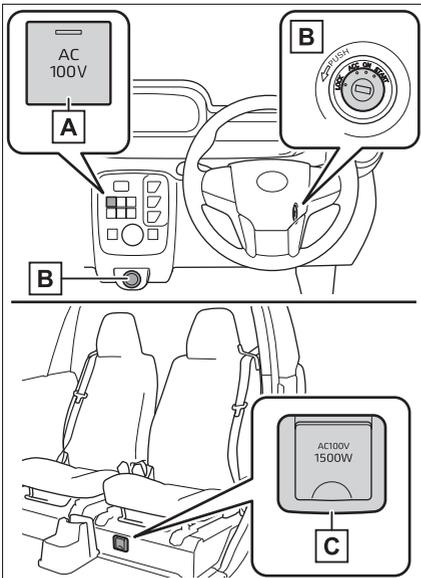
- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

アクセサリーコンセント (AC100V・1500W) ★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

車内において、AC100Vで最
大消費電力 1500W 以下の電気
製品を使うときの電源としてお
使いください。

各部の名称



- A** AC100V スイッチ
- B** パワースイッチ (→P.123,
125)
- C** コンセント

コンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

▶ スマートエントリー&スタート
システム非装着車

1 パーキングブレーキがかかっ
ていることを確認し、ブレーキペ
ダルをしっかりと踏みながらパ
ワースイッチを START にまわ
す (→P.123)

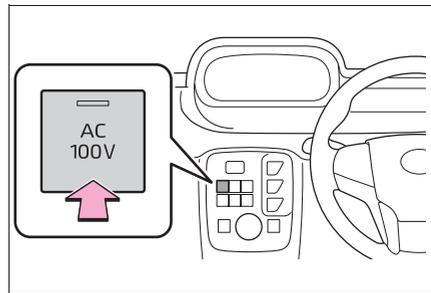
▶ スマートエントリー&スタート
システム装着車

1 パーキングブレーキがかかっ
ていることを確認し、ブレーキペ
ダルをしっかりと踏みながらパ
ワースイッチを押す
(→P.125)

2 READY インジケーターが点灯
したことを確認し、AC100V
スイッチを押す

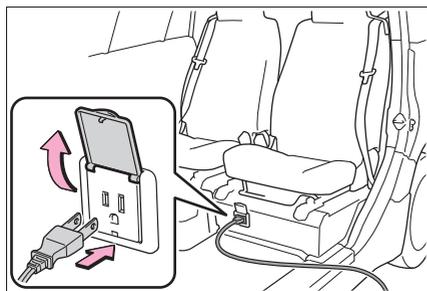
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点
灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセ
ントの ON/OFF が切りかわります。



■ 電気製品の電源プラグを接続す るとき

フタを開けて電気製品の電源プラ
グをコンセントの奥までしっかり
挿し込む



■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

□ 知識

■ 使用条件

- READYインジケーターが点灯しているとき
 - 外部電源供給システムを使用しているとき
- #### ■ 外部電源供給システムを使用しているとき

AC100V スイッチを押さなくても、コンセントを常時使用することができます。また、作動表示灯は点灯したままとなり、スイッチを押しても OFF できません。

■ 使用しないとき

外部電源供給システムを使用していないとき：

AC100V スイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

外部電源供給システムを使用しているとき：

外部電源供給システムを停止してください。外部電源供給システムを停止すると、AC100V スイッチは自動で OFF になります。

■ アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計が AC100V で最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。
- 一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・ 走行中の振動による電気製品の故障
 - ・ 車室内の温度変化^{*}による電気製品の故障または作動不良
 - ・ 車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

^{*} 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■ アクセサリーコンセントについて

- コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。
- コンセントを使用中、フロア左側付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください。(→P.92) 残量が少ない場合は充電してください。(→P.66)
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ (50/60Hz) 機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合 (テレビ・ビデオ・DVD など)
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合 (トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど)

警告

- ・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・ACアダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをNにしていることを確認してください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

警告

- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

注意

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続するなど、タコ足配線はしないでください。

- コンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

■ 特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押ししてください。

■ 特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 178

内装の手入れ 179

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 181

ガレージジャッキ 183

ウォッシャー液の補充 184

タイヤについて 185

タイヤの交換 187

タイヤ空気圧について 190

キーの電池交換 191

ヒューズの点検・交換 194

電球（バルブ）の交換 195

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、塗装された部品のみワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 洗車をするとき

この車両は、自動洗車機や高圧洗浄機を使用することができません。手洗いによる洗車をおすすめします。

■ 洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.106）

■ 洗車などでドアガラスに水をかけるとき

ドアガラス上部から全体に弱めの水圧で水をかけてください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■ 洗車をするとき

ボンネット内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

📖 知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。

(→P.27)

電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.137)

注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

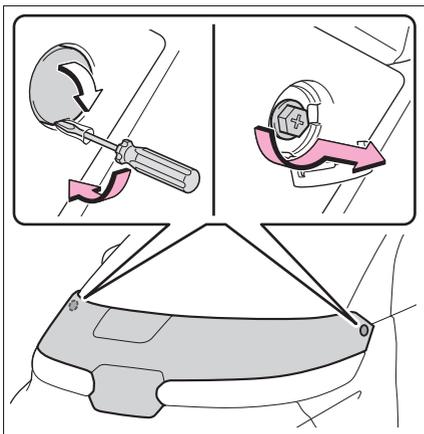
- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

ボンネット

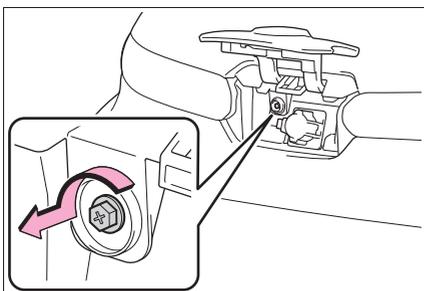
ボンネットを取りはずす

- 1 マイナスドライバーを使ってフタをはずし、ボンネット両端のボルトを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

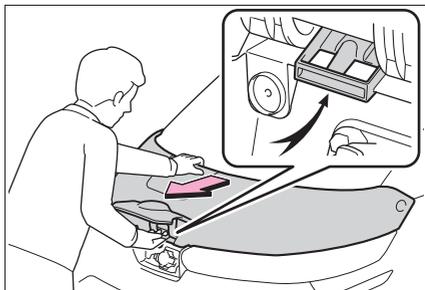


- 2 充電リッドを開け (→P.48)、ボルトを取りはずす



- 3 ボンネットを取りはずす
グリップを持ち、ボンネットをまっすぐ

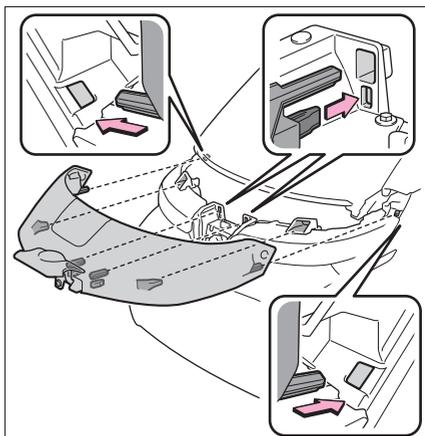
車両前方に取りはずしてください。



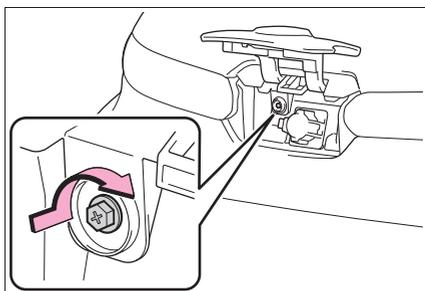
ボンネットを取り付ける

- 1 ボンネットを取り付ける

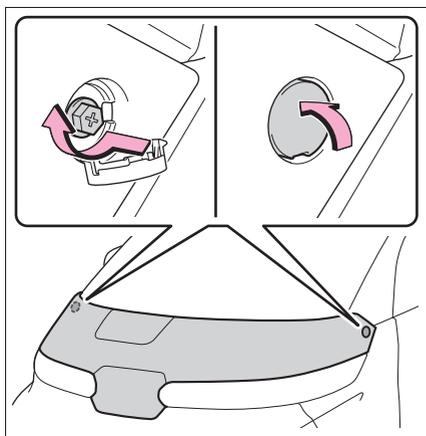
ボンネット本体側のピンと車両側の穴の位置を合わせて取り付けてください。



- 2 充電口内のボルトを取り付け、充電リッドを閉める (→P.49)



3 ボンネット両端のボルトを取り付け、フタを付ける



⚠ 警告

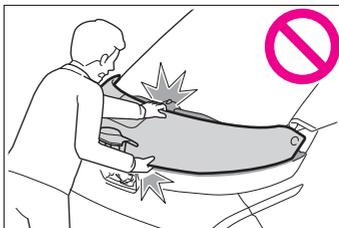
■ 走行前の確認

ボンネットがしっかり取り付けられていることを確認してください。しっかり取り付けずに走行すると、走行中にボンネットが突然はずれて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを取り付けるとき



手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ ボンネット内点検後の確認

ボンネット内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、ボンネット内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ガレージジャッキ

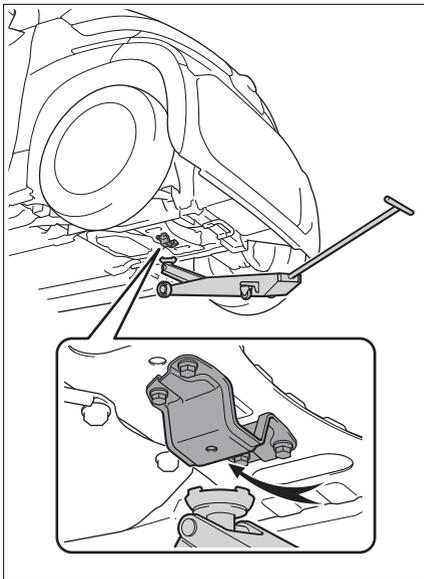
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

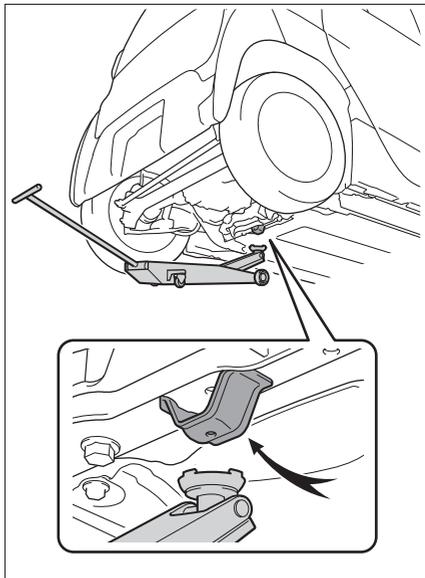
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



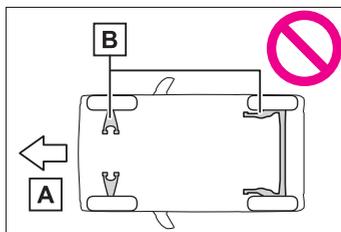
■ リヤ側



⚠ 注意

■ ガレージジャッキを使用するとき

サスペンション部などで、ジャッキアップしないでください。車両、部品が損傷するおそれがあります。



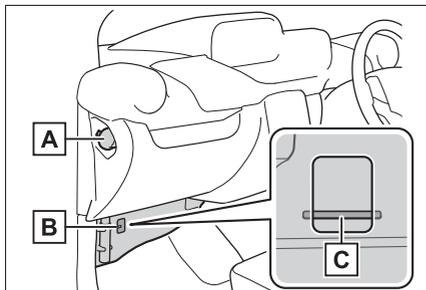
A フロント

B サスペンション部

ウォッシャー液の補充

補充するには

- 1 点検窓からウォッシャー液が MAX 目安ラインにあるかを点検する

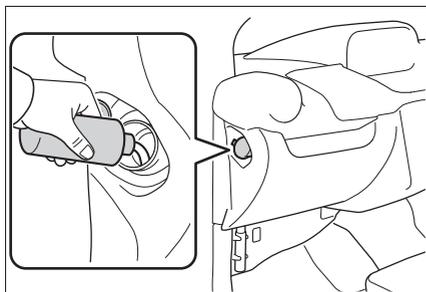


A キャップ

B 点検窓

C MAX 目安ライン

- 2 ウォッシャー液が不足している場合は、ウォッシャー液を補充する



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

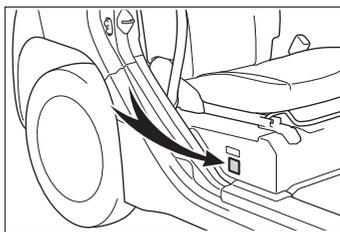
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前のように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部分を内側にして取り付けてください。（→P.189）テーパ部分を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

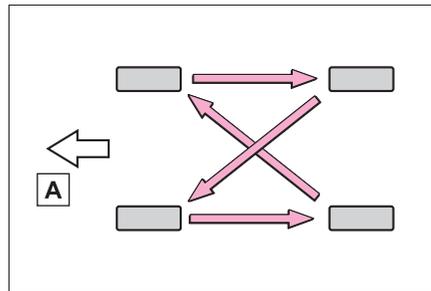
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤの交換

搭載されているジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを N にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.202)

知識

■ 工具とジャッキについて

お客様の車にはスペアタイヤが装着されていないため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはトヨタ販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

警告

■ ジャッキの使用について

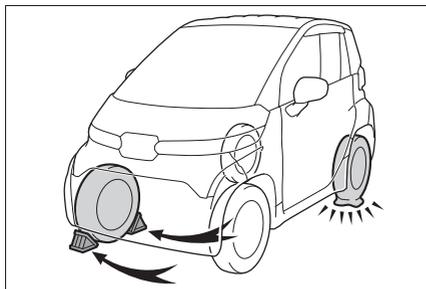
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にもものを置かない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

1 輪止め※をする

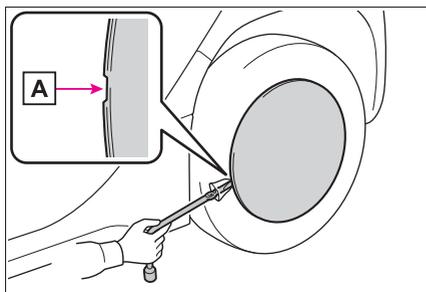


交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪前後
	右側	左側後輪前後
後輪	左側	右側前輪前後
	右側	左側前輪前後

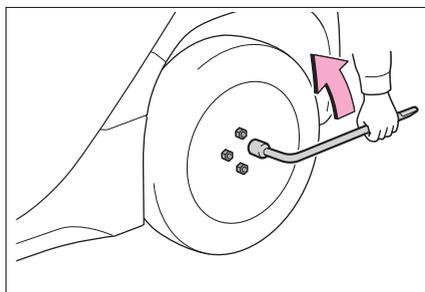
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます

2 ホイールキャップをはずす

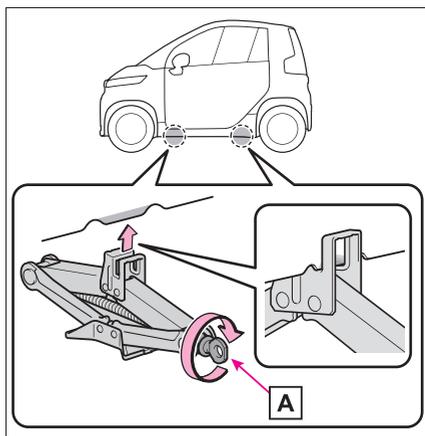
ホイールナットレンチを、ホイールキャップ外周上にある切り欠き部 **A** に挿入してください。傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



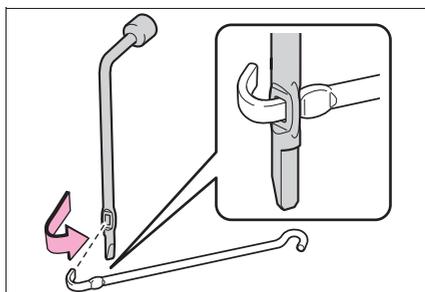
3 ナットを少し（約1回転）ゆるめる



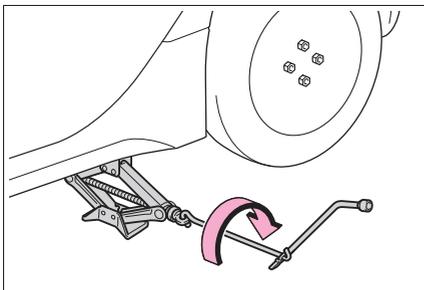
4 ジャッキの **A** 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセツト位置にしっかりかける



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

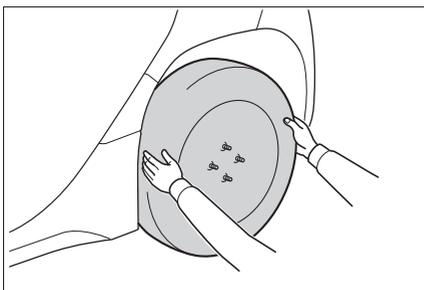


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる



- 7 ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■ タイヤ交換について

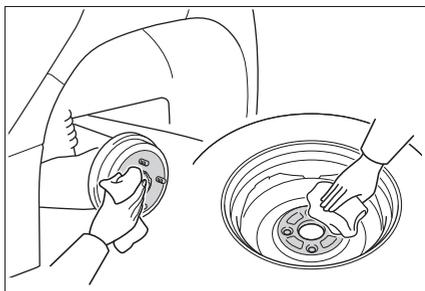
走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

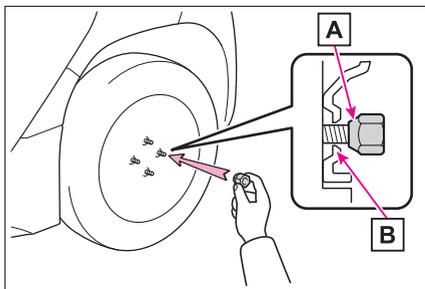
- 1 ホイール接地面、ボルトやナットのねじ部、ナットのテーパ部などの汚れや異物を取り除く

ホイール接地面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

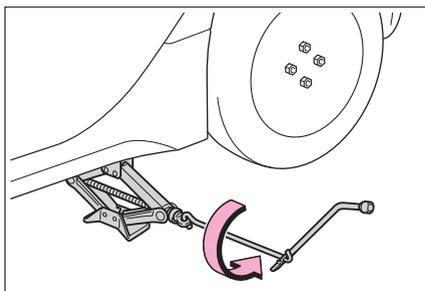


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわす



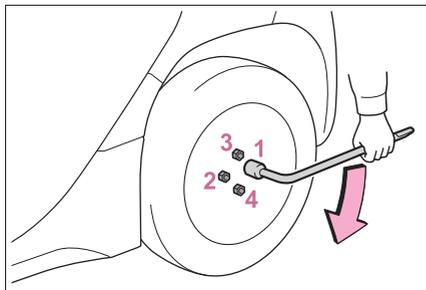
- 3 車体を下げる



- 4 図の番号順ナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kg・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

■ タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後は、すぐに103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→P.239)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 安全性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識**■ キーの電池が消耗していると**

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池

- ・ CR2016 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)
- ・ CR2032 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

知識**■ リチウム電池 CR2016、CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

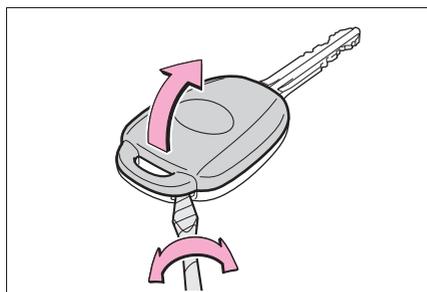
電池を交換するには

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

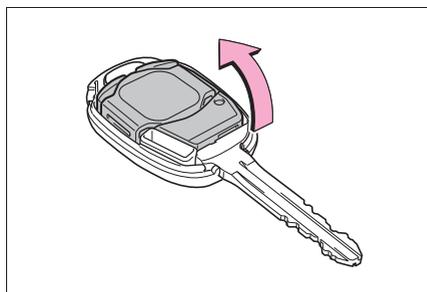
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライ

バーの先端にテープなどを巻いて保護してください。ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

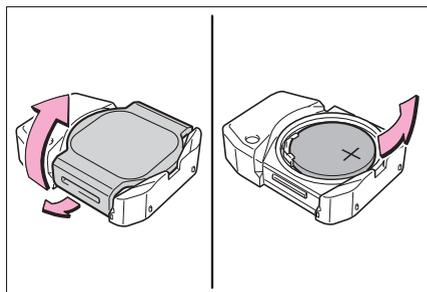


2 モジュールを取り出す



3 モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

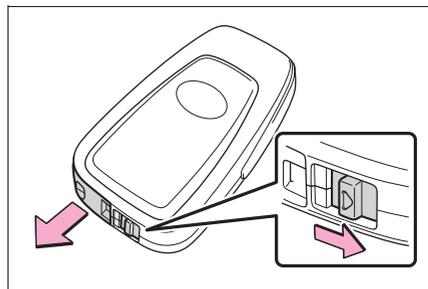


4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 ボタン (または) を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

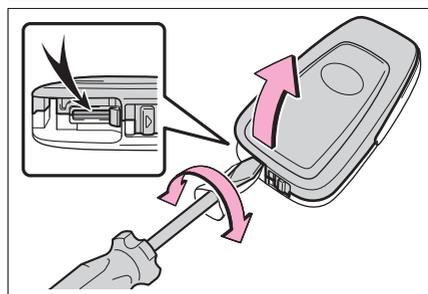
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



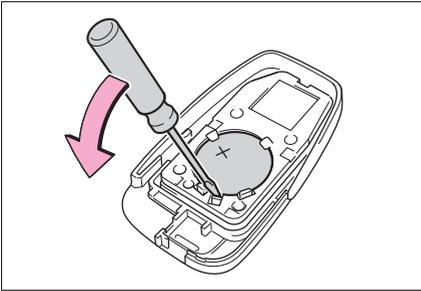
3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。

- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない



- 4 カバーを取り付け、メカニカルキーを挿し込む
- 5 ボタン（または）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

ヒューズの点検・交換

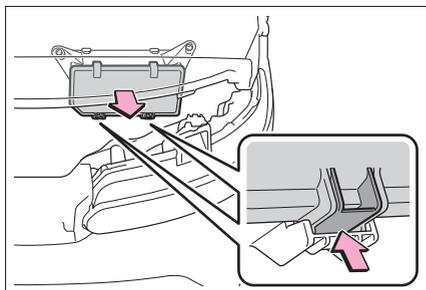
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ボンネットの取りはずし

→P.181

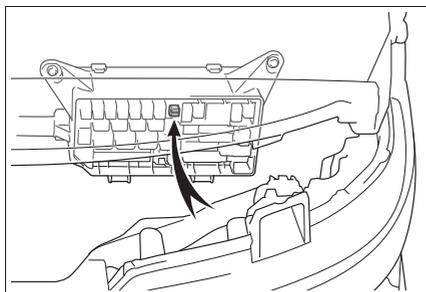
ヒューズの点検・交換するには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける
ツメを押しながら、カバーを手前に引く

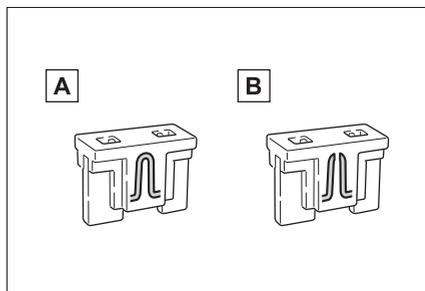


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

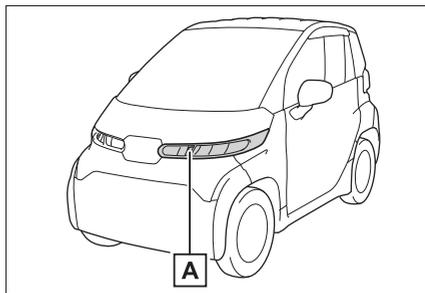
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.239）

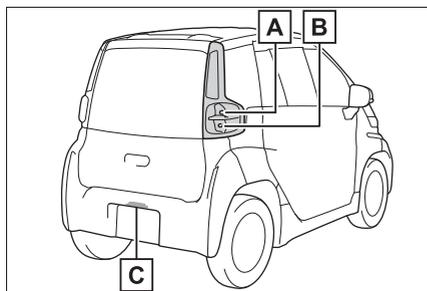
ボンネットの取りはずし

→P.181

バルブ位置**■ フロント**

A フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

C 番号灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

☐ 知識

■ LED ランプについて

次のランプ以外は、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 番号灯
- 後退灯

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

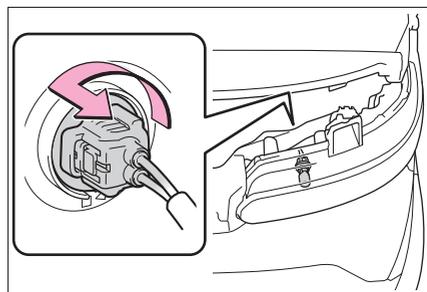
→P.194

電球交換のしかた

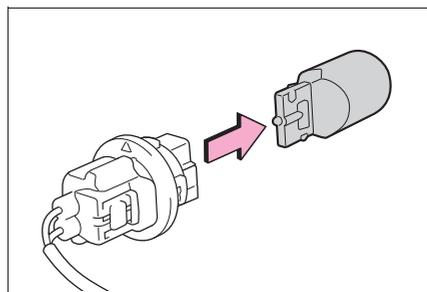
フロント方向指示灯／非常点滅灯はボンネットを取りはずしてから作業してください。

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ソケットをまわして取りはずす



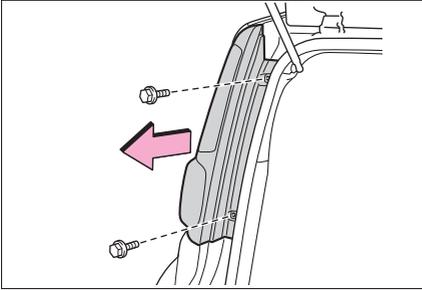
2 電球を取りはずす



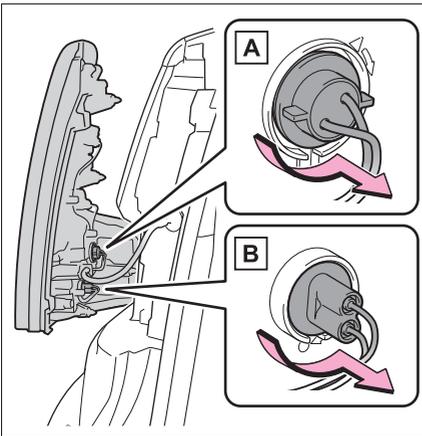
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯、 後退灯

- 1 バックドアを開ける
- 2 ボルト（2本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



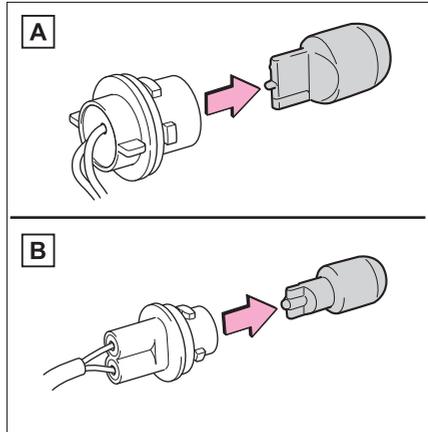
3 ソケットをまわして取りはずす



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

4 電球を取りはずす



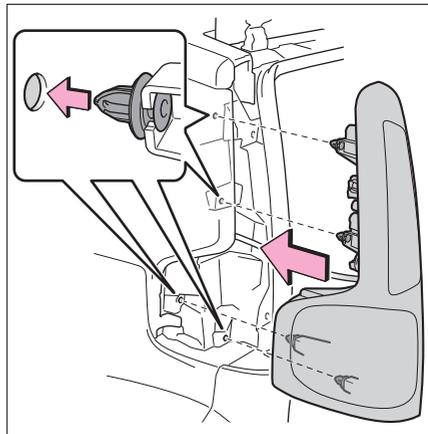
A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

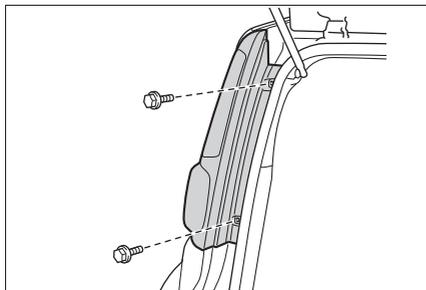
5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のピンと車両側の穴の位置を合わせて取り付けてください。

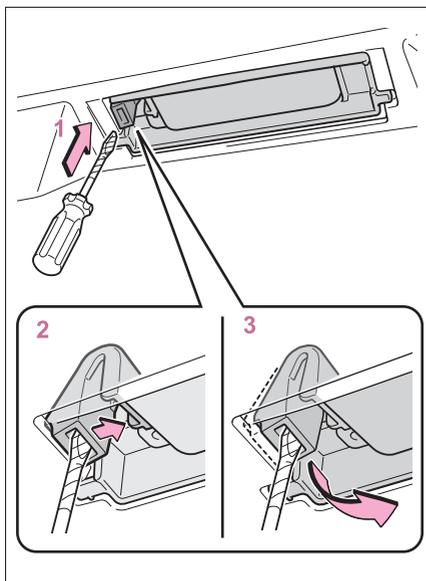


7 ボルト（2本）を取り付ける



■ 番号灯

1 レンズを取りはずす

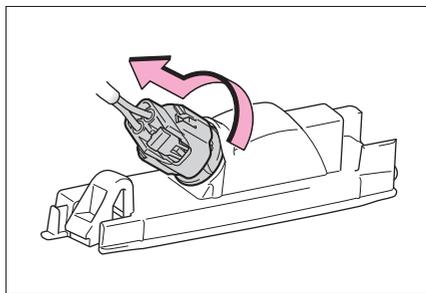


- 1 マイナスドライバーなどをカバーの穴に挿し込む
- 2 マイナスドライバーなどを図の矢印の方向に移動させ、ロックを解除する
- 3 図の矢印の方向にマイナスドライバーなどを引きカバーを取りはずす

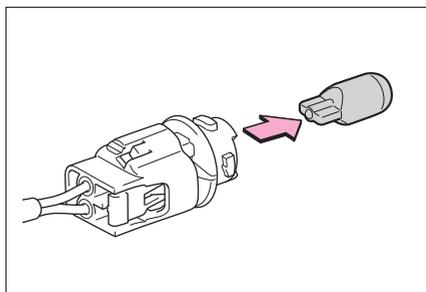
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなど

を巻いて保護してください。

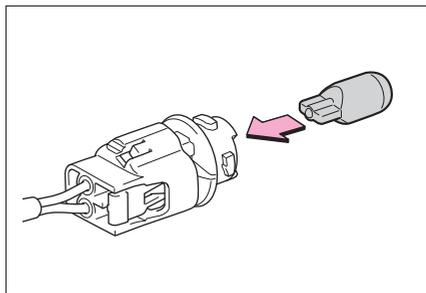
2 ソケットをまわして取りはずす



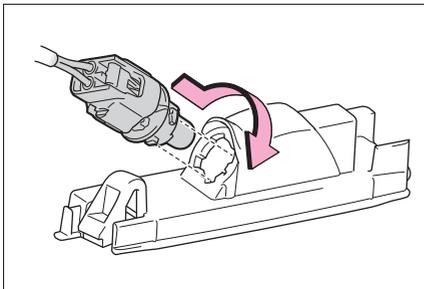
3 電球を取りはずす



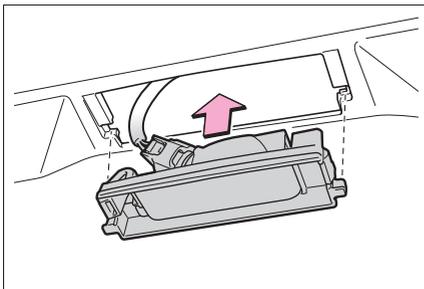
4 新しい電球を取り付ける

5 ソケットをまわして取り付ける
取り付け部とソケットのツメを合わせて

押し込み、まわして固定します。



6 レンズを取り付ける



警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して行ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

8-1. まず初めに

故障したときは	202
非常点滅灯（ハザードランプ）	202
発炎筒	203
車両を緊急停止するには	204
水没・冠水したときは	205

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	206
警告灯がついたときは	210
パンクしたときは	217
EV システムが始動できないときは	228
キーをなくしたときは	229
電子キーが正常に働かないときは （スマートエントリー&スタートシ ステム装着車）	230
補機バッテリーがあがったときは	232
スタックしたときは	235

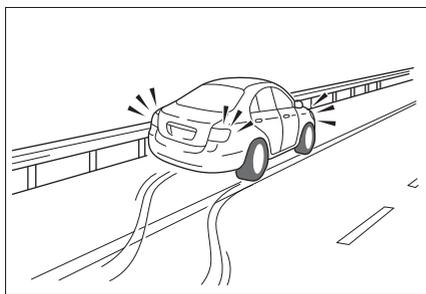
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.202）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



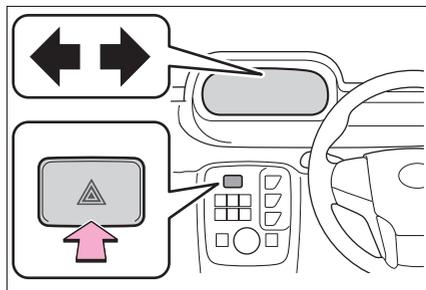
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■ 非常点滅灯について

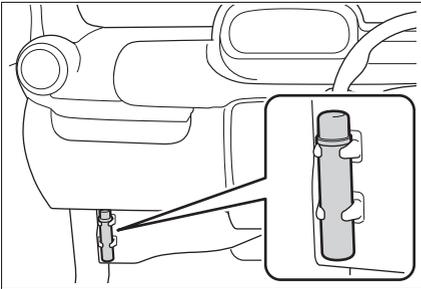
EV システム停止中（READY インジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

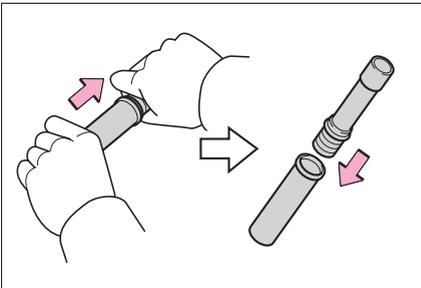
踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



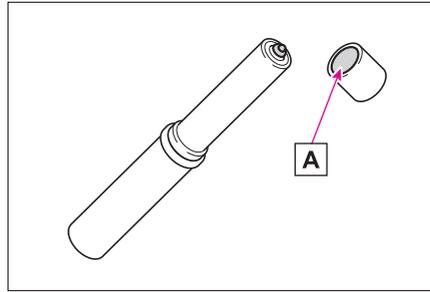
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
 煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
 お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

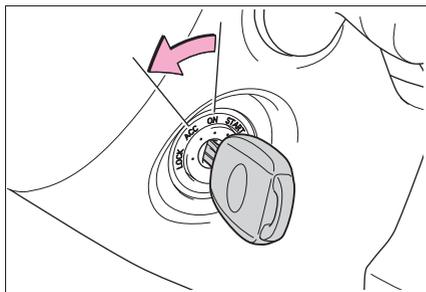
車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

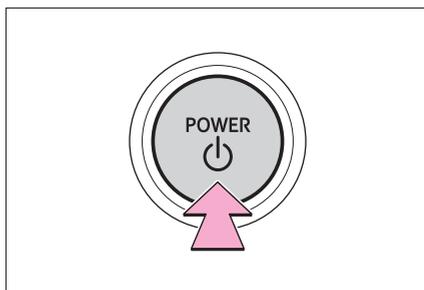
- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
- 2 シフトポジションを N にする
 - ▶ シフトポジションが N になった場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 EV システムを停止する
 - ▶ シフトポジションが N にならない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 以下の方法で EV システムを停止してください
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

パワースイッチを ACC にする



- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押す



- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずEVシステムを停止するとき

- 車のコントロールがしにくくなり危険です。EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- 水没によりドアを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問合せください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

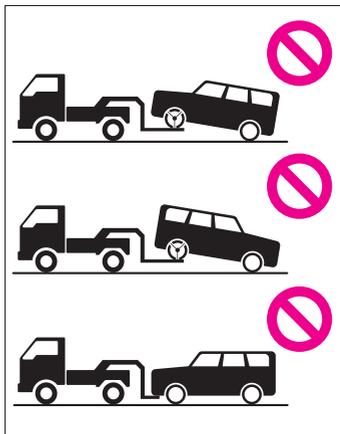
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きが変わり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

⚠ 注意

- ・ 前進方向でけん引する
- ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

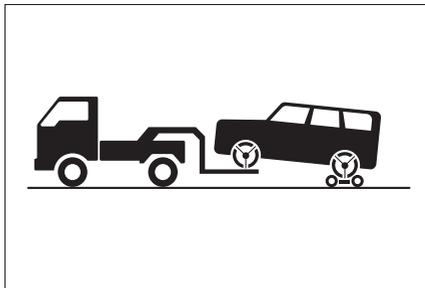
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

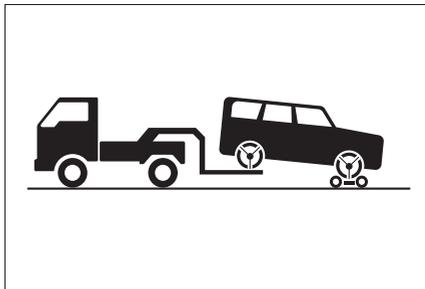
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- EV システム異常警告灯が点灯し、車が動かない
- 異常な音がある

レッカー車でけん引するとき**▶ 前向きにけん引するときは**

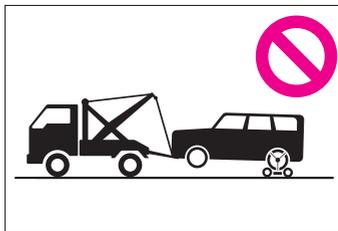
台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

台車を使用して前輪を持ち上げる

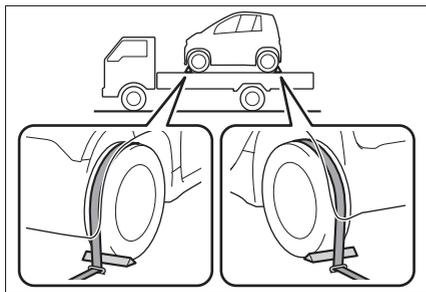
⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

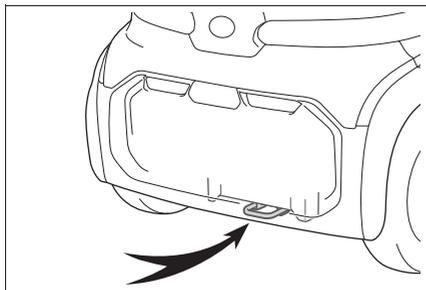
車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチをOFFにしてください。



他車にけん引してもらうとき

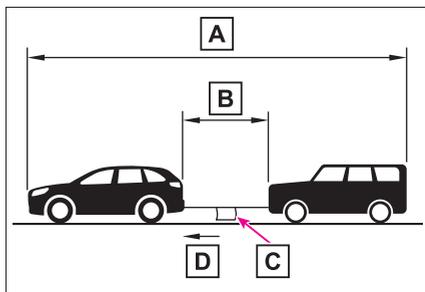
- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



- 2 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 3 運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動する

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

- 4 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

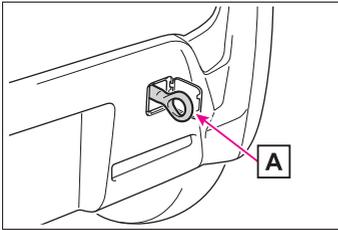
EV システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



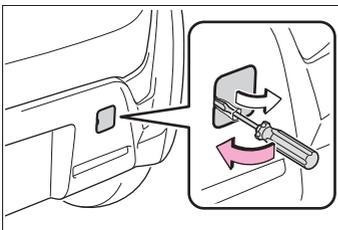
A 緊急用フック

■ 緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲッジルーム内のけん引フックを取り出す (→P.219)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 マイナスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<ul style="list-style-type: none"> ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ 出力制限警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>EV システムの出力制限表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●EV システムの過熱 <p>→ 安全な場所に停車し、EV システムを停止する。5分以上経過したあとでEV システムを始動し、メーターを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●駆動用電池の温度が低いことを示します <p>→ 駆動用電池を充電してください。(→P.66)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●駆動用電池の残りの充電量がほとんどなくなる <p>→ 駆動用電池を充電してください。(→P.66)</p>

■ EV システム過熱警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>EV システムの過熱</p> <p>→ 安全な場所に停車し、EV システムを停止する。5 分以上経過したあとで EV システムを始動し、メーターを確認する。</p> <p>警告灯が消えない場合： EV システムを停止してトヨタ販売店に連絡する。</p> <p>警告灯が消えている場合： EV システムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、ひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。</p>

■ 補機バッテリー充電警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 <p>(点滅または点灯)</p>	<p>充電システムの異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ EV システム異常警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>EV システムの異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

■ ペダル誤操作警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ 半ドア警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める

※ 半ドア走行時警告ブザー：

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■ LED ヘッドランプ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 駆動用電池残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	駆動用電池の残量が低下した → 駆動用電池を充電する

■ 充電コネクタ接続表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	● 充電コネクタ接続中に始動操作をした ● READY インジケータが点灯しているときに充電コネクタを接続した → 充電コネクタを抜いてください。

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ スマートエントリー&スタートシステム表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色点滅)	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートエントリー&スタートシステムの異常 ●ステアリングロックシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → 汚れや付着物を取り除いてください。

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → 汚れや付着物を取り除いてください。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合：</p> <p>ブリクラッシュセーフティの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合：</p> <p>次の原因などによりブリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方センサー周囲のフロントウインドウガラスに汚れ（くもり、結露、凍結などを含む）や付着物がある <p>→ 汚れや付着物を取り除いてください。（→P.139）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方センサー温度が作動範囲外 <p>→ センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。</p> <p>ブリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システム異常によって停止しているときも点灯します。</p>

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ● TRC（トラクションコントロール）システムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合：</p> <p>パーキングブレーキがかかっていない状態で、EV システムを停止する</p> <p>パーキングブレーキがかかっていない状態では、パワースイッチはACC になり、点滅します。</p> <p>→ パーキングブレーキを再度かけて、EV システムを停止してください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合：</p> <p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されている可能性がある</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p> <p>→ パーキングブレーキを再度かけてください。</p>

■ メンテナンス・点検警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期</p> <p>フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。</p> <p>→ トヨタ販売店で駆動用電池（冷却部品）のメンテナンスを受けてください。</p>

■ 車両接近通報装置異常警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>車両接近通報装置の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ 駆動用電池異常警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>駆動用電池の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ マスターウォーニング

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常 → 他の警告灯と共に点灯・点滅をします。他の警告灯の対処方法に従い、適切な処置を行ってください。

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
連続音	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 パワースイッチを OFF せずに運転席ドアを開け、電子キーを持ち出してドアを開めた → パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める → 電子キーを車内にもどす
1 回	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 パワースイッチが OFF または ACC 以外の状態で助手席のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす
9 回	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する
1 回	 (15 秒間緑色に速点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ステアリングロックが解除できなかった → ステアリングロックを解除する (→P.126)

□ 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、セン

サーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

⚠️ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。(→P.217)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠️ 警告

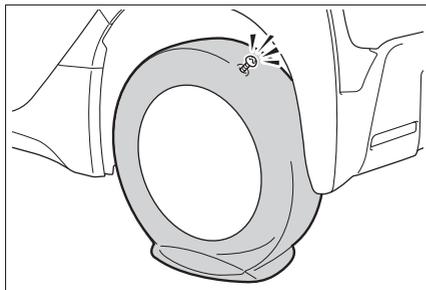
■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを N にする
- EV システムを停止する

- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.202)
- タイヤの損傷程度を確認する
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。
 - ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
 - ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき



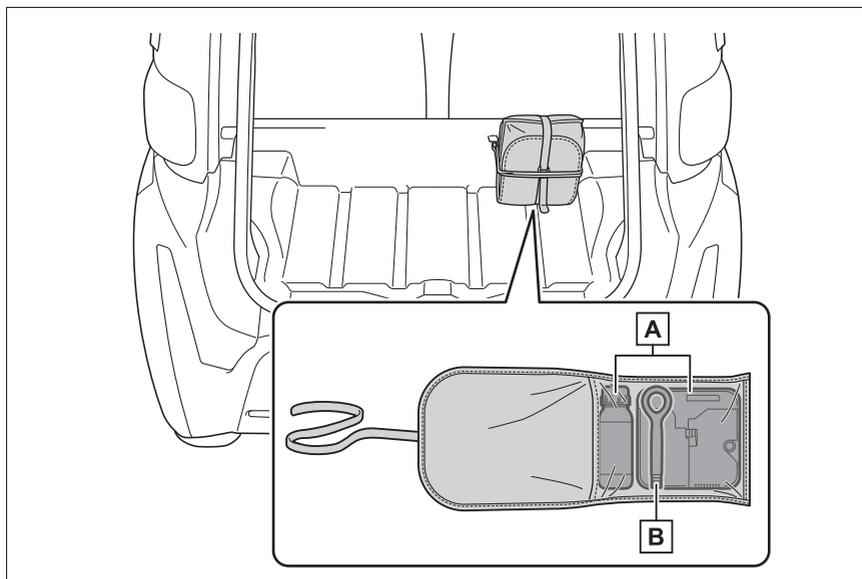
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

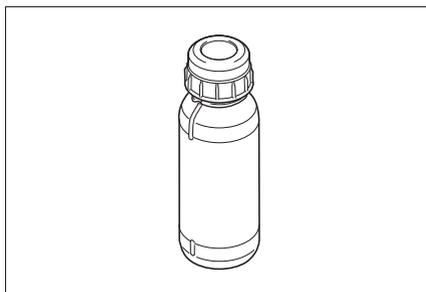


A タイヤパンク修理キット

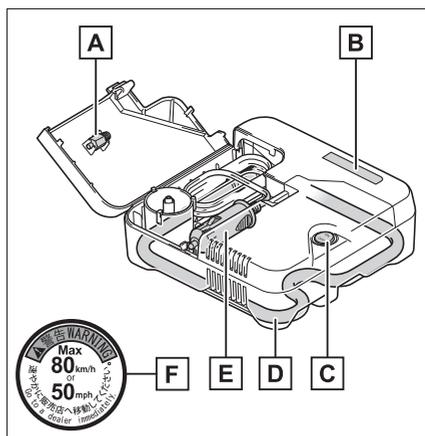
B けん引フック

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



▶ コンプレッサー



A 空気逃がしキャップ

B 空気圧計

C 電源スイッチ

D ホース

E 電源プラグ

F 速度制限ラベル

 知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
 - 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
 - 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
 - パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
 - パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
 - 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
 - タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- ### ■ 応急修理キットの点検について
- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
 - 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
 - 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店に

ご相談ください。

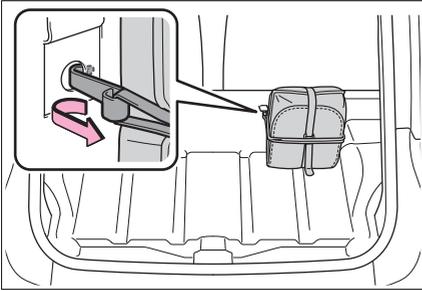
警告

■ 応急修理キットについて

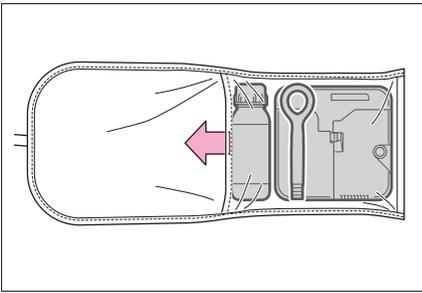
- 応急修理キットは指定の位置に常に収納してください。
- 急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- #### ■ パンク補修液について
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
 - もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

- 1 固定用バンドを取りはずす

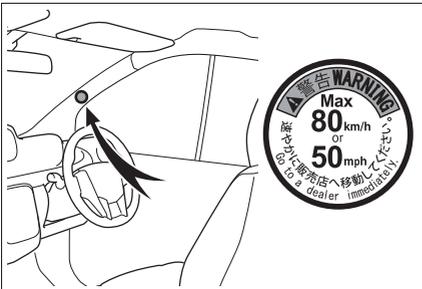


- 2 応急修理キットを取り出す
(→P.219)

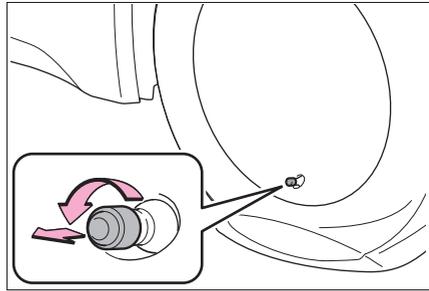


応急修理するときは

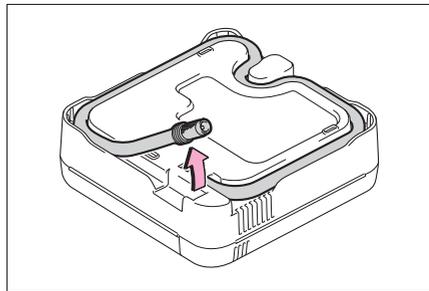
- 1 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

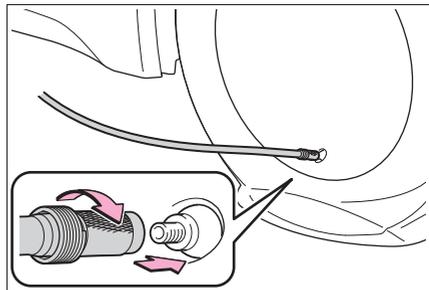


- 3 コンプレッサーからホースを取りはずす

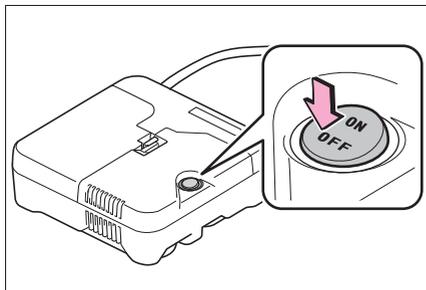


- 4 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

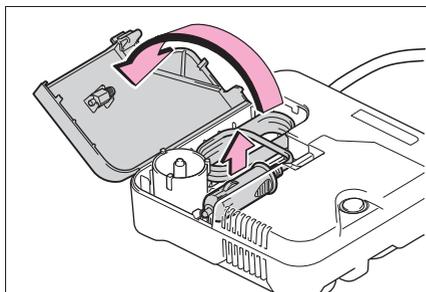
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



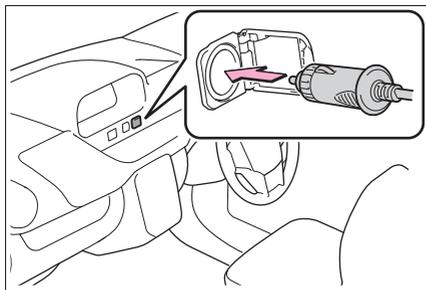
- 5** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



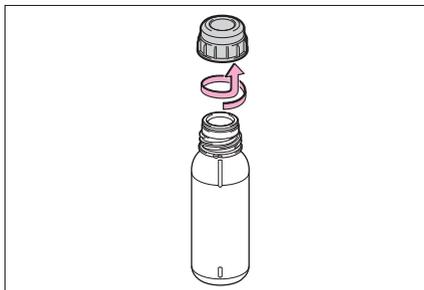
- 6** カバーを開けて、コンプレッサーから電源プラグを取りはずす



- 7** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→P.169)

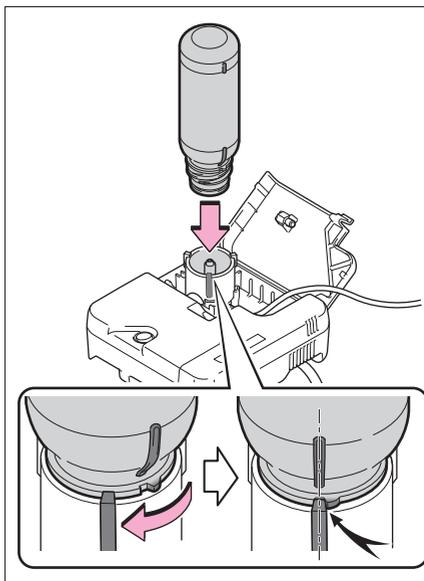


- 8** ボトルからキャップを取りはずす



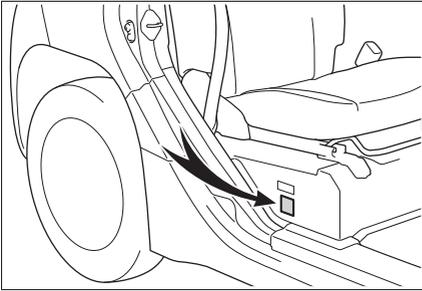
- 9** ボトルをコンプレッサーに接続する

時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



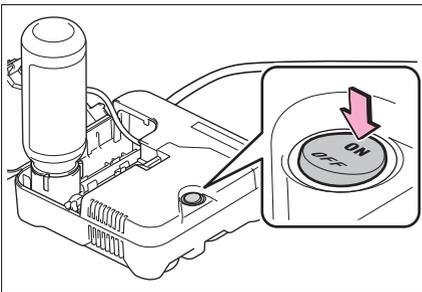
- 10** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.185)

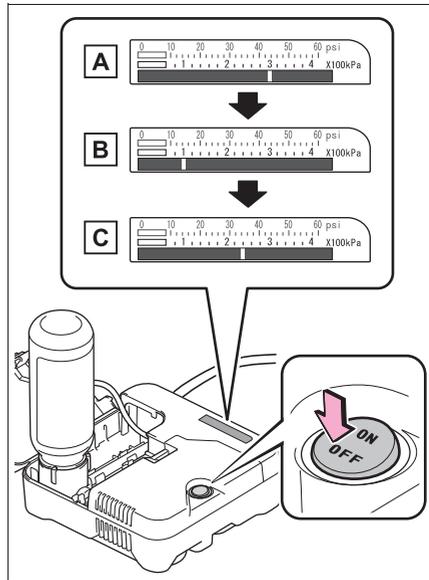


11 EV システムを始動する
(→P.123, 125)

12 コンプレッサーのスイッチを
ON にし、パンク補修液と空気を
充填する



13 空気圧が指定空気圧になるまで
空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

C 指定空気圧になるまで充填する
空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ

販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.225)

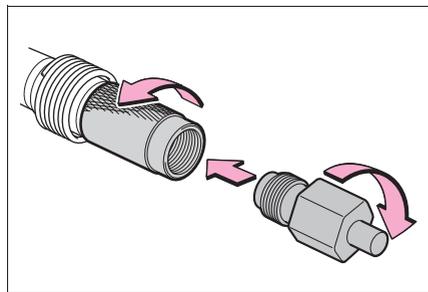
14コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



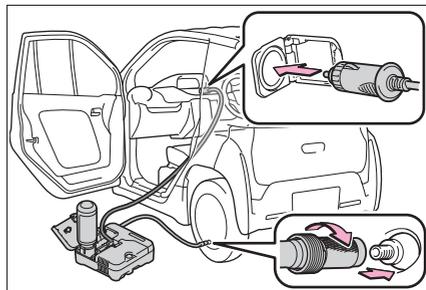
17いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

18タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

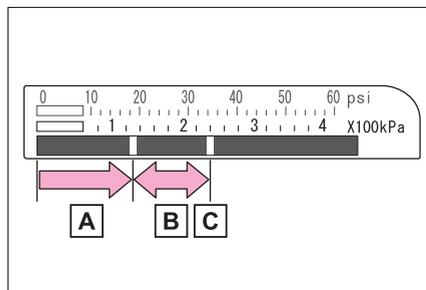
19走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



20コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/

cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa (1.3kg/

cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 21 へ

C 空気圧が指定空気圧

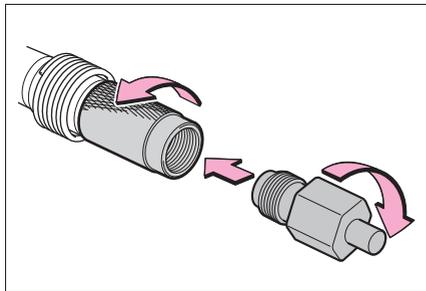
(→P.239) の場合：手順 22 へ

21コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後

にあらためて手順 19 から実施する

22 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

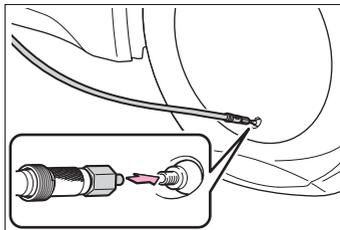
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす

- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて
応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

● 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

● 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

● タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

● 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

● 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

● 作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

● 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFFにし、修理を中止してください

● 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。

● 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

● 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

● 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

● 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

 **警告**

- ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
- ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

EV システムが始動できないときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しい EV システムの始動方法 (→P.123, 125) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。(→P.64)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.230)
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電して下さい。(→P.61)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.35)
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV シ

ステムを一時的な処置で始動することができます。(→P.228)

- 外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合 (→P.42)

ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.232)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.232)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の手順で EV システムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 パワースイッチを ACC にする
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.106）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EVシステムを始動したりすることができます。

知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.240）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.106）

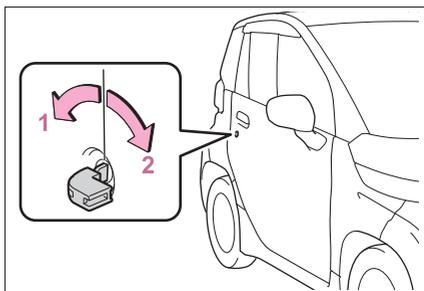
⚠ 注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P.99）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



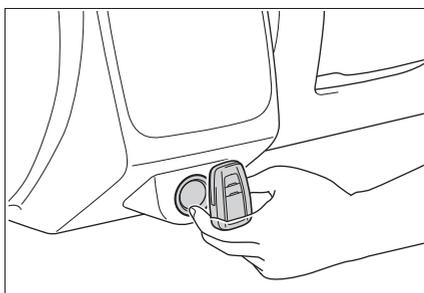
- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠

EVシステム始動の方法

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■EV システム停止方法

通常のEVシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているEVシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.191)

■モードの切りかえ

EVシステム始動方法の手順**3**で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EVシステムが始動せず、スイッチを押すことにモードが切りかわります。(→P.127)

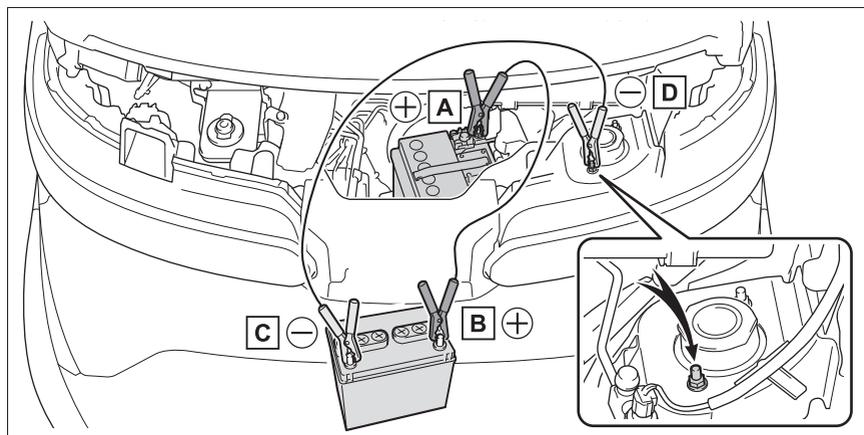
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でEVシステムを始動することができます。

EVシステムを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、EVシステムを始動させることができます。

- 1 ボンネットを取りはずす
(→P.181)
- 2 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ



A 補機バッテリーの+端子 (自車)

B バッテリーの+端子 (救援車)

C バッテリーの-端子 (救援車)

D 未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分)

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する

4 パワースイッチがOFFの状態ですずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONにしてからEVシステムを始動する

6 READYインジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

7 EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではまず

EV システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- EV システムが停止しているときは、ランプの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.241)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.181

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による

消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってEV システムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはEV システムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではEV システムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LNO)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (35Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (240A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近づけない

- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったたりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまを補機バッテリーに近づけない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションをNにして、EVシステムを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 EVシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトスイッチを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

- トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために
- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（フルード量など）..... **238**

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 **240**

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **241**

メンテナンスデータ（フルード量など）

使用するフルードや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正フルード・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください



注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	97

※ EV システムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ※数	5～7

※ ノッチ数とは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
1.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
155/70R13 75S	13 × 4.00B	210 (2.1)	210 (2.1)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	電動機型式	駆動方式
RMV12	1RM	RR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→P.105)

機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.141)

機能の内容	初期設定	変更後
プリクラッシュセーフティ	あり	なし

■ クリアランスソナー (→P.149)

機能の内容	初期設定	変更後
クリアランスソナー機能	あり	なし
ブザー音量	レベル2	レベル1
		レベル3

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.153)

機能の内容	初期設定	変更後
PKSB (パーキングサポートブレーキ)機能	あり	なし

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサ ポートブレーキ）	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再 接続時	P.156

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	244
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	246
アルファベット順さくいん.....	247
五十音順さくいん.....	248

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→P.229）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.229）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.191）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.98, 106）

故障かな？と思ったら



EVシステムが始動できない （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- ステアリングロックされていますか？（→P.123）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.232）



EVシステムが始動できない （スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.125）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.105）
- ステアリングロックされていますか？（→P.126）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.191）

このときは、一時的な方法でEVシステムを始動することができます。（→P.230）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.232）



EVシステムを停止したあとに ハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：盗難防止のため、キーをパワースイッチから抜くとロックされます。（→P.124）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.126）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.246）をご確認ください。

**警告灯が表示されたとき**

- 警告灯が表示されたときは、P.210 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.217）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.235）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
EVシステムを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P.191
	パワースイッチにキーが挿してある★	P.124
EVシステムを停止しようとしたとき（停止できないとき）	パーキングブレーキがかかっている	P.215
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.105

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.101
	パーキングブレーキが解除されていない	P.130
	シートベルトを着用していない※	P.213
走行中	速度 70km/h 以上で走行している	P.117
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.141
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.149

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 164

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 159

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 159

EDR

(イベントデータレコーダー)6

EV

(電気自動車)38

FF

(フロントエンジンフロントドライ
ブ)239

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィッ
クス)31

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 132

PCS

(プリクラッシュセーフティ).. 141

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 153

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム)27

Toyota Safety Sense 137

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 141

TRC

(トラクションコントロール) 159,
235

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 159

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	232
アウターミラー（ドアミラー）	
格納のしかた.....	112
操作.....	112
アクセサリーコンセント.....	171
アクセサリーソケット.....	169
アクセサリーモード.....	124, 127
アラーム	
音さくいん.....	246
警告ブザー.....	210
アンチロックブレーキシステム（ABS）	159
警告灯.....	211
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	105

い

EV システム.....	38
運転のアドバイス.....	45
回生ブレーキ.....	38
緊急始動機能.....	228
緊急時の停止方法.....	204
緊急停止システム.....	44
警告灯.....	211
高電圧部位.....	41
サービスプラグ.....	41
事故が発生したとき.....	43
始動できないときは.....	228
始動方法.....	123, 125
車両接近通報装置.....	40
注意.....	41
電気モーター.....	38

電欠になったとき.....	45
特徴.....	38
特有の音と振動.....	39
パワー（イグニッション）スイッチ.....	123, 125
普通充電のしかた.....	66
補機バッテリーがあがった.....	232
メンテナンス・修理・廃車するとき.....	40
位置交換（タイヤローテーション）.....	186
イベントデータレコーダー（EDR）.....	6
イモビライザーシステム.....	35
インジケーター（表示灯）.....	89
エラーインジケーター.....	53
充電インジケーター（普通充電ケーブル）	53
電源インジケーター.....	53
普通充電インジケーター.....	49
普通充電ケーブル.....	53
インナーミラー.....	111

う

ヴィークルパワーコネクタ.....	76
ウインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換.....	196
方向指示レバー.....	129
ワット数.....	239
ウインドウ	
ウォッシャー.....	135
ウォッシャー.....	135
液の補給.....	184
スイッチ.....	135
タンク容量.....	239
冬の前の準備・点検.....	161
動けなくなったときは（スタック）.....	235

運転

雨の日の運転.....	117
運転を補助する装置.....	159
寒冷時の運転.....	161
走行可能距離.....	46
正しい運転姿勢.....	21
手順.....	116
電気自動車運転のアドバイス.....	45
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	213

え**エアコン**

曇り取り（フロントガラス）.....	164
マニュアルクーラー.....	164

エアバッグ.....27

SRS エアバッグ警告灯.....	211
改造・廃棄.....	29
作動条件.....	27
正しい姿勢.....	21
配置.....	27

AC 外部給電システム.....75

給電方法.....	78
正常に給電できないときは.....	85

お**オープナー**

バックドア.....	104
------------	-----

お子さまを乗せるとき.....31

お子さまの安全のために.....	31
キーの電池.....	193
シートヒーターに関する警告.....	166
シートベルトの着用.....	23, 24
充電に関する警告.....	64

チャイルドシート.....	31
チャイルドシートの取り付け.....	31
ドアガラスに関する警告.....	114
発炎筒の取り扱いに関する警告.....	203
バッテリーに関する警告.....	234

か**カーペット**

洗浄.....	179
フロアマットの取り付け方.....	20

回生ブレーキ.....39**外装の電球（バルブ）**.....195

交換要領.....	195
ワット数.....	239

カスタマイズ機能.....240**型式**.....239**カップホルダー**.....167**カメラ**

前方カメラ（PCS）.....	137
-----------------	-----

ガレージジャッキ.....183**冠水路走行**.....121**寒冷時の運転**.....161**き****キー**.....96

EV システムが始動できない.....	228
キーナンバープレート.....	96
キーの構成.....	96
キーレスエントリー.....	98
キーをなくした.....	229
正常に動かない.....	230
施錠・解錠ができない.....	230

電子キー	96
電池が切れた.....	191
メカニカルキー.....	99
ワイヤレスリモコン.....	98
キーレスエントリー	
ワイヤレスドアロック.....	98
緊急時シートベルト固定機構.....	24
緊急始動機能 (EV システム).....	228
緊急時の対処	
EV システムが始動できない.....	228
キーの電池が切れた.....	191, 230
キーをなくした.....	229
警告灯がついた.....	210
けん引.....	206
故障したときは.....	202
車両を緊急停止する.....	204
水没したときは.....	205
スタックした.....	235
電子キーが正常に働かない.....	230
発炎筒.....	203
パンクした.....	217
補機バッテリーがあがった.....	232
緊急停止システム.....	44



空気圧 (タイヤ).....	239
メンテナンスデータ.....	239
クーラー.....	164
駆動用電池	
駆動用電池残量計.....	91
充電について.....	48
電池残量警告灯.....	212
搭載位置.....	38

曇り取り	
熱線式ウインドシールドデフロスター.....	164
フロントガラス.....	164
クラクション (ホーン).....	110
クリアランスソナー.....	149
警告灯.....	213
操作.....	149
クリアランスランプ (車幅灯).....	132
スイッチ.....	132
電球 (バルブ) の交換.....	196
クリップ	
フロアマット.....	20

け

警音器 (ホーン).....	110
計器類 (メーター).....	91
警告灯.....	210
EV システム異常.....	211
EV システム過熱.....	211
ABS & ブレーキアシスト.....	211
SRS エアバッグ.....	211
LED ヘッドランプ.....	212
回生ブレーキ.....	210
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	213
シートベルト非着用.....	213
車両接近通報装置異常.....	215
車両停止要求.....	215
充電.....	211
出力制限.....	210
スマートエントリー & スタートシステム表示灯.....	213

スリップ表示灯.....	214
電子制御ブレーキシステム (ECB).....	210
電池残量.....	212
パーキングブレーキ表示灯.....	215
半ドア.....	212
PKSB OFF 表示灯.....	213
PCS.....	214
ブレーキ.....	210
ブレーキオーバーライドシステム.....	212
メンテナンス・点検.....	215
警告ブザー	
EV システム異常.....	211
EV システム過熱.....	211
クリアランスソナー.....	213
シートベルト非着用.....	213
充電.....	211
出力制限.....	210
衝突警報.....	141
スマートエントリー & スタートシステム表示灯.....	213
半ドア.....	212
半ドア走行時.....	101
PKSB (パーキングサポートブレーキ).....	213
ブリクラッシュセーフティ.....	214
ブリクラッシュブレーキ.....	141
ブレーキ.....	210
ブレーキオーバーライドシステム.....	212
リバース.....	128
警告ラベル (EV システム).....	41
けん引フック	
搭載位置.....	219

こ

交換

キーの電池.....	191
タイヤ.....	187
電球 (バルブ).....	195
ヒューズ.....	194
航続可能距離.....	92
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換.....	196
ワット数.....	239
高電圧部位.....	41
コンライト (自動点灯・消灯装置).....	132

さ

サービスプラグ.....	41
サイド方向指示灯.....	129
電球 (バルブ) の交換.....	196
方向指示レバー.....	129
サイドミラー (ドアミラー)	
格納のしかた.....	112
操作.....	112
サンバイザー.....	170

し

シート.....	109
正しい運転姿勢.....	21
チャイルドシート.....	31
調整.....	109
手入れ.....	179
シートヒーター.....	166

シートベルト.....	23	車両を緊急停止するには.....	204
お子さまの着用.....	23, 24	充電	
緊急時シートベルト固定機構.....	24	車載充電器.....	69
シートベルトガイド.....	25	充電時間の目安.....	62
正しく着用するには.....	24	充電装備.....	48
着け方・はずし方.....	24	充電に関するアドバイス.....	63
手入れ.....	179	充電に関する警告.....	68
妊娠中の方の着用.....	23	充電のしかた.....	66
非着用警告灯.....	213	充電リッドの開閉.....	48
シートベルト非着用警告灯.....	213	正常に充電できない.....	72
シートベルトプリテンショナー		電源について.....	57
機能.....	26	電源に関する警告.....	60
プリテンショナー警告灯.....	211	普通充電.....	66
事故が発生したとき（EV システムの注		普通充電ケーブル.....	50
意）.....	43	充電ケーブル（普通充電ケーブル）	
始動のしかた.....	123, 125	安全機能.....	52
シフトスイッチ.....	128	インジケーター.....	53
シフトポジションの切りかえ.....	129	コントロールユニット.....	52
操作.....	128	充電ケーブルに関する警告.....	50
リバース警告ブザー.....	128	手入れ.....	56
シフトポジション.....	128	電源プラグコードの交換.....	54
ジャッキ		充電ポート	
ガレージジャッキ.....	183	AC 外部給電システム.....	75
車幅灯		充電リッドの開閉.....	48
電球（バルブ）の交換.....	196	普通充電リッド.....	48
ランプスイッチ.....	132	充電用 USB 端子.....	169
車両型式.....	239	仕様（車両仕様）.....	238
車両仕様（スペック）.....	238	初期化.....	241
車両接近通報装置.....	40	初期設定.....	241
警告灯.....	215	助手席シートベルト非着用警告灯 ...	213

す

スイッチ

ウォッシャー.....	135
シートヒーター.....	166
シフトスイッチ.....	128
ドアミラー.....	112
ドアロック.....	101
熱線式ウインドシールドデフロスター.....	164
バックドアオープン.....	104
パワースイッチ.....	123, 125
方向指示レバー.....	129
ホーン（警音器）.....	110
メーター操作.....	92
ランプ.....	132
ワイパー.....	135
水没・冠水したときは.....	205
スタック.....	235
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整.....	110
ステアリングロック.....	123, 126
解除できないとき.....	123, 126
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....	161
スピードメーター.....	91
スペック（車両仕様）.....	238
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	105
アンテナの位置.....	105
EVシステムの始動.....	125
緊急始動機能.....	228

スマートエントリー&スタートシステム	
警告灯.....	213
スマートエントリー&スタートシステム	
警告灯.....	216
作動範囲.....	105
正常に働かないとき.....	230
電波がおよぼす影響について.....	107
スモールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換.....	196
ランプスイッチ.....	132
スリップ表示灯.....	159

せ

清掃.....	178, 179
ヴィークルパワーコネクタ.....	77
外装.....	178
シートベルト.....	179
内装.....	179
ホイールキャップ.....	178
レーダー.....	137
セキュリティインジケーター.....	35
センサー	
ライトセンサー.....	133
レーダー.....	137
洗車.....	178
前照灯（ヘッドランプ）.....	132
電球（バルブ）の交換.....	196
マニュアルレベリングシステム.....	134
ライトセンサー.....	133
ランプ消し忘れ防止機能.....	133
ランプスイッチ.....	132
ワット数.....	239

そ

走行距離.....	92
速度計（スピードメーター）.....	91

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	129
電球（バルブ）の交換.....	196
方向指示レバー.....	129
ワット数.....	239
タイヤ.....	185
空気圧.....	190, 239
交換.....	187
チェーン.....	161
点検.....	185
パンク応急修理キット.....	217
パンクしたときは.....	217
冬用タイヤ.....	161
ホイールサイズ.....	239
ローテーション（位置交換）.....	186
タイヤが空まわりする（スタックした）	235
タイヤチェーン.....	161
タイヤパンク応急修理キット.....	217
搭載位置.....	219

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....	161
チャイルドシート.....	31
選択方法.....	31
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	130
操作.....	130
冬季の注意.....	161
パーキングブレーキ表示灯.....	215
未解除走行時警告ブザー.....	130
メンテナンスデータ.....	239

て

ディスプレイ ドライブインフォメーションディスプレイ	92
手入れ.....	178, 179
ヴィークルパワーコネクタ.....	77
外装.....	178
シートベルト.....	179
内装.....	179
普通充電ケーブル.....	56
ホイールキャップ.....	178
レーダー.....	137
テールランプ（尾灯）.....	132
電球（バルブ）の交換.....	196
ランプスイッチ.....	132
電気モーター.....	38
電球（バルブ） 交換要領（外装バルブ）.....	195, 196
ワット数.....	239

電欠になったとき	45
点検基準値 (メンテナンスデータ) .	238
電子キー	96
作動範囲	105
正常に働かないとき	230
節電機能	106
電池が切れた	230
電池交換	191
電池交換 (キー)	191
電費	92

と

ドア	100
ドア	
警告灯	212
ドア	
ドアガラス	114
ドアロックスイッチ	101
バックドア	102
ロックレバー	101
ワイヤレスリモコン	100
ドアミラー	
格納のしかた	112
操作	112
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	35
ドライブインフォメーションディスプレイ	92
トラクションコントロール (TRC) .	159
トランスミッション	
メンテナンスデータ	238
トリップメーター	92

な

内装

収納装備	167
手入れ	179

に

荷物

積むときの注意	121
バックドア	102

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	235
-----------------------	-----

ね

熱線式ウインドシールドデフロスター	164
-------------------------	-----

は

パーキングサポートブレーキ

警告灯	213
警告メッセージ	156
操作	154

パーキングサポートブレーキ (静止物)

.....	157
-------	-----

パーキングブレーキ	130
操作	130
冬季の注意	161
パーキングブレーキ表示灯	215
未解除走行時警告ブザー	130
メンテナンスデータ	239
ハイビーム (ヘッドランプ)	132
電球 (バルブ) の交換	196
ランプスイッチ	132
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	196
ハザードランプ (非常点滅灯)	202
電球 (バルブ) の交換	196, 197
ワット数	239
発炎筒	203
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	196
バックアップランプ (後退灯)	
ワット数	239
バックドアオープナー	104
バッテリー (駆動用電池)	
充電について	48
搭載位置	38
バッテリー (補機バッテリー)	
警告灯	211
サイズ	233
補機バッテリーがあがった	232
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	196
ワット数	239

パワースイッチ (イグニッションスイ チ)	
EV システム始動のしかた	123, 125
車両を緊急停止するには	204
モードの切りかえ	124, 127
パンクした	
タイヤパンク応急修理キット装着車	217
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
.....	132
電球 (バルブ) の交換	198
ランプスイッチ	132
ワット数	239
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	110

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	159
ヒーター	
シートヒーター	166
非常点滅灯 (ハザードランプ)	202
電球 (バルブ) の交換	196, 197
ワット数	239
尾灯 (テールランプ)	132
電球 (バルブ) の交換	196
ランプスイッチ	132
ヒューズ	194
表示切りかえボタン	92
表示灯	89
日よけ (サンバイザー)	170

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	232
フード (ボンネット)	181
開け方	181
ブザー	
パーキングブレーキ未解除走行時警告	130
半ドア走行時警告	101
リバース警告	128
普通充電ケーブル	
安全機能	52
インジケーター	53
コントロールユニット	52
充電ケーブルに関する警告	50
手入れ	56
電源プラグコードの交換	54
フック	
けん引フック	208
フロアマット固定フック	20
フューエルメーター	91
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	161
冬用タイヤ	161
ブリクラッシュセーフティ (PCS)	
機能	141
操作	143
PCS 警告灯	214
ブレーキ	
回生ブレーキ	38
警告灯	210
パーキングブレーキ	130
メンテナンスデータ	238

ブレーキアシスト	159
ブレーキフルード	238
フロアマット	20
フロント方向指示灯	129
電球 (バルブ) の交換	196
方向指示レバー	129
ワット数	239

へ

平均電費	92
ヘッドランプ	132
電球 (バルブ) の交換	196
マニュアルレベリングシステム	134
ライトセンサー	133
ランプ消し忘れ防止機能	133
ランプスイッチ	132

ほ

ホイール	
メンテナンスデータ	239
方向指示灯	129
電球 (バルブ) の交換	196
方向指示レバー	129
ワット数	239
ホーン (警音器)	110
補機バッテリー	
補機バッテリーがあがった	232
保証	7
ボンネット	181
開け方	181

ま

マニュアルクーラー 164

み

ミラー

アウターミラー 112

インナーミラー 111

ドアミラー 112

め

メーター

計器類 91

警告灯 210

照度調整 92

ドライブインフォメーションディスプレイ

..... 92

表示灯 89

メーター操作スイッチ 92

メーター照度調整 92

メカニカルキー 99

メンテナンスデータ 238

も

モーター（電気モーター） 38

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 240

雪道ですべて動けない（スタックした）
..... 235

油脂類 238

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）

..... 132

電球（バルブ）の交換 198

ランプスイッチ 132

ワット数 239

ラゲージルーム 102

ランプ

電球（バルブ）の交換 195

非常点滅灯（ハザードランプ） 202

ヘッドランプ（前照灯） 132

方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウイ
ンカー） 129

ライトセンサー 133

ランプ消し忘れ防止機能 133

ランプ消し忘れ防止機能 133

り

リヤ方向指示灯 129

電球（バルブ）の交換 196, 197

方向指示レバー 129

ワット数 239

る

ルームミラー（インナーミラー） 111

れ

レバー

方向指示 129

ろ

ロック

ドア 100

ワイヤレスリモコン 98

わ

ワイパー&ウォッシャー 135

ウォッシャー液の補充 184

ワイヤレスリモコン

作動の合図 100

操作 98

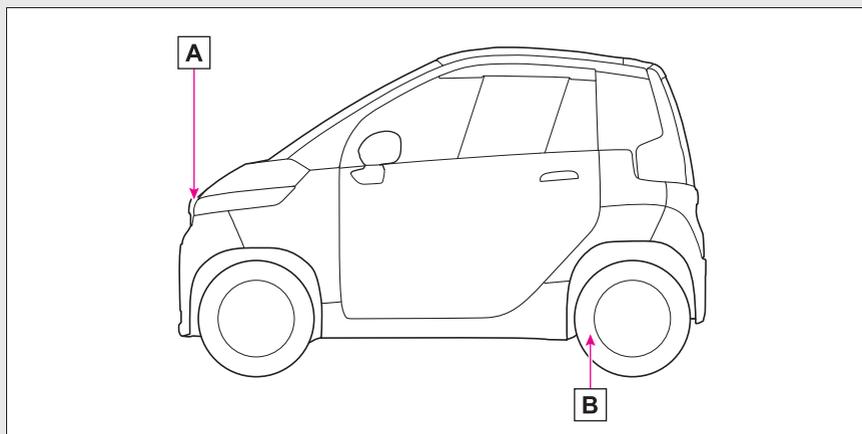
電池の交換 191

ワックス 178

ワット数 239

充電設備での情報

充電や点検などの際に必要な項目をまとめてあります。



A 充電リッド (→P.48)

B タイヤ空気圧 (→P.239)

充電方法	充電器 (スタンド)	普通充電ケーブル	
供給電圧／充電電流 ※ ¹	200V/16A	200V/16A	100V/6A
充電時間 ※ ²	約 5 時間	約 5 時間	約 16 時間
電池種類	リチウムイオン電池		
タイヤが冷えているときの空気圧	P.239		

※¹ 数値は最大値です。

※² 駆動用電池の残量・外気温・充電器 (スタンド) の仕様などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

